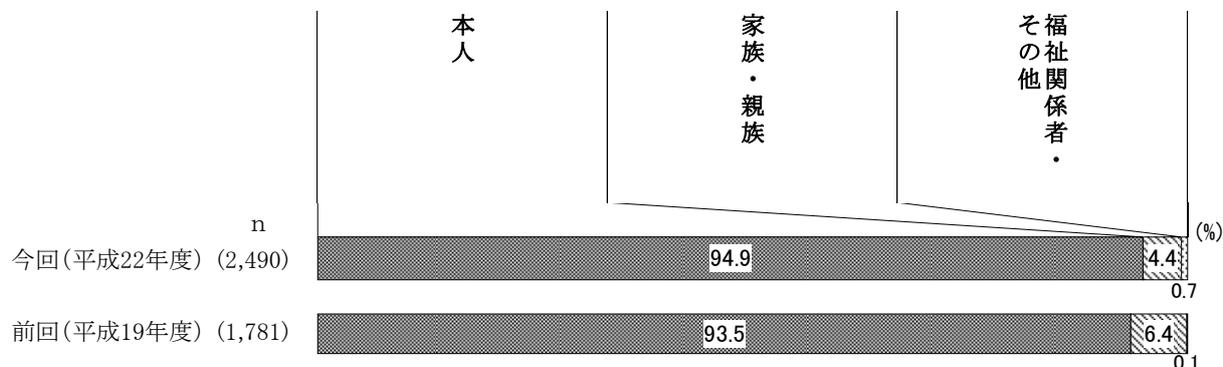


第2章 調査結果の詳細

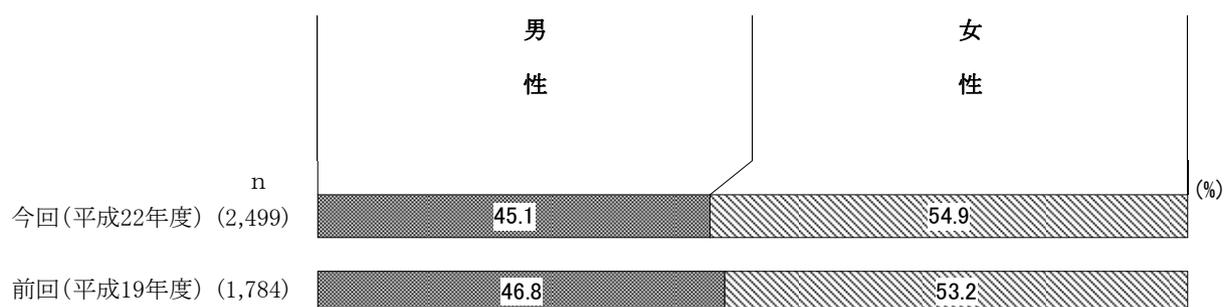
1. 回答者の属性

(1) 回答者の属性

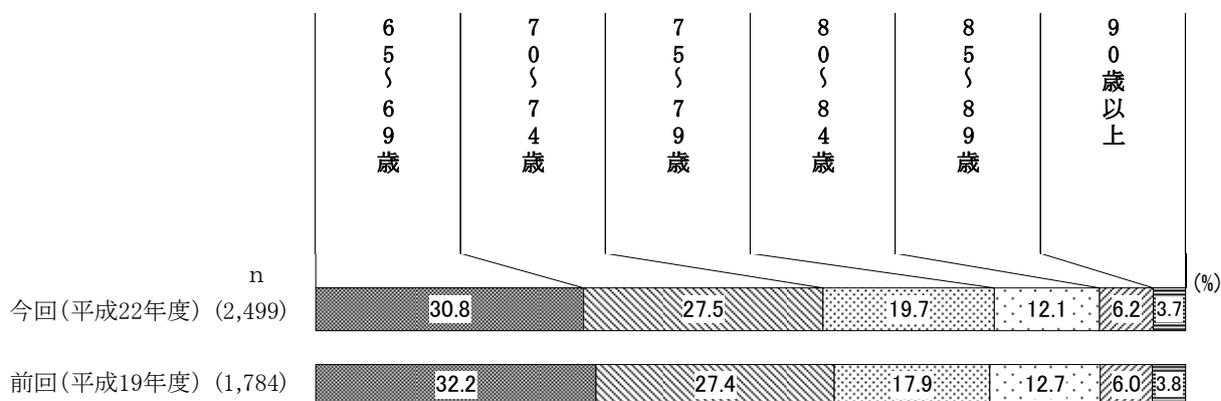
① 回答者



② 対象者（本人）の性別

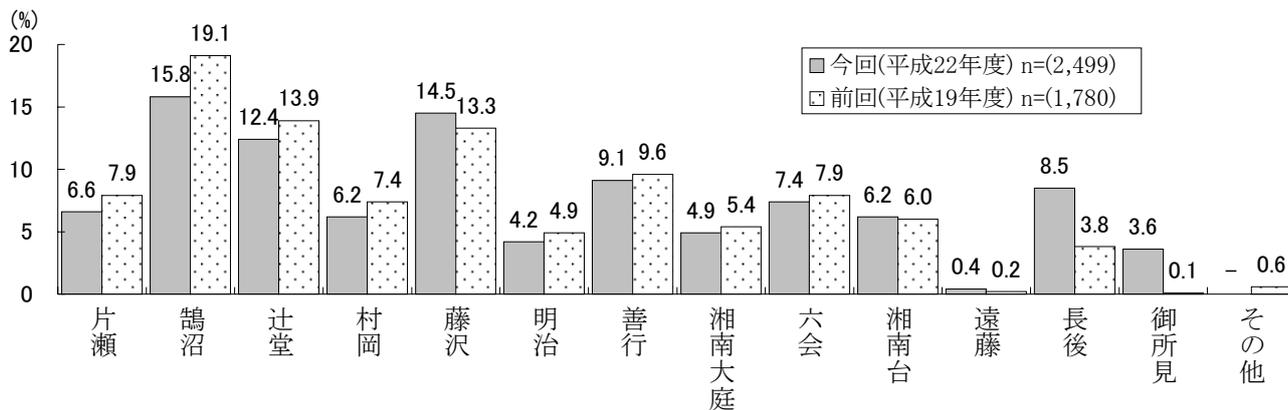


③ 対象者（本人）の年齢

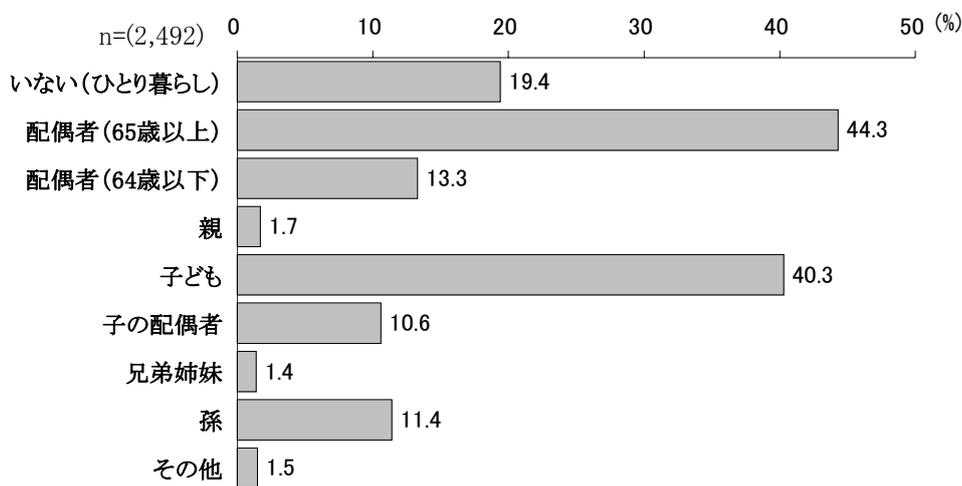


第2章 調査結果の詳細

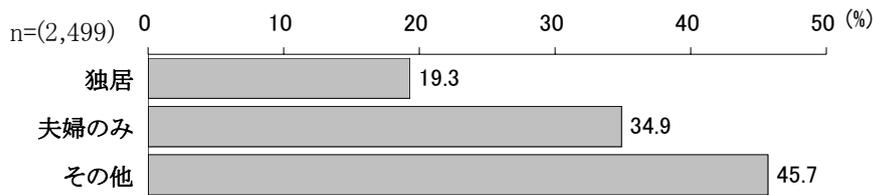
④ 対象者（本人）の居住地



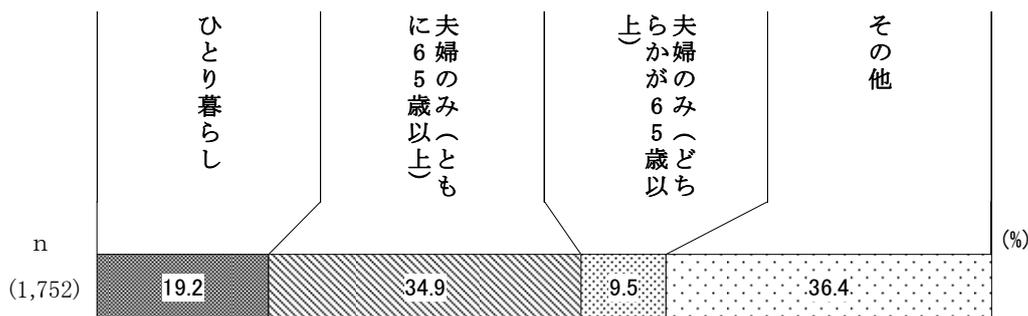
⑤ 対象者（本人）の同居家族（複数回答）



〔同居家族 3区分〕



◆参考◆前回（平成19年度） 家族構成

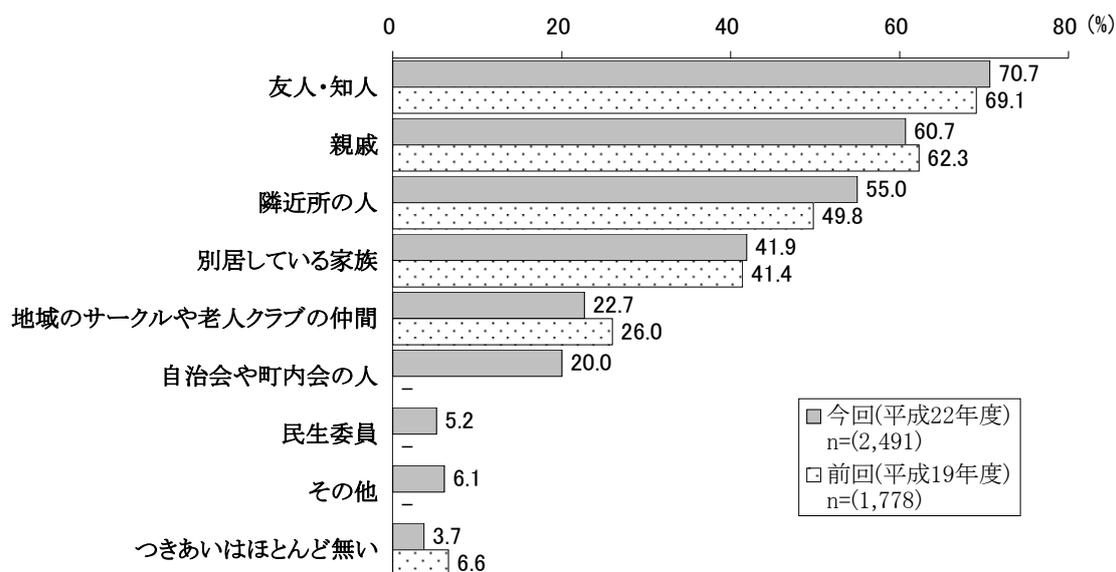


2. 同居家族以外での付き合いの状況について

(1) 付き合いのある人（複数回答）

問6 あなた(ご本人)は、普段、同居の家族以外でどのような方とお付き合いをしたり、連絡をとりあったりしていますか。(あてはまるものすべてに○)

付き合い先は、上位から「友人・知人」「親戚」「隣近所の人」の順



※「友人・知人」は前回（平成19年度）では、「友人」
「隣近所の人」は前回（平成19年度）では、「隣人」
「自治会や町内会の人」、「民生委員」、「その他」は今回（平成22年度）から

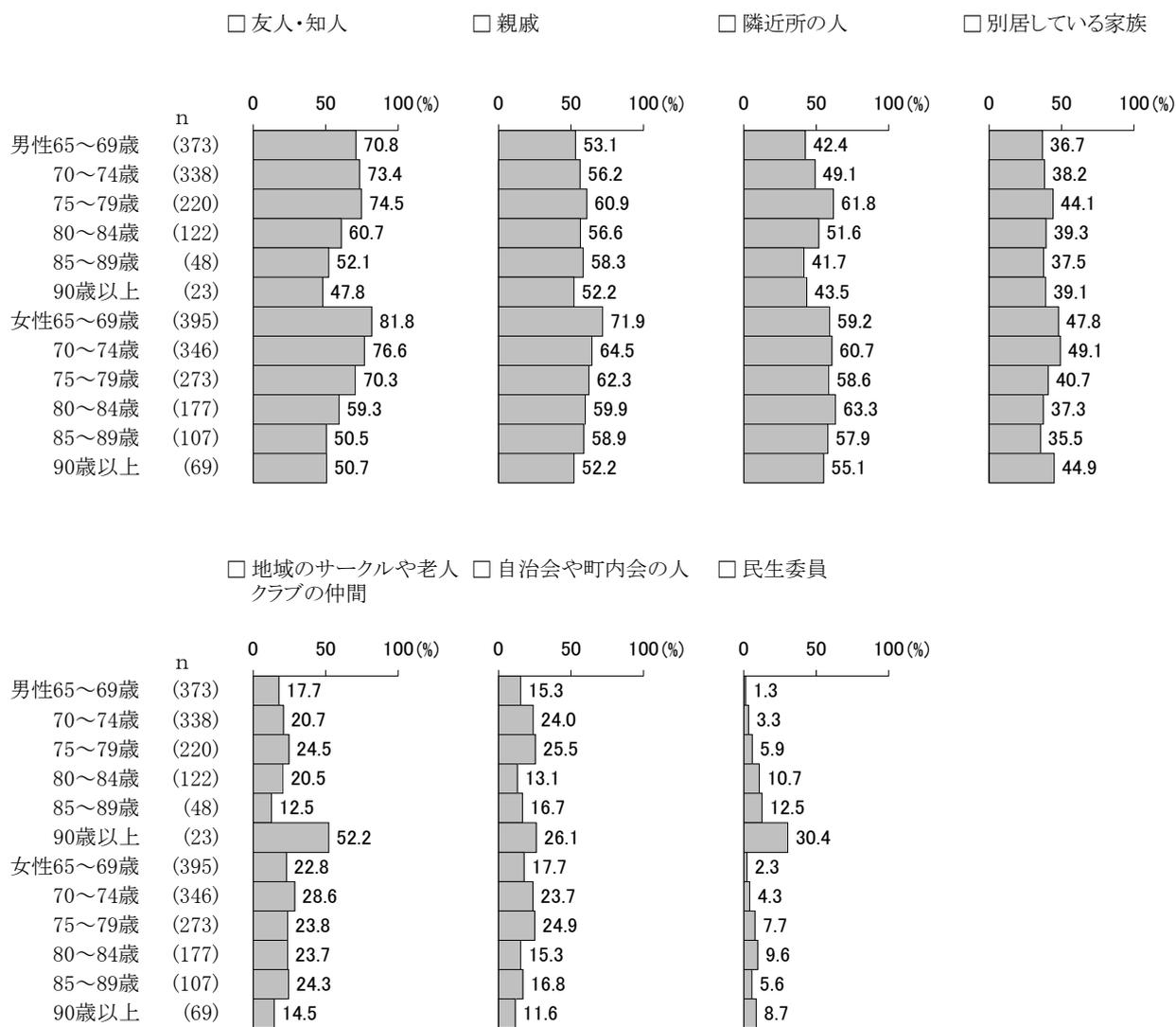
普段、同居の家族以外で付き合いや連絡をとりあう方は、「友人・知人」が70.7%で最も多く、以下、「親戚」(60.7%)、「隣近所の人」(55.0%)、「別居している家族」(41.9%)などが続いている。

前回（平成19年度）調査（以後、「前回調査」あるいは「前回」と言う）と比較すると、「隣近所の人」が前回（49.8%）より5ポイント増加した。

第2章 調査結果の詳細

性・年齢別にみると、男性の場合は、「友人・知人」「親戚」「隣近所の人」「別居している家族」「地域のサークルや老人クラブの仲間」「自治会や町内会の人」とも、70代後半までその割合は増加しており、75～79歳でピークを迎えている。一方、女性の場合は、「友人・知人」「親戚」とも、65～69歳でその割合が最多となり、年齢とともに減少する傾向がみられた。

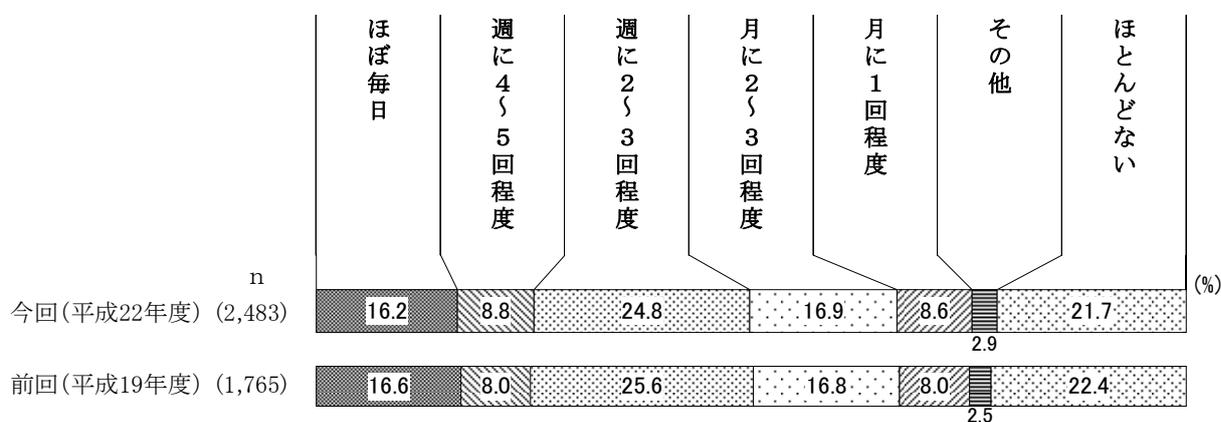
付き合いのある人（性・年齢別）



(2) 近所付き合いの程度

問7 あなた(ご本人)は、普段、近隣や地域の方とお付き合いする機会はどの程度ありますか。(1つに○)

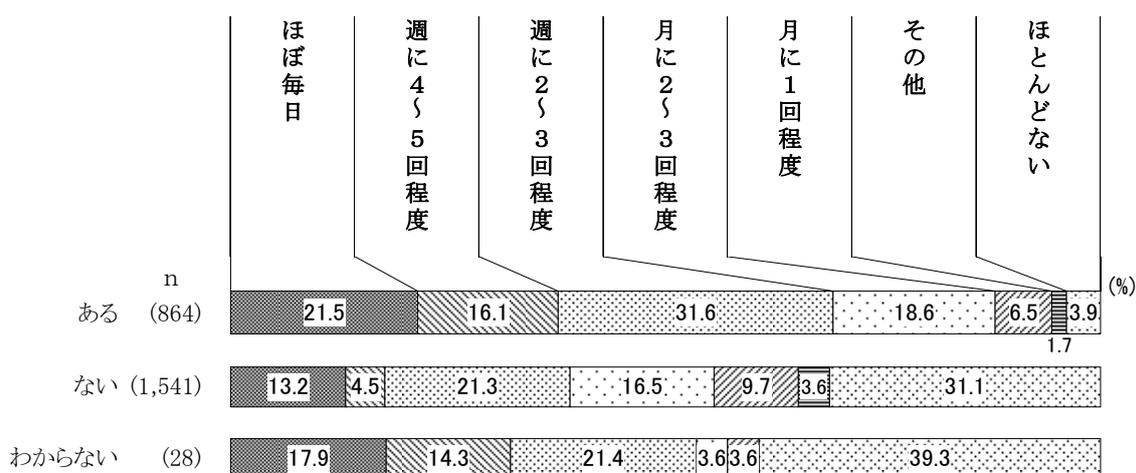
週に2回以上の付き合いが約半数だが、「ほとんどない」も2割強



普段、近隣や地域の方と付き合う機会は、「週に2〜3回程度」が24.8%で最も多く、「週に4〜5回程度」(8.8%)、「ほぼ毎日」(16.2%)をあわせると、週2回以上の付き合いは全体の約5割を占める。また、付き合う機会が「ほとんどない」は21.7%であった。

地域で参加している活動の有無別にみると、参加している活動が「ある」場合、週2回以上の付き合いは69.2%となっており、「ない」場合の約1.8倍であった。地域活動に参加している方のほうが、近所付き合いの程度も多いという傾向がみられた。

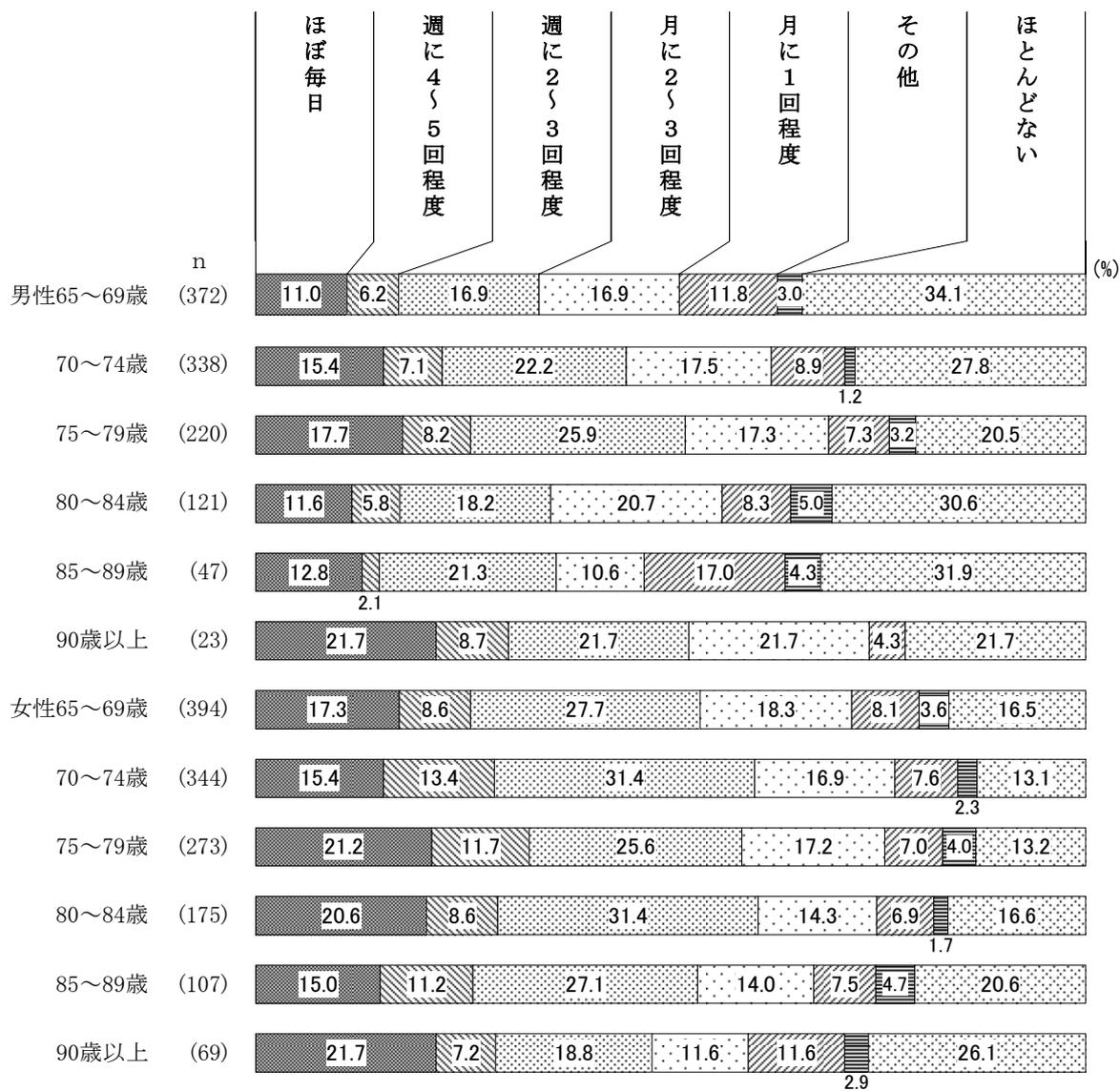
近所付き合いの程度 (地域で参加している活動の有無別)



第2章 調査結果の詳細

性・年齢別にみると、近所付き合いの程度は、全体的に女性のほうが多くなっている。

近所付き合いの頻度（性・年齢別）

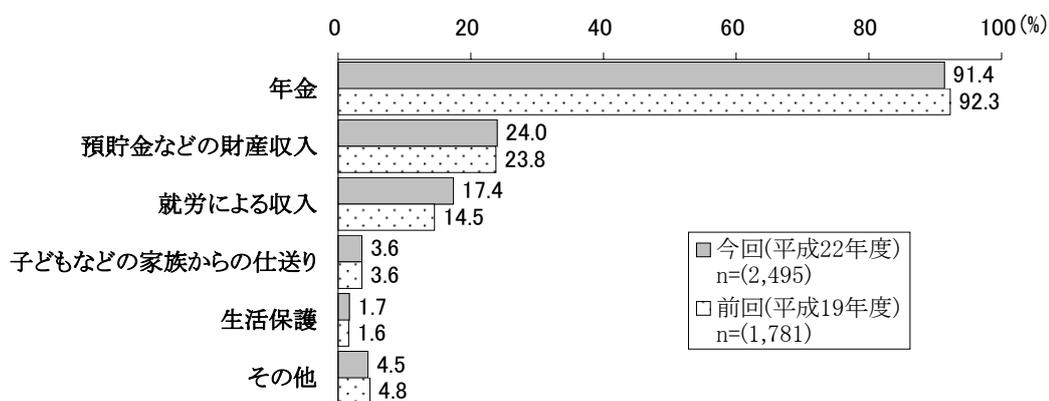


3. 現在の生活状況について

(1) 生計手段（複数回答）

問8 あなた（ご本人）の生計手段はどのようなものですか。（あてはまるものすべてに○）

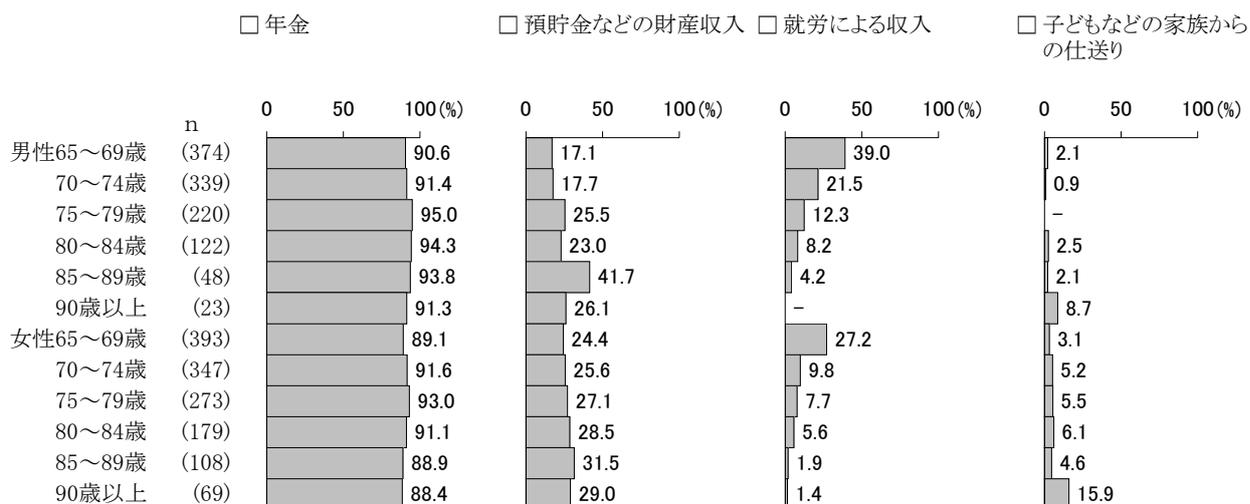
「年金」が9割強と特に多い



生計手段は、「年金」が91.4%と特に多く、以下、「預貯金などの財産収入」（24.0%）、「就労による収入」（17.4%）などが続いている。

性・年齢別にみると、「年金」は男女とも年齢を問わず、9割前後で圧倒的に多くなっている。次に多い「預貯金などの財産収入」は、男性85～89歳が41.7%、女性85～89歳が31.5%で最も多くなっている。

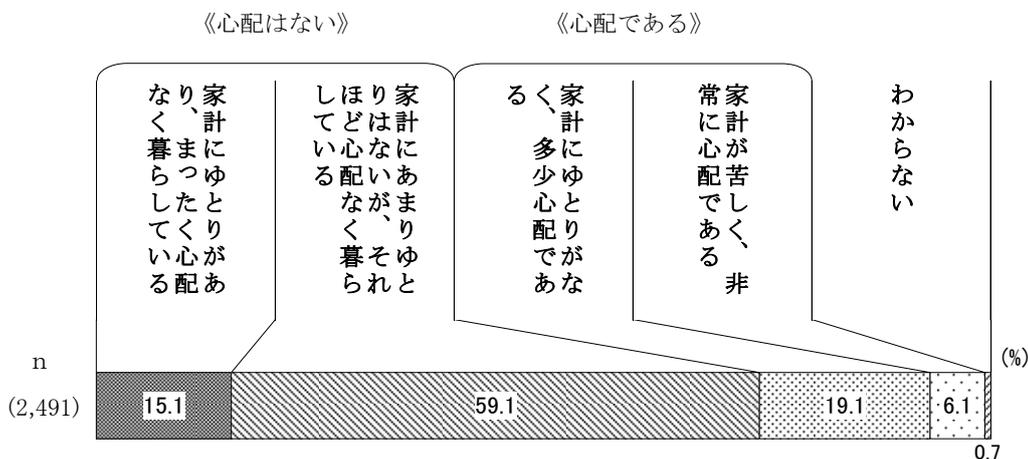
生計手段（性・年齢別（上位4項目））



(2) 暮らし向き

問9 あなた(ご本人)は、ご自分の現在の経済的な暮らし向きについて、どのようにお考えですか。(1つに○)

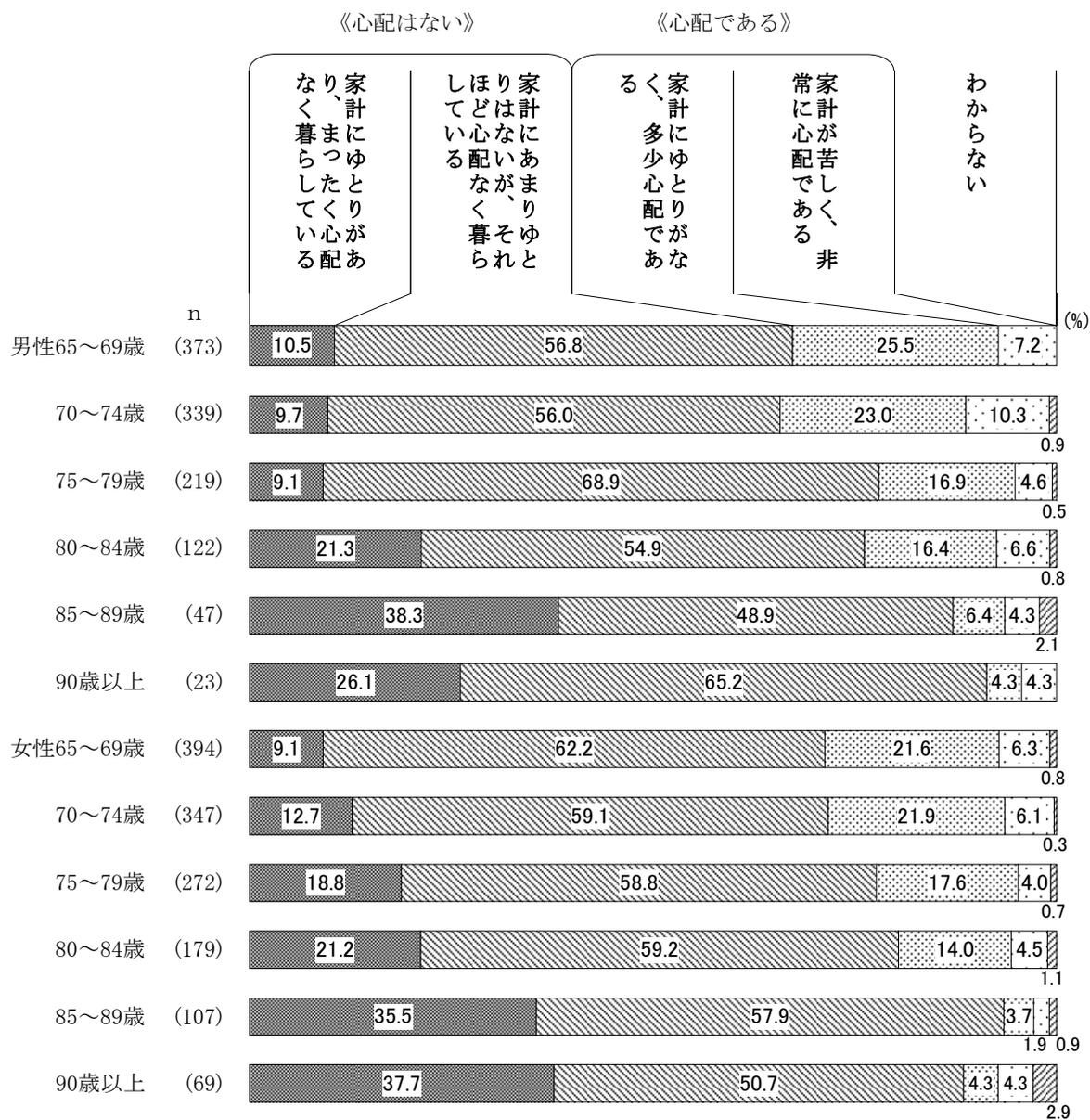
《心配はない》層が7割台半ば



現在の経済的な暮らし向きは、「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている」が59.1%で最も多く、これに「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている」(15.1%)をあわせると、《心配はない》層が全体の74.2%を占める。一方、《心配である》層(「家計にゆとりなく、多少心配である」+「家計が苦しく、非常に心配である」)は25.2%であった。

性・年齢別にみると、《心配はない》層は男女とも、年齢の高い層で割合が多くなる傾向がみられる。一方、《心配である》は男女とも74歳までの低年齢層で多くなっている。

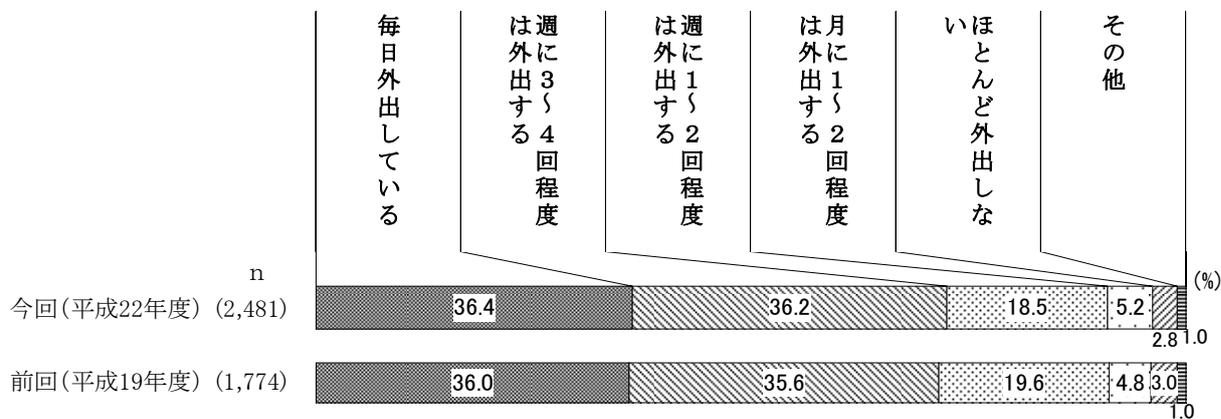
暮らし向き（性・年齢別）



(3) 外出頻度

問10 あなた(ご本人)は、普段、どの程度外出していますか。(1つに○)

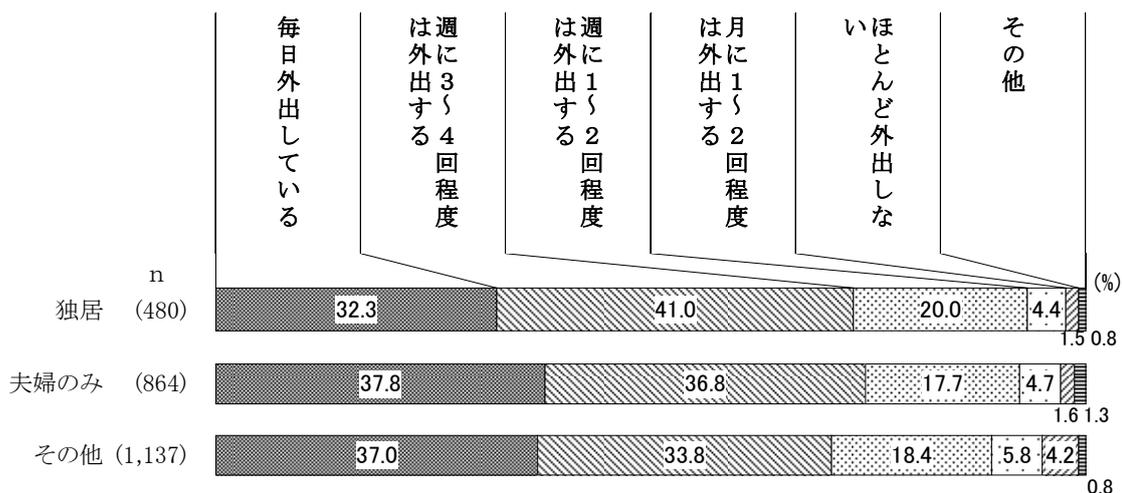
週1回以上外出している方は9割強



普段の外出頻度は、「毎日外出している」(36.4%)、「週に3~4回程度は外出する」(36.2%)が多くなっており、「週に1~2回程度は外出する」(18.5%)をあわせると、週1回以上外出している方は全体の91.1%を占める。

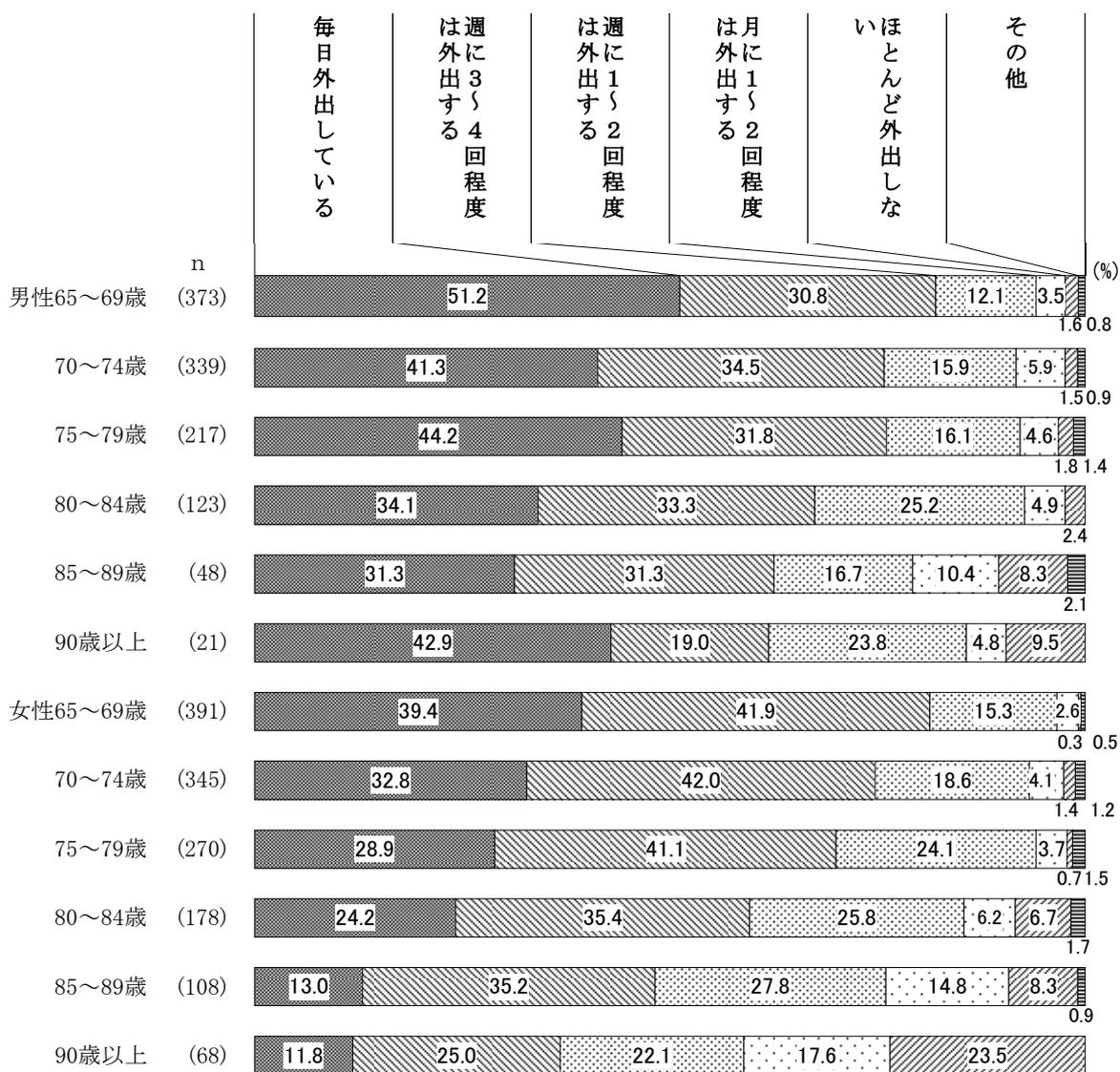
家族構成別にみると、週1回以上外出している方の割合は、独居で93.3%と最も高く、以下、夫婦のみ、その他の順となっている。

外出頻度(家族構成別)



性・年齢別にみると、男性の場合は「毎日外出している」が最も多く、女性の場合は「週に3～4回程度は外出する」が最も多くなっている。また、外出頻度が週1回以上の割合は、男性の場合、85歳以上で減少し、女性の場合は85歳以上で減少している。

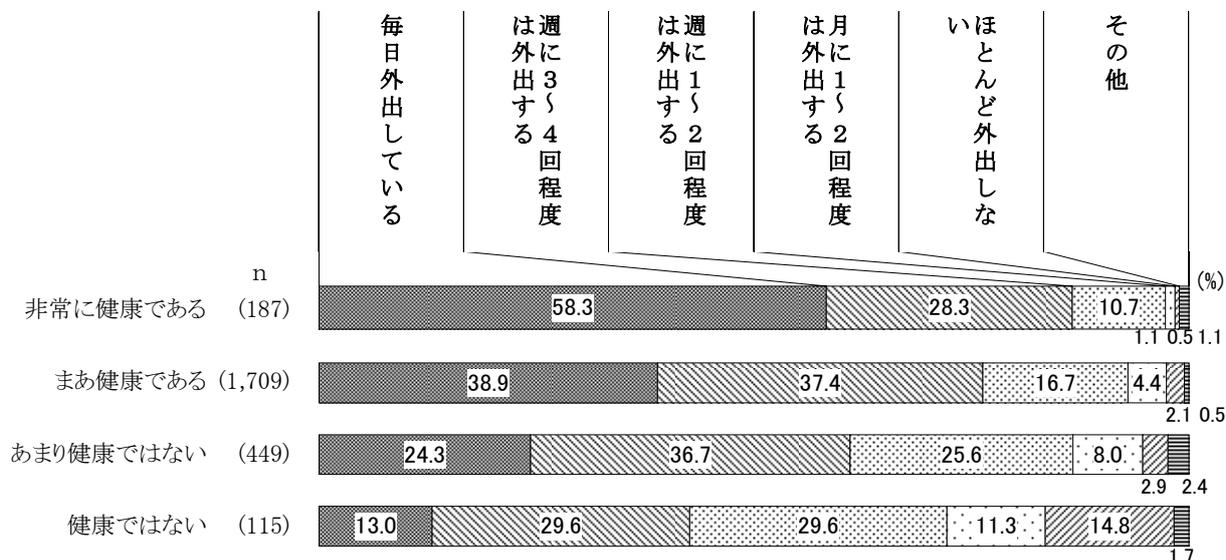
外出頻度（性・年齢別）



第2章 調査結果の詳細

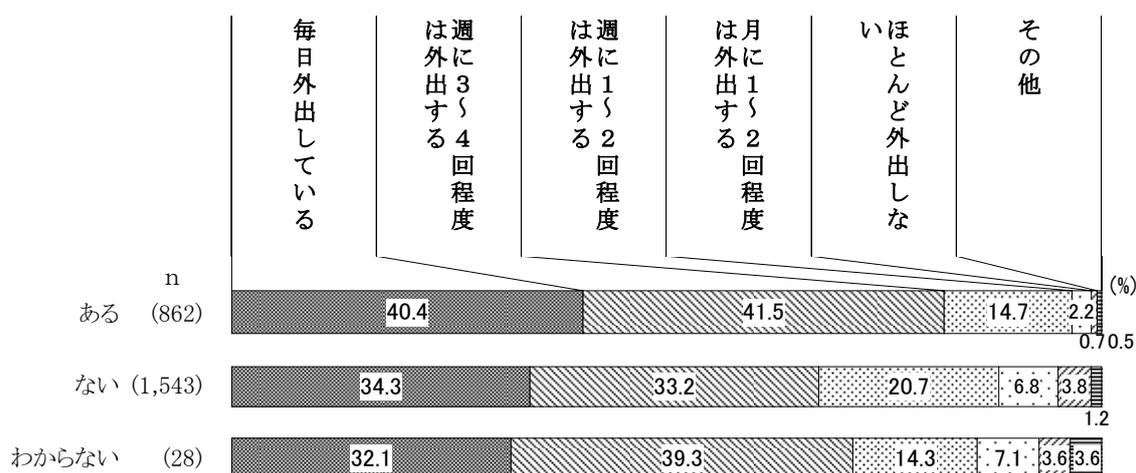
健康状態別にみると、健康状態がよいほど外出頻度は高くなる傾向がみられる。

外出頻度（健康状態別）



地域で参加している活動の有無別にみると、地域活動に参加している方のほうが、外出頻度が高くなっている。地域活動に参加している方の場合、週1回以上の外出頻度は96.6%と非常に高い値となっている。

外出頻度（地域で参加している活動の有無別）

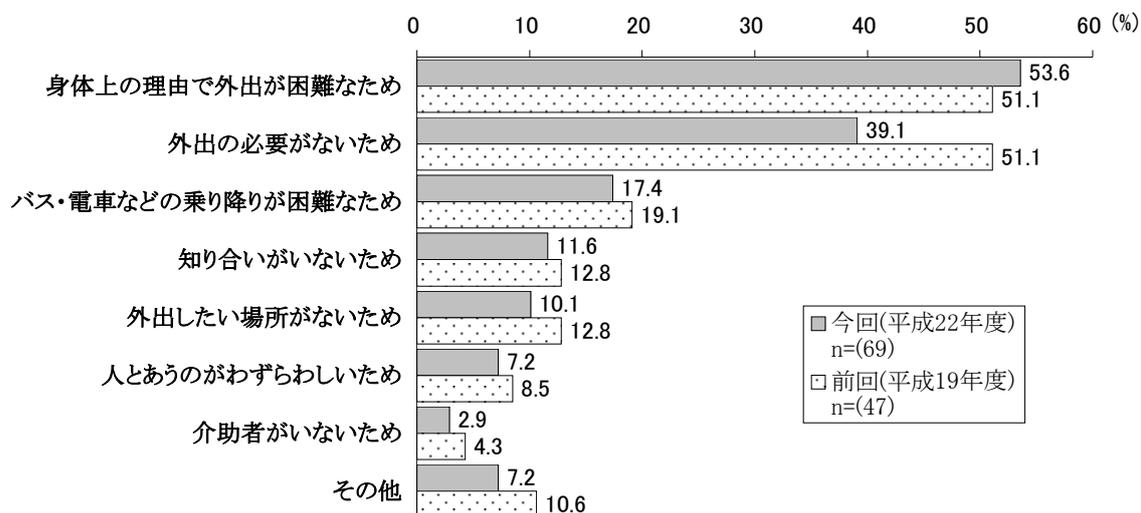


(4) ほとんど外出しない理由

《問10で「ほとんど外出しない」と回答した方のみお答えください》

問10-1 ほとんど外出しないのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

「身体上の理由で外出が困難なため」が5割強で最多

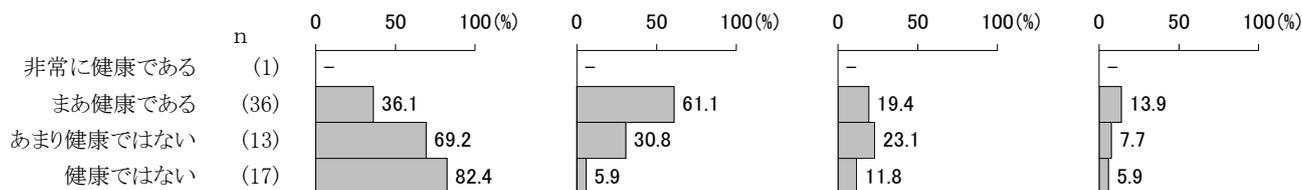


ほとんど外出しない方の外出しない理由は、「身体上の理由で外出が困難なため」(53.6%)と「外出の必要がないため」(39.1%)の割合が特に多くなっている。

前回調査と比較すると、「外出の必要がないため」が前回(51.1%)より12ポイント減少した。

ほとんど外出しない理由(健康状態別(上位4項目))

□ 身体上の理由で外出が困難なため □ 外出の必要がないため □ バス・電車などの乗り降りが困難なため □ 知り合いがいないため

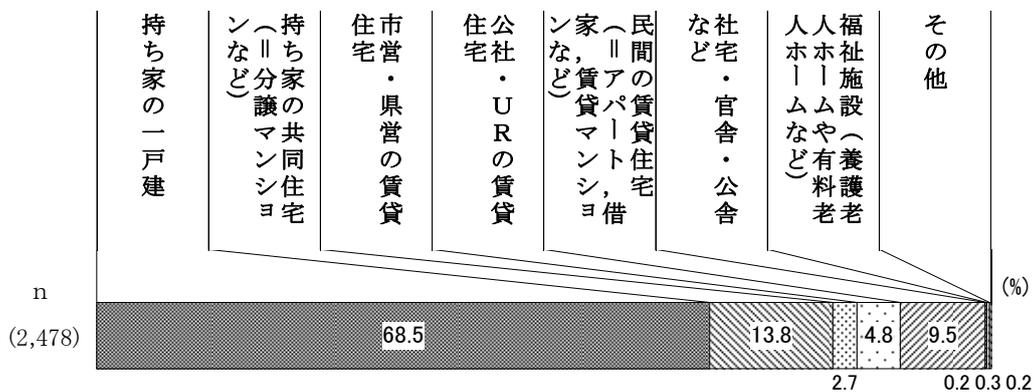


4. 住まいの状況について

(1) 住居形態

問11 あなた(ご本人)は、どんな住宅にお住まいですか。(1つに○)

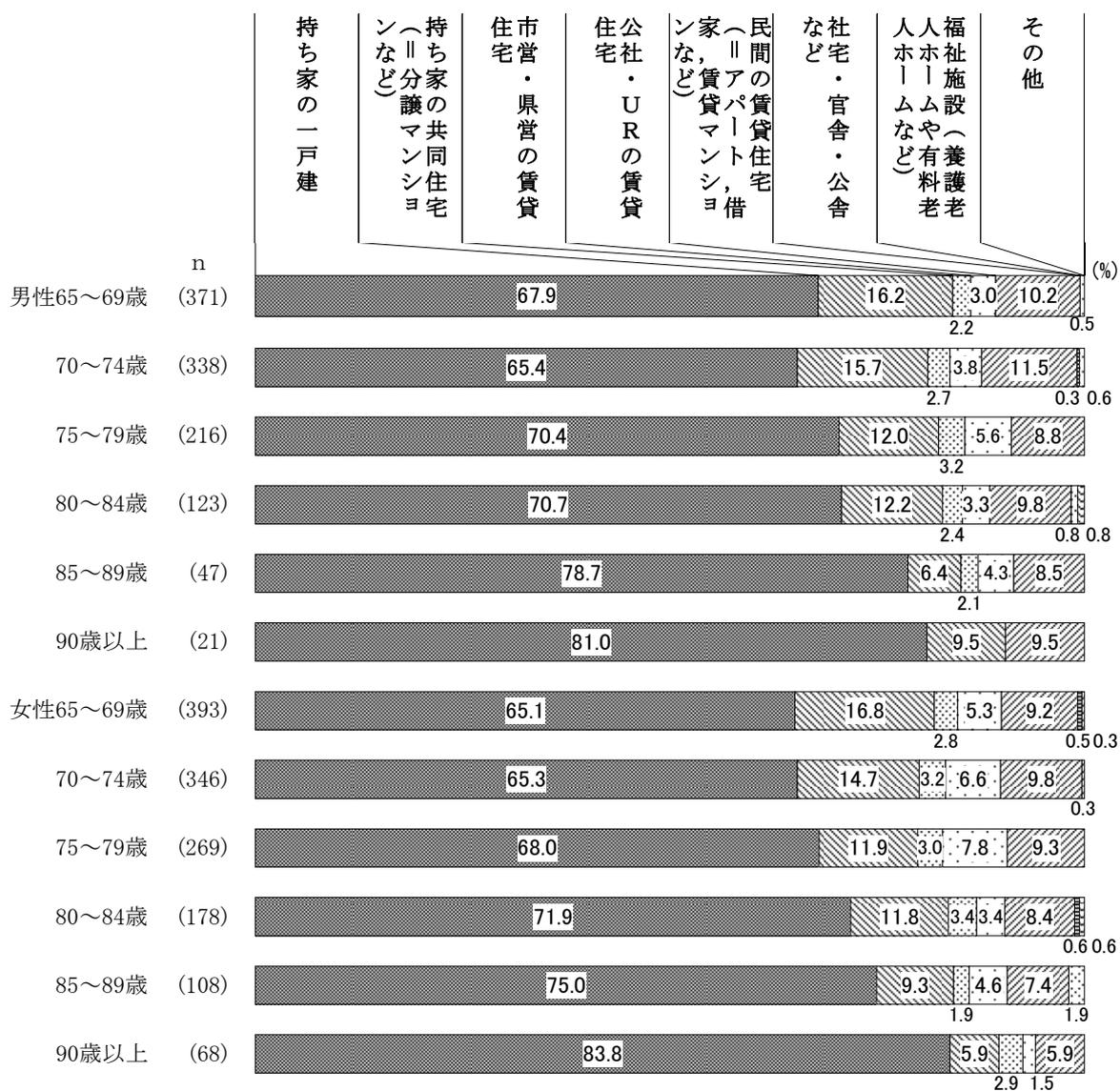
「持ち家の一戸建」が7割弱



住居形態は、「持ち家の一戸建」が68.5%で最も多い。また、「持ち家の共同住宅 (=分譲マンションなど)」が13.8%、「民間の賃貸住宅 (=アパート, 借家, 賃貸マンションなど)」が9.5%となっている。

性・年齢別にみると、男女ともいずれの年齢とも「持ち家の一戸建」が多く、年齢が高くなるほどその割合も多くなる傾向がみられる。

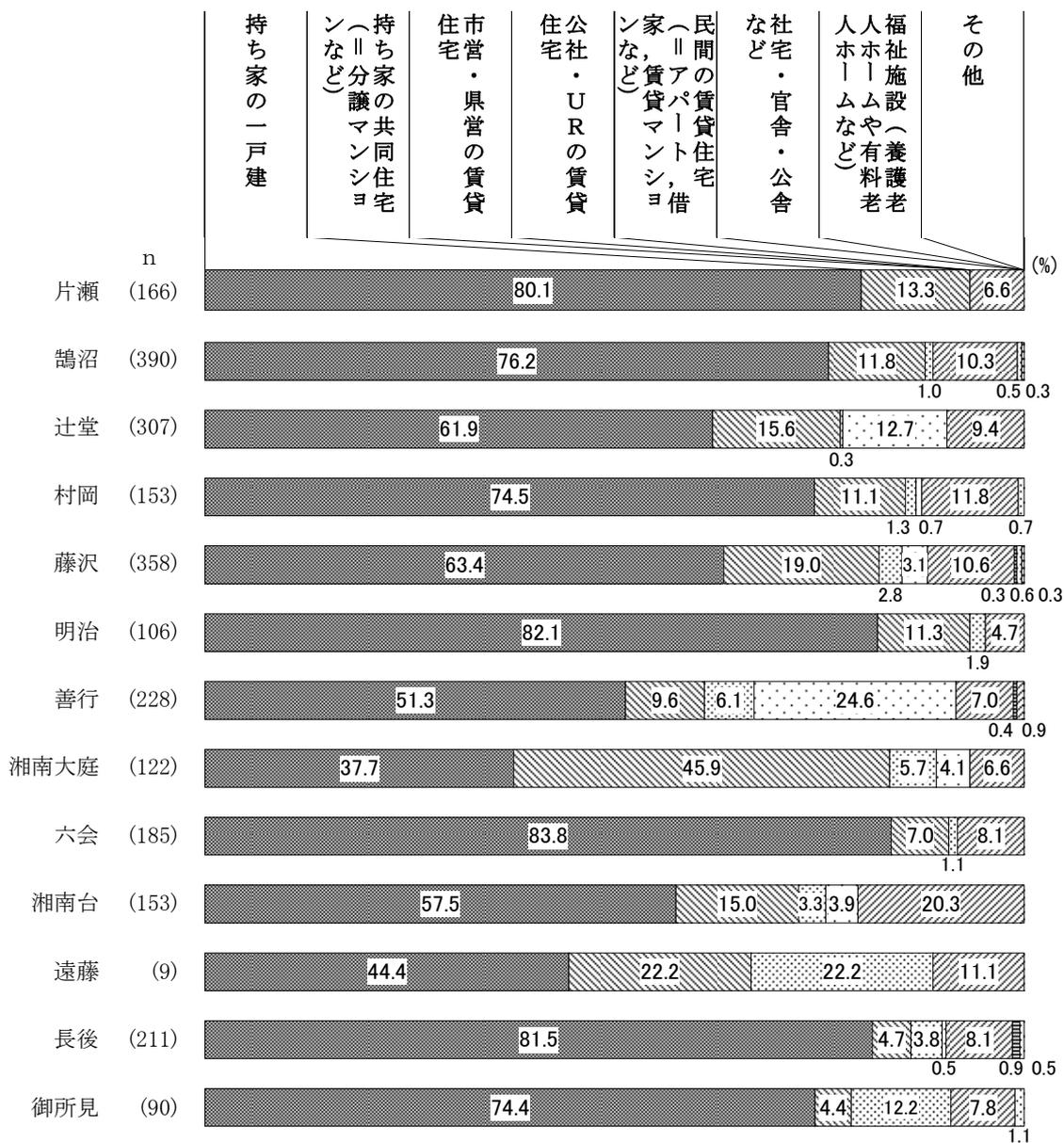
住居形態（性・年齢別）



第2章 調査結果の詳細

地域別にみると、「持ち家の一戸建」は、六会、明治、長後、片瀬で8割台と多く、また、「持ち家の共同住宅（＝分譲マンションなど）」は湘南大庭で4割台と多くなっており、住居形態は地域により大きく異なっている。

住居形態（地域別）

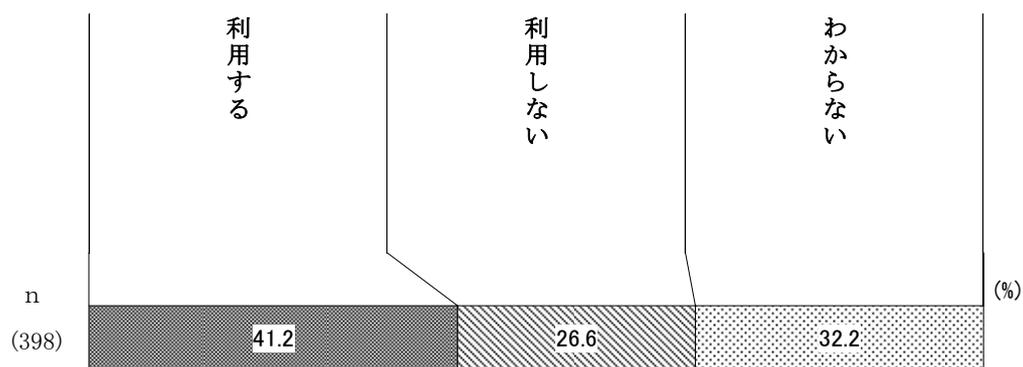


(2) 相談員の利用意向

《問11で「市営・県営の賃貸住宅」、「公社・URの賃貸住宅」、「民間の賃貸住宅（＝アパート、借家、賃貸マンションなど）」に回答した方のみお答えください》

問11-1 日常生活指導・健康相談・安否確認等のサービスを提供する相談員をあなたのお住まいの住宅（集会場・相談室等）に派遣した場合、あなたは利用しますか。（1つに○）

相談員の派遣を「利用する」は4割強

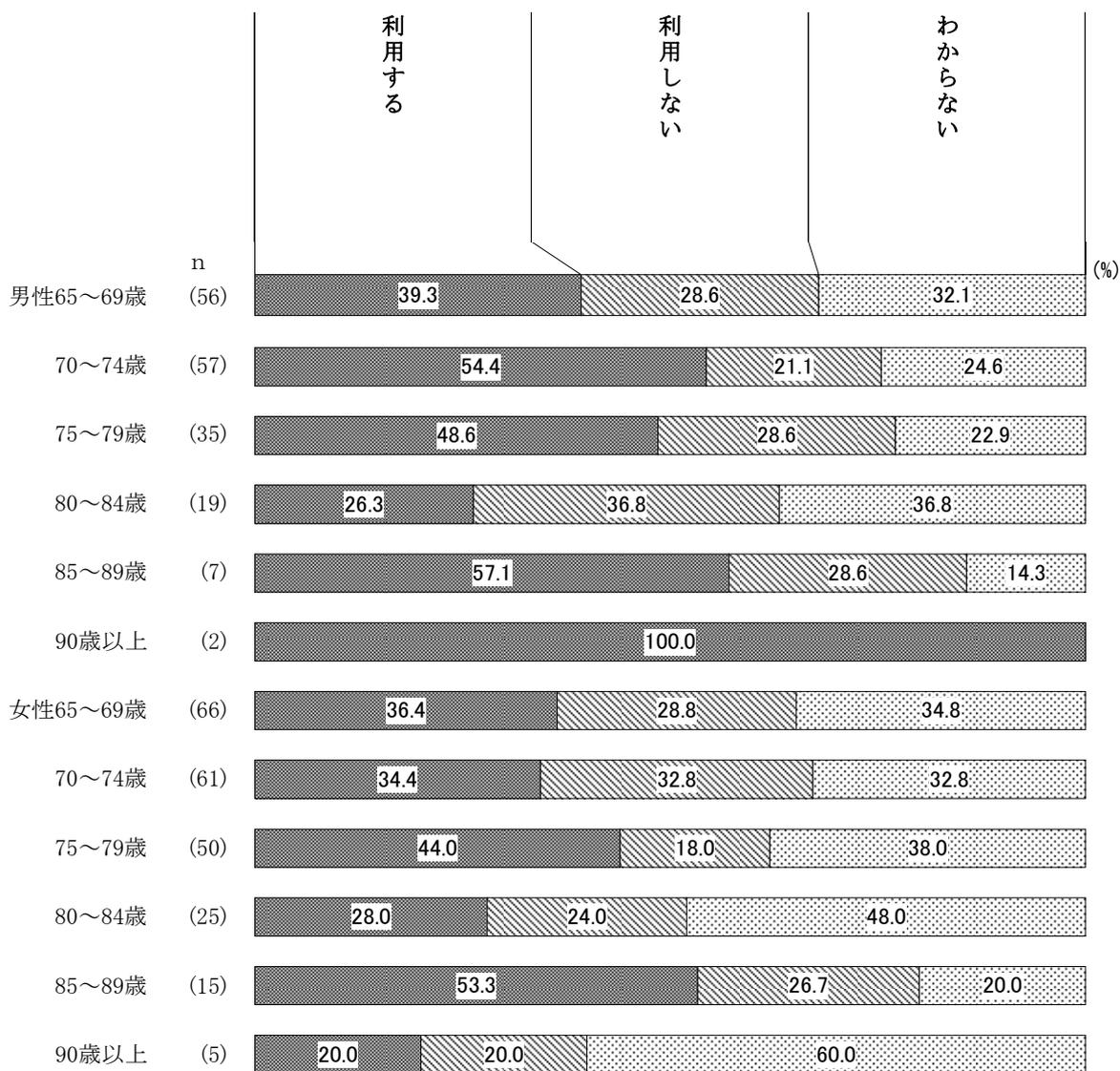


日常生活指導・健康相談・安否確認等のサービスを提供する相談員を派遣した場合の利用意向は、「利用する」が41.2%で、「利用しない」（26.6%）を上回る結果となった。また、「わからない」は32.2%となっており、比較的大きな値となっている。

第2章 調査結果の詳細

性・年齢別にみると、「利用する」は男性70～74歳で5割台と多くなっている。一方、「わからない」は、女性のほうがどの年齢とも多くなっている。

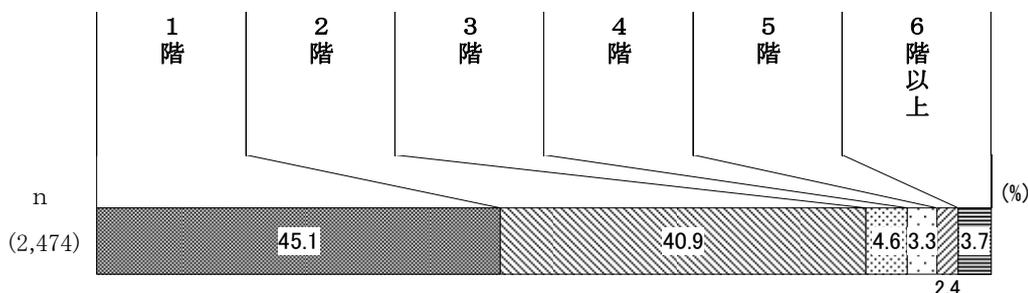
相談員の利用意向（性・年齢別）



(3) 居室の階数

問12 あなた（ご本人）は何階にお住まいですか。（1つに○）
 ※一戸建ての場合は、寝起きする部屋のある階数でお答え下さい。

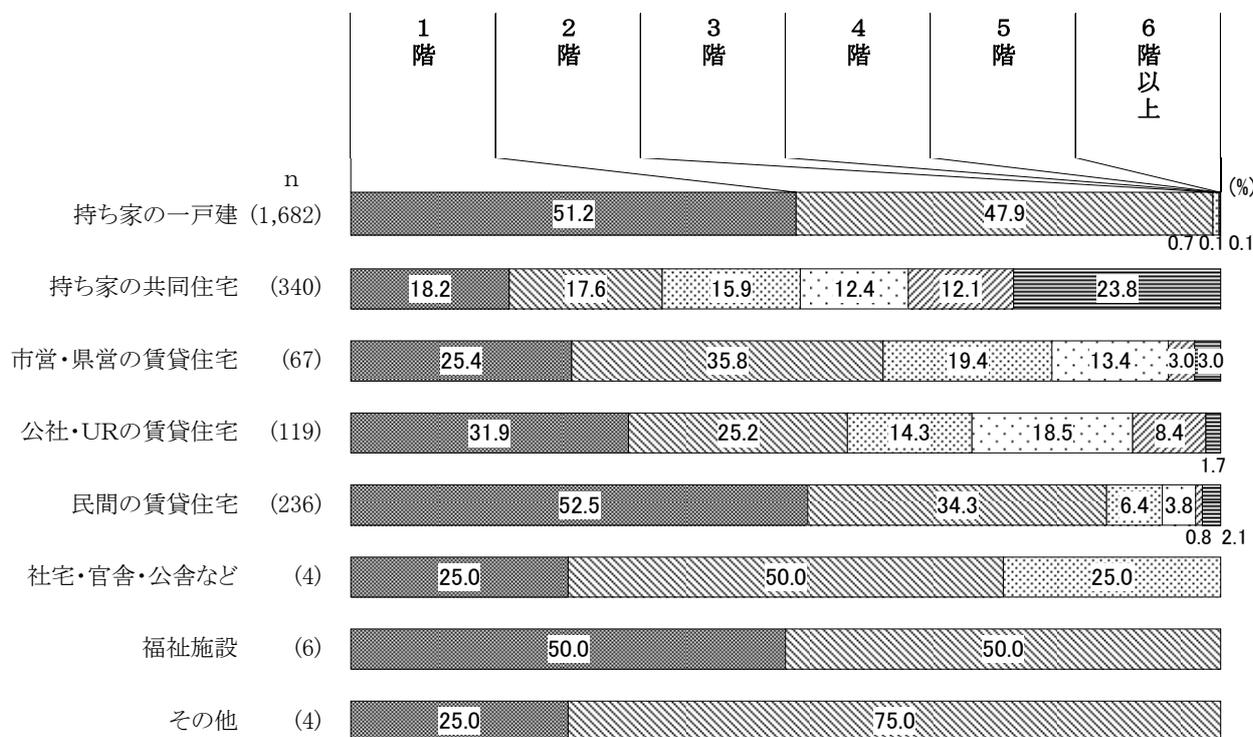
「2階」以下に住んでいる割合が8割台半ば



居室の階数（一戸建ての場合は寝起きする部屋）は、「1階」（45.1%）、「2階」（40.9%）となっており、両方をあわせると、2階以下に住んでいる方が全体の86%を占める。

住居形態別にみると、「1階」は、民間の賃貸住宅、持ち家の一戸建てで5割台、「2階」は持ち家の一戸建てで4割台、市営・県営の賃貸住宅、民間の賃貸住宅で3割台と多くなっている。また、「6階以上」は持ち家の共同住宅で2割台と他の住居形態より多くなっている。

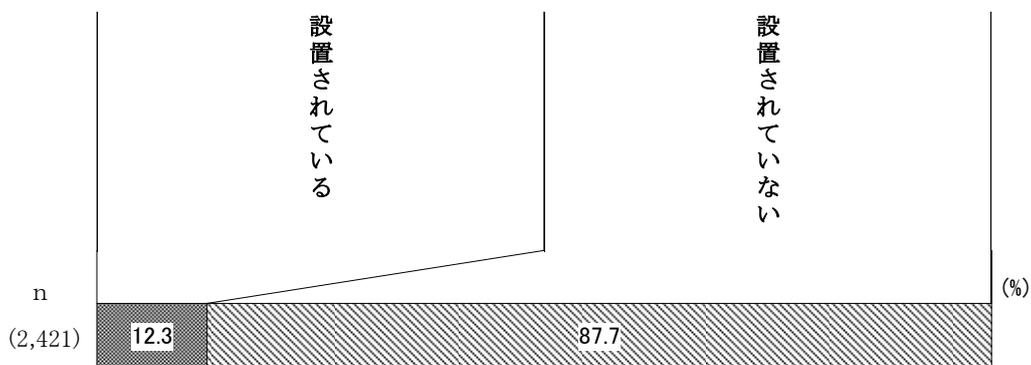
居室の階数（住居形態別）



(4) エレベーターの設置

問13 あなた(ご本人)のお住まいの建物にエレベーターは設置されていますか。(1つに○)

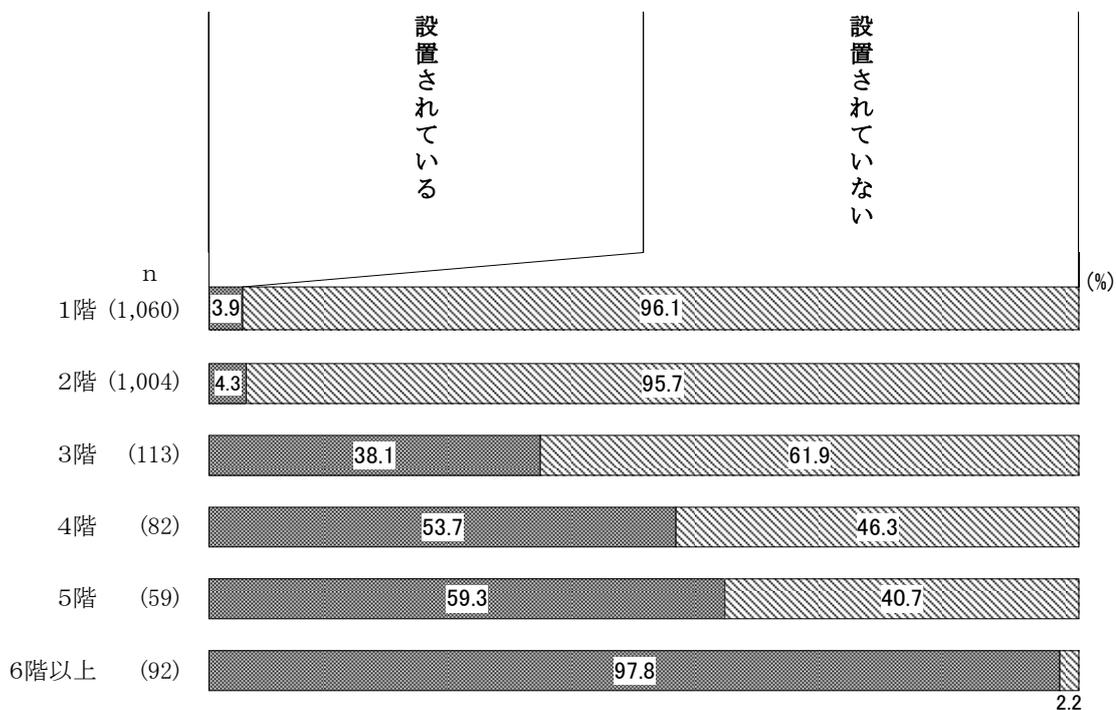
「設置されている」は1割強にとどまる



居住形態に関わらず、住まいの建物におけるエレベーターの設置状況を聞いたところ、「設置されている」は12.3%となっている。

居室の階数別にみると、階数が高くなるほど「設置されている」の割合が多くなり、6階以上の場合で97.8%となっている。

エレベーターの設置状況 (居室の階数別)

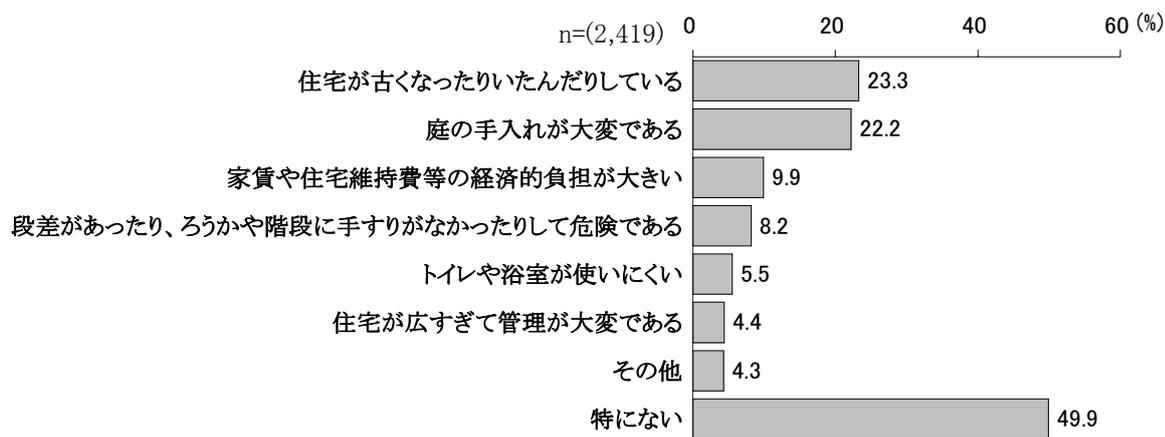


(5) 住まいについて困っていること（複数回答）

問14 現在のお住まいについて、困っていることはありますか。

（あてはまるものすべてに○）

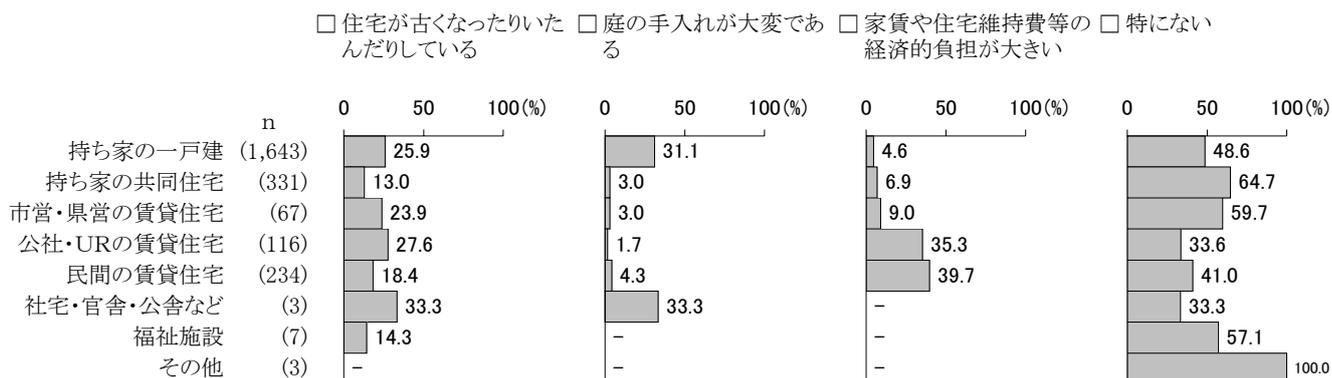
「住宅が古くなったりいたんだりしている」、「庭の手入れ」の2項目がともに2割強



現在の住まいで困っていることは、「住宅が古くなっていたりいたんだりしている」(23.2%)、「庭の手入れが大変である」(22.2%)の2項目が2割台で多くなっている。また、「特にない」も49.9%と多い。

住居形態別にみると、「庭の手入れが大変である」は持ち家の一戸建て、「家賃や住宅維持費の経済的負担が大きい」は民間の賃貸住宅、公社・URの賃貸住宅で3割台と多くなっている。

住まい住居形態別（上位3項目＋「特にない」）

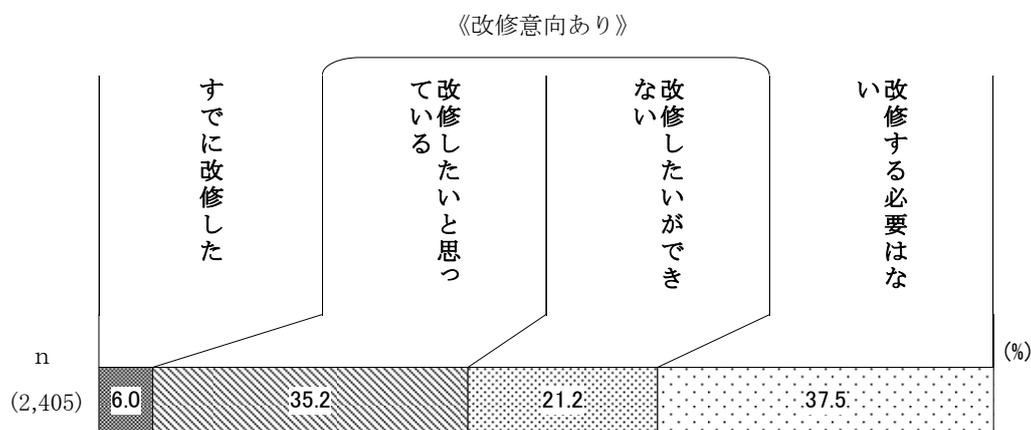


(6) 住まいの改修意向

問15 在宅での介護が必要になった場合、現在のお住まいを改修したいとお考えですか

(1つに〇)

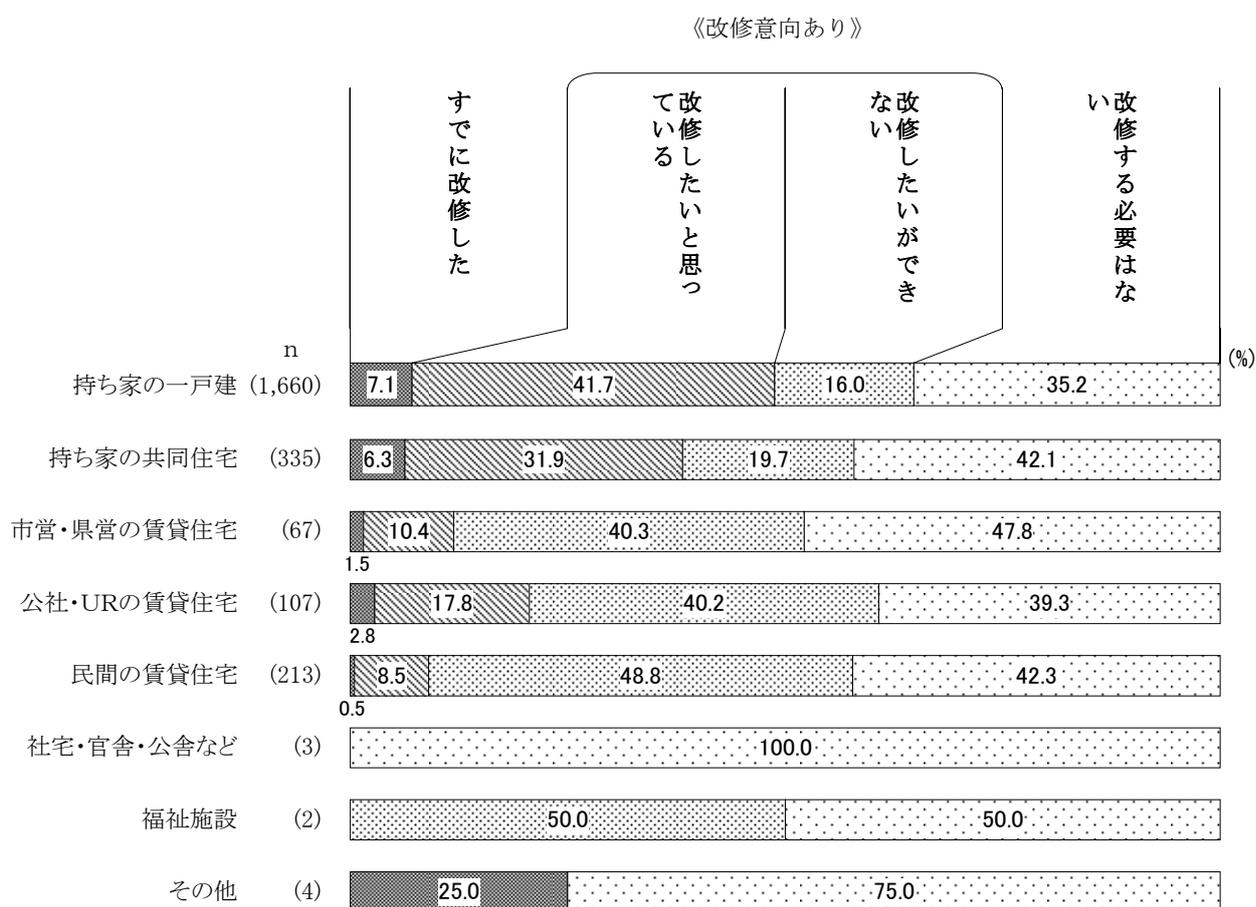
住まいの《改修意向あり》の割合は5割台半ば



現在の住まいの改修意向は、「改修したいと思っている」が35.2%、「改修したいができない」が21.2%となっており、あわせると《改修意向あり》は全体の56.4%を占める。また、「改修する必要はない」は37.5%であった。

住居形態別にみると、「持ち家の一戸建て」「持ち家の共同住宅」といった持ち家の場合は、《改修意向あり》が5割以上で、内訳では「改修したいと思っている」が多くなっている。また、「市営・県営の賃貸住宅」「公社・URの賃貸住宅」「民間の賃貸住宅」といった賃貸住宅の場合も《改修意向あり》が5割以上で、中でも「改修したいができない」が多く、意向はあるができない現状がうかがえる。

住まいの改修意向（住居形態別）

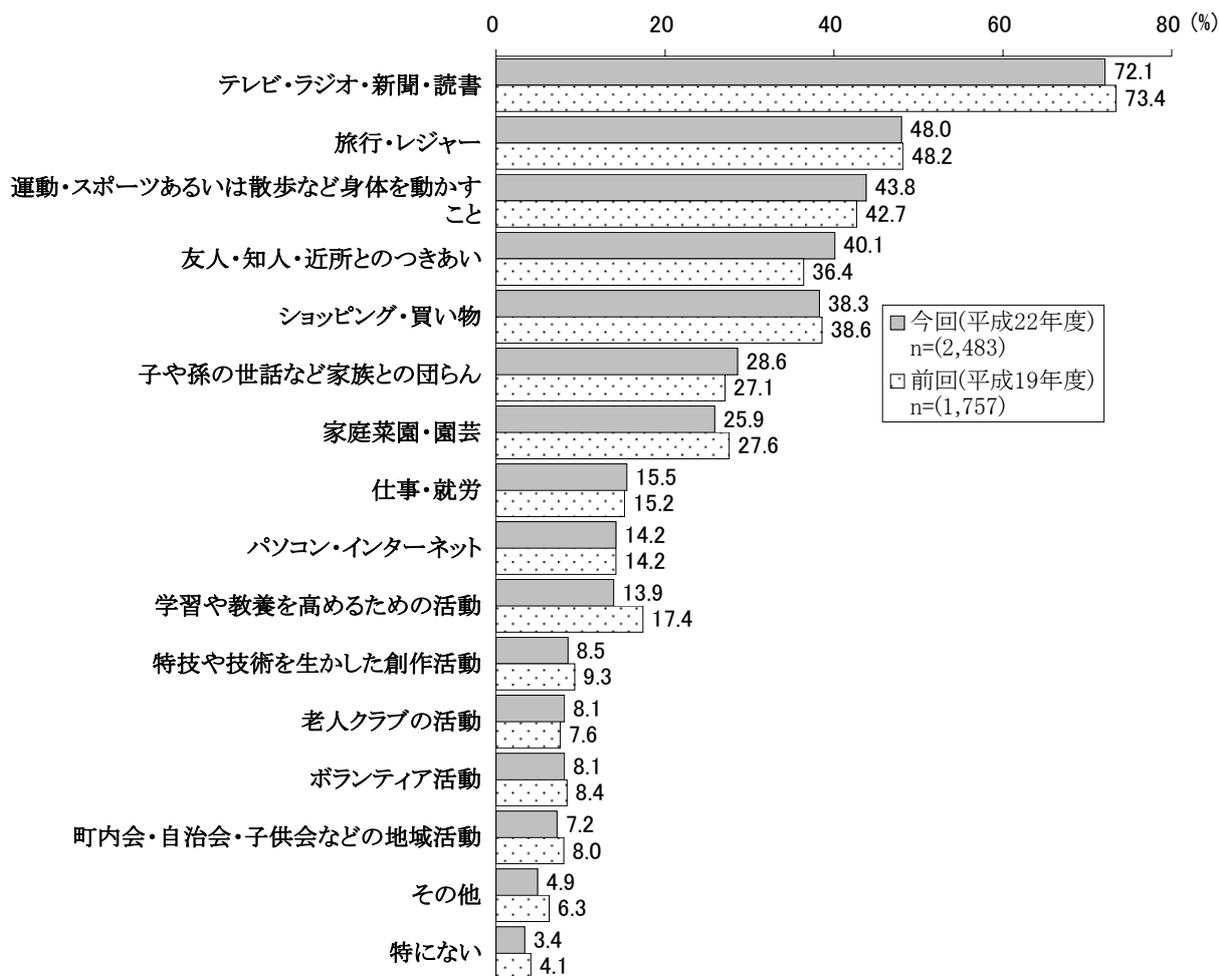


5. 生きがい・楽しみについて

(1) 充実感や生きがいを感じる事（複数回答）

問16 あなた(ご本人)は、現在、どのようなことに充実感や生きがいを感じていますか。
(あてはまるものすべてに○)

「テレビ・ラジオ・新聞・読書」が7割強で最多



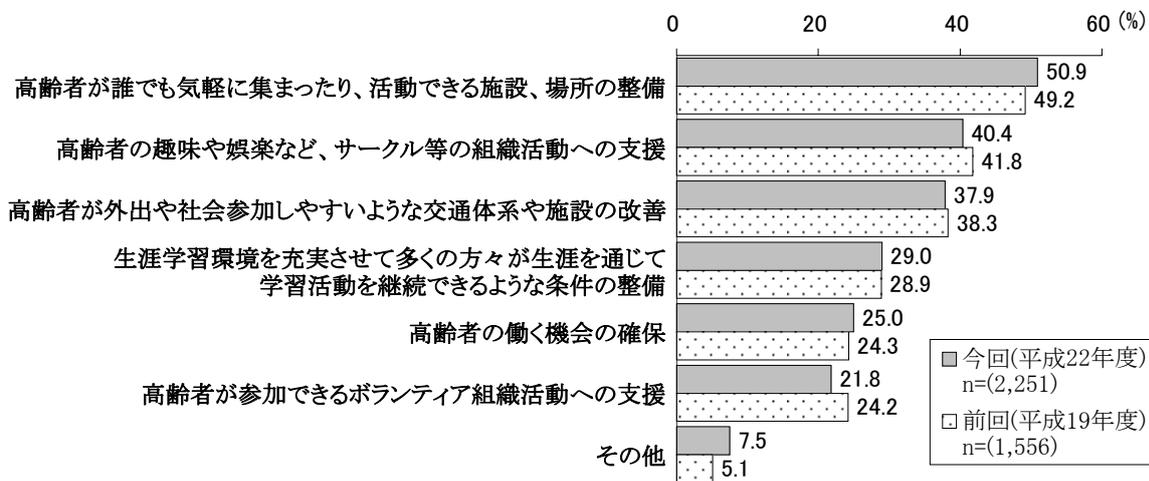
現在、感じている充実感や生きがいは、「テレビ・ラジオ・新聞・読書」が72.1%で最も多く、以下、「旅行・レジャー」(48.0%)、「運動・スポーツあるいは散歩など身体を動かすこと」(43.8%)、「知人・友人・近所とのつきあい」(40.1%)が4割台で続いている。

前回調査と比較すると、上位5つの中では「友人・知人・近所とのつきあい」が前回(36.4%)より4ポイント増加し、順位としては、前回5位から4位に浮上した。

(2) 生きがいがづくり・社会参加に必要な支援（複数回答）

問17 あなた(ご本人)は、市が生きがいがづくり・社会参加に対する取り組みをすすめていくうえで、どのような支援が必要と考えますか。(あてはまるものすべてに○)

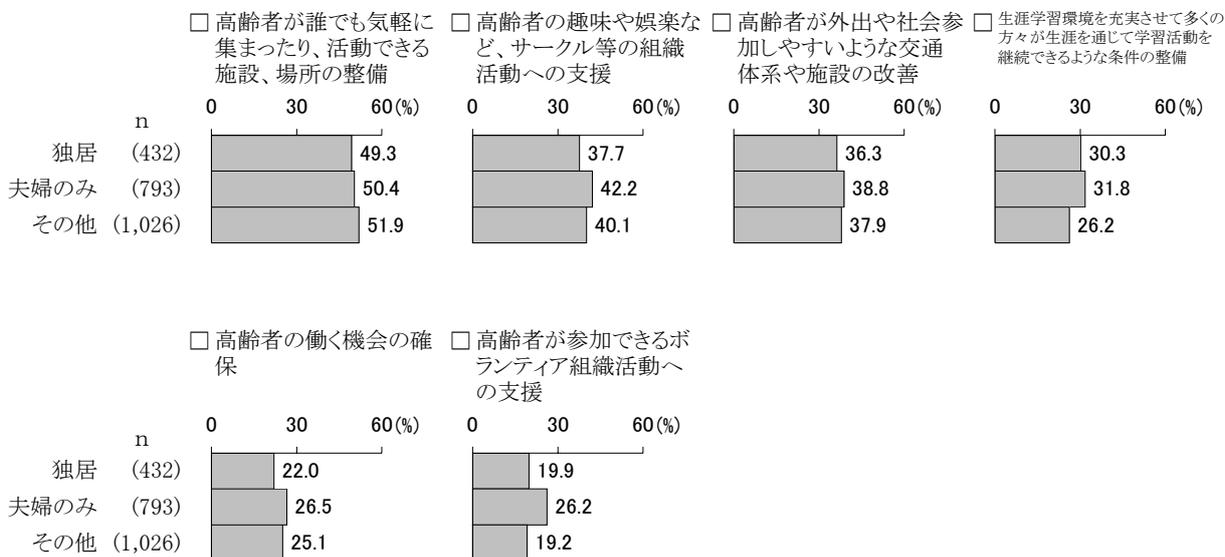
「高齢者が誰でも気軽に集まったり、活動できる施設、場所の整備」が5割強で最多



生きがいがづくり・社会参加に必要な支援は、「高齢者が誰でも気軽に集まったり、活動できる施設、場所の整備」が50.9%で最も多く、以下、「高齢者の趣味や娯楽など、サークル等の組織活動への支援」(40.4%)、「高齢者が外出や社会参加しやすいような交通体系や施設の改善」(37.9%)などが続いている。

家族構成別にみると、「高齢者が誰でも気軽に集まったり、活動できる施設、場所の整備」は家族構成に関わらず5割前後で最も多い。「高齢者の趣味や娯楽など、サークル等の組織活動への支援」は夫婦のみ、その他で4割台、「生涯学習環境を充実させて多くの方々が生涯を通じて学習活動を継続できるような条件の整備」は夫婦のみと独居で3割台、「高齢者が参加できるボランティア組織活動への支援」は夫婦のみで2割台と多くなっている。

生きがいがづくり・社会参加に必要な支援（家族構成別）

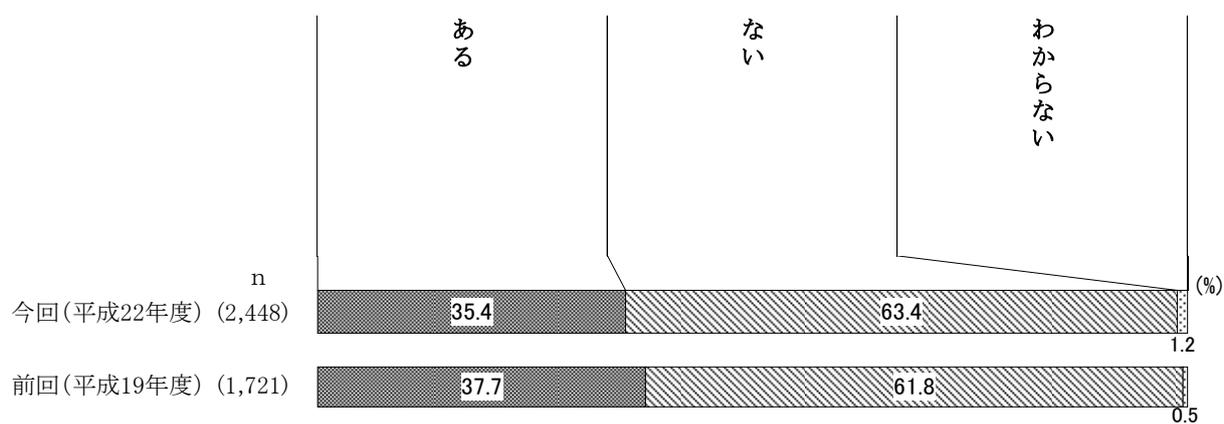


6. 地域で参加している活動について

(1) 地域で参加している活動の有無

問18 あなた(ご本人)は、現在、地域で参加している活動がありますか。(1つに○)

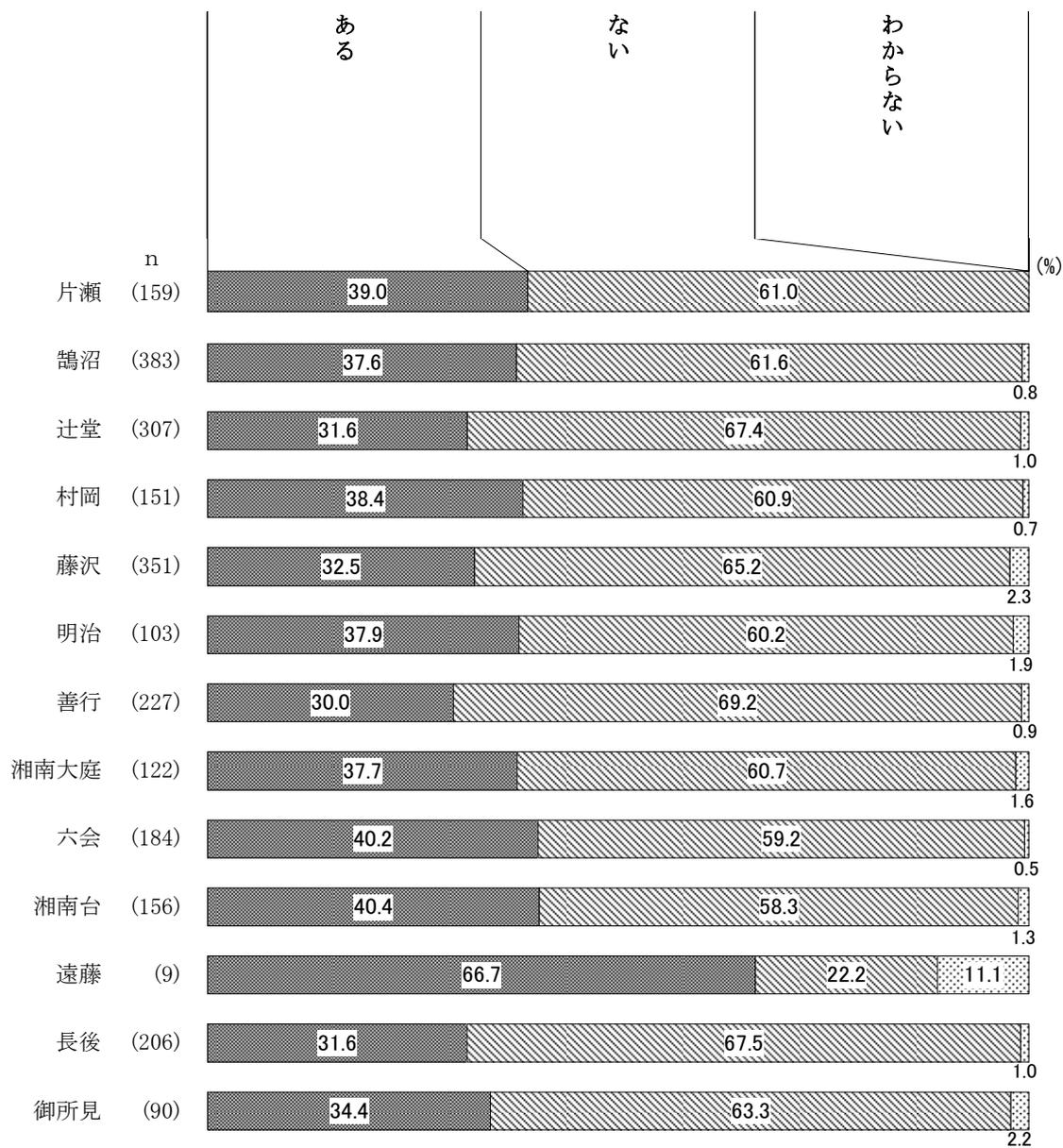
参加している活動がある方は3割台半ば



現在、地域で参加している活動が「ある」が35.4%、「ない」が63.4%となっている。

地域別にみると、「ある」は湘南台、六会、片瀬、村岡で4割前後と多くなっている。

地域で参加している活動の有無（地域別）



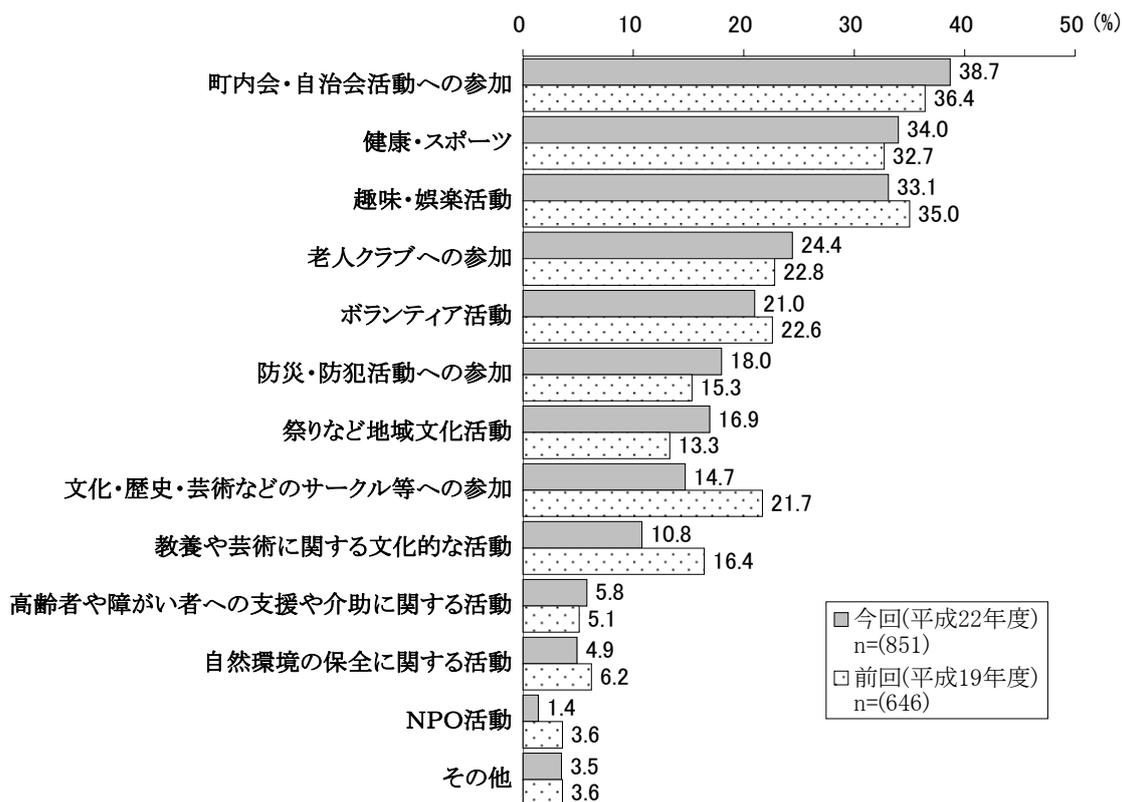
(2) 地域で参加している活動（複数回答）

《問18で「ある」と回答した方のみお答えください》

問18-1 あなた(ご本人)が、現在、地域で参加している活動は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

「町内会・自治会活動への参加」「健康・スポーツ」「趣味・娯楽活動」がともに3割台が多い



現在、地域で参加している活動がある方の活動内容は、「町内会・自治会活動への参加」(38.7%)、「健康・スポーツ」(34.0%)、「趣味・娯楽活動」(33.1%)の3項目が3割台が多く、以下、「老人クラブへの参加」(24.4%)、「ボランティア活動」(21.0%)が2割台で続いている。

前回調査と比較すると、変動の大きい項目としては「文化・歴史・芸術などのサークル等への参加」が前回(21.7%)より7ポイント、「教養や芸術に関する文化的な活動」が前回(16.4%)より6ポイント減少した。上位の順位では、「健康・スポーツ」が前回3位から2位に浮上した。

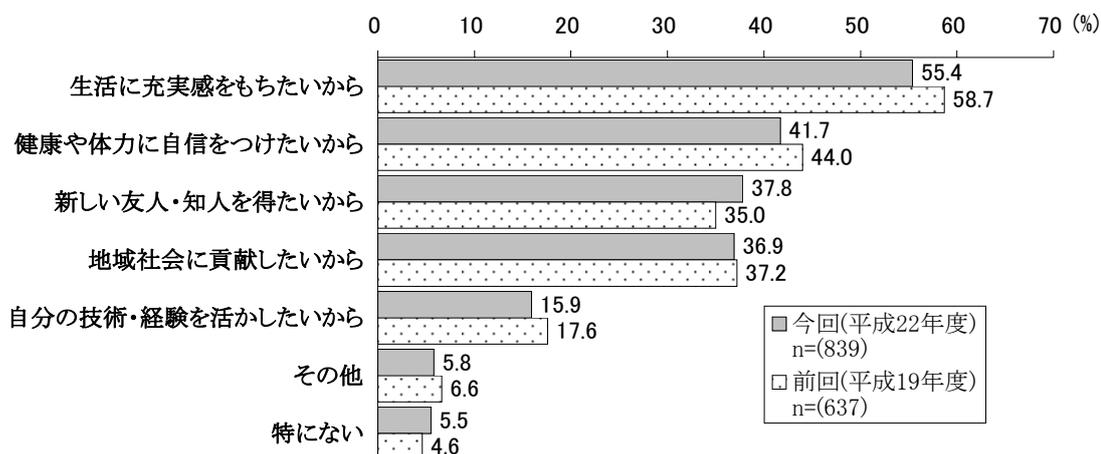
(3) 地域の活動に参加した理由（複数回答）

《問18で「ある」と回答した方のみお答えください》

問18-2 あなた(ご本人)が、地域の活動に参加した理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

「生活に充実感をもちたいから」が5割台半ばで最多



地域で参加している活動がある方の参加した理由は、「生活に充実感をもちたいから」が55.4%で最も多く、以下、「健康や体力に自信をつけたいから」(41.7%)が4割台、「新しい友人・知人を得たいから」(37.8%)、「地域社会に貢献したいから」(36.9%)などが3割台で続いている。

前回調査と比較すると、「新しい友人・知人を得たいから」が前回(35.0%)より3ポイント増加し、順位も前回の4位から3位に浮上した。

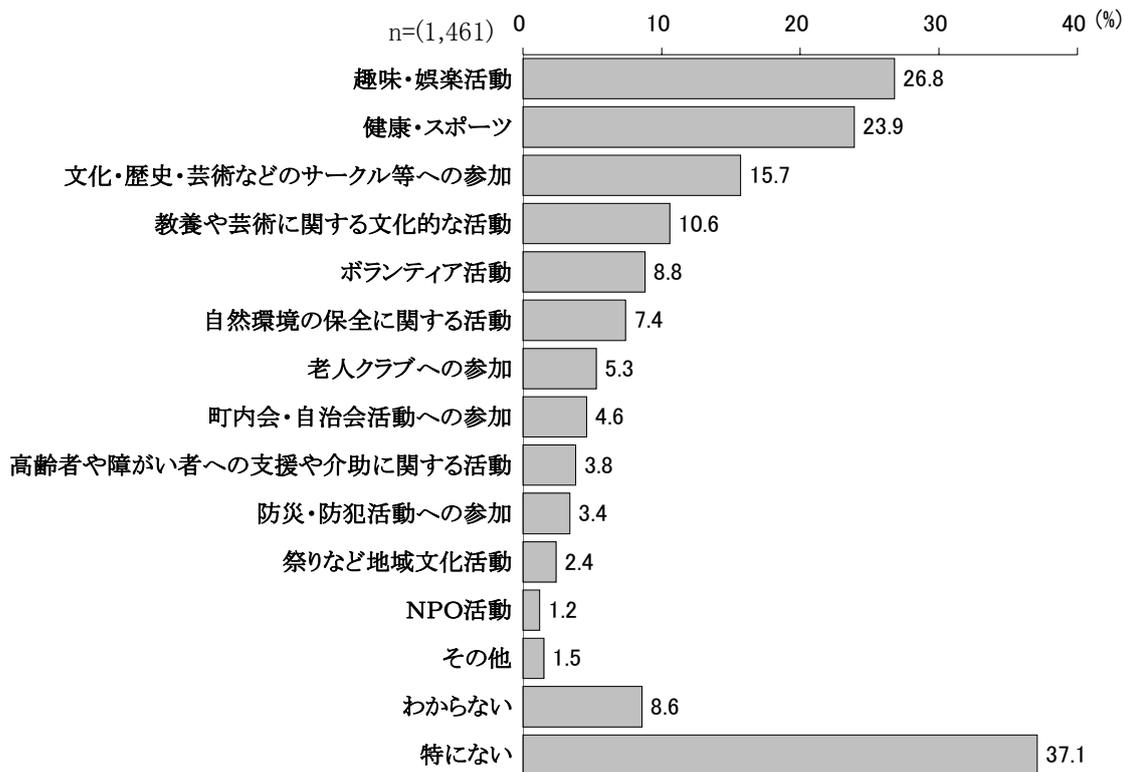
(4) 今後、地域で参加したい活動（複数回答）

《問18で「ない」または「わからない」と回答した方のみお答えください》

問18-3 あなた(ご本人)は、今後、地域で参加したい活動がありますか。

(あてはまるものすべてに○)

何らかの地域活動に参加したい方は6割強

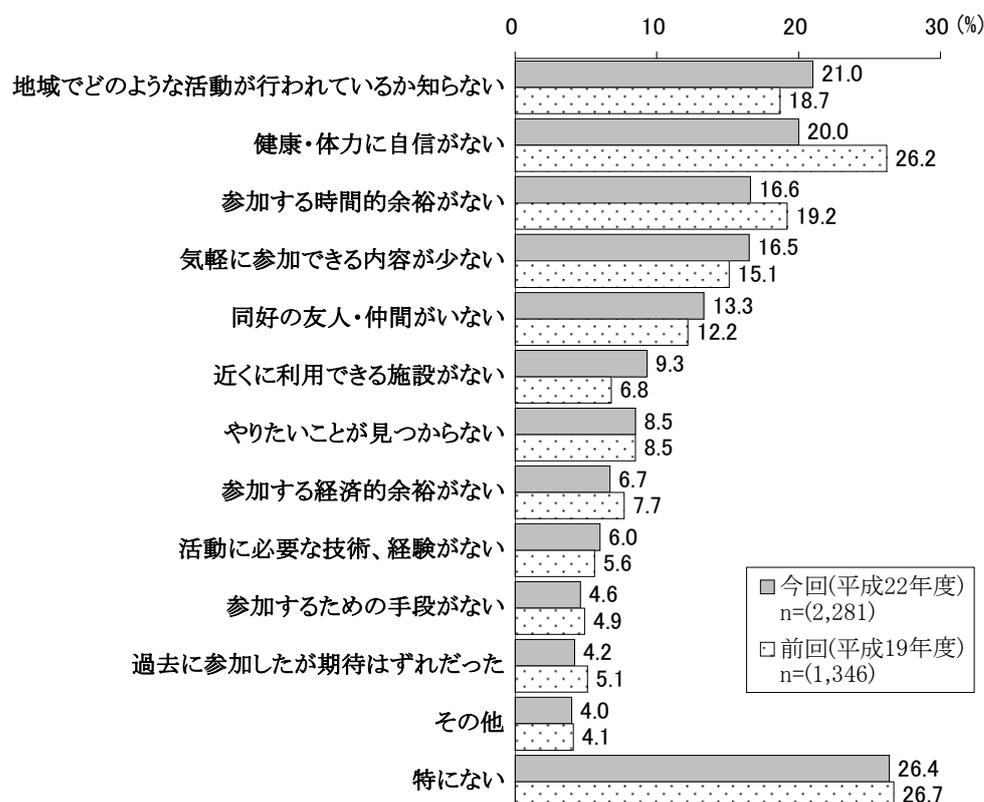


地域活動に参加していない、またはわからない方の今後参加したい活動としては、「趣味・娯楽活動」(26.8%)、「健康・スポーツ」(23.9%)の2項目が2割台で多く、以下、「文化・歴史・芸術などのサークル等への参加」(15.7%)、「教養や芸術に関する文化的な活動」(10.6%)と続いている。また、「特にない」は37.1%となっており、62.9%の方が何らかの地域活動に参加する意向を持っている。

(5) 地域の活動に参加する上の問題点（複数回答）

問19 あなた（ご本人）が、地域の活動に参加する上で支障となることや問題点として感じているものはありますか。（あてはまるものすべてに○）

問題点としては、周知不足、健康・体力面、時間的余裕、内容面の順



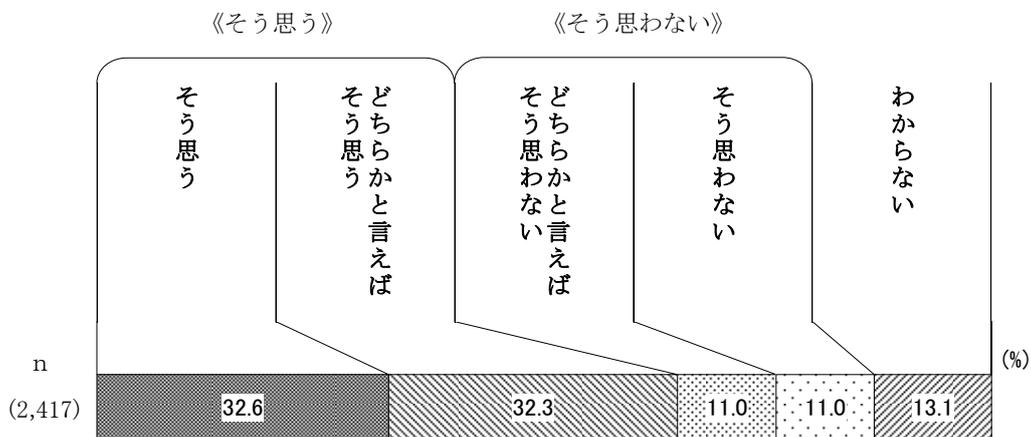
地域の活動に参加する上で支障となることや問題点は、「地域でどのような活動が行われているか知らない」（21.0%）、「健康・体力に自信がない」（20.0%）、「参加する時間的余裕がない」（16.6%）、「気軽に参加できる内容が少ない」（16.5%）、「同好の友人・仲間がいない」（13.3%）といった割合が多くなっている。

前回調査と比較すると、上位5つの中では「健康・体力に自信がない」や「参加する時間的余裕がない」が前回より減少し、「地域でどのような活動が行われているか知らない」や「気軽に参加できる内容が少ない」、「同好の友人・仲間がいない」が前回より増加した。

(6) 社会とのかかわりに対する考え

問20 あなた(ご本人)は、サークル・グループ活動や各種行事、催し物への参加を通じて、社会とのかかわりを持って生活したいと思いますか。(1つに○)

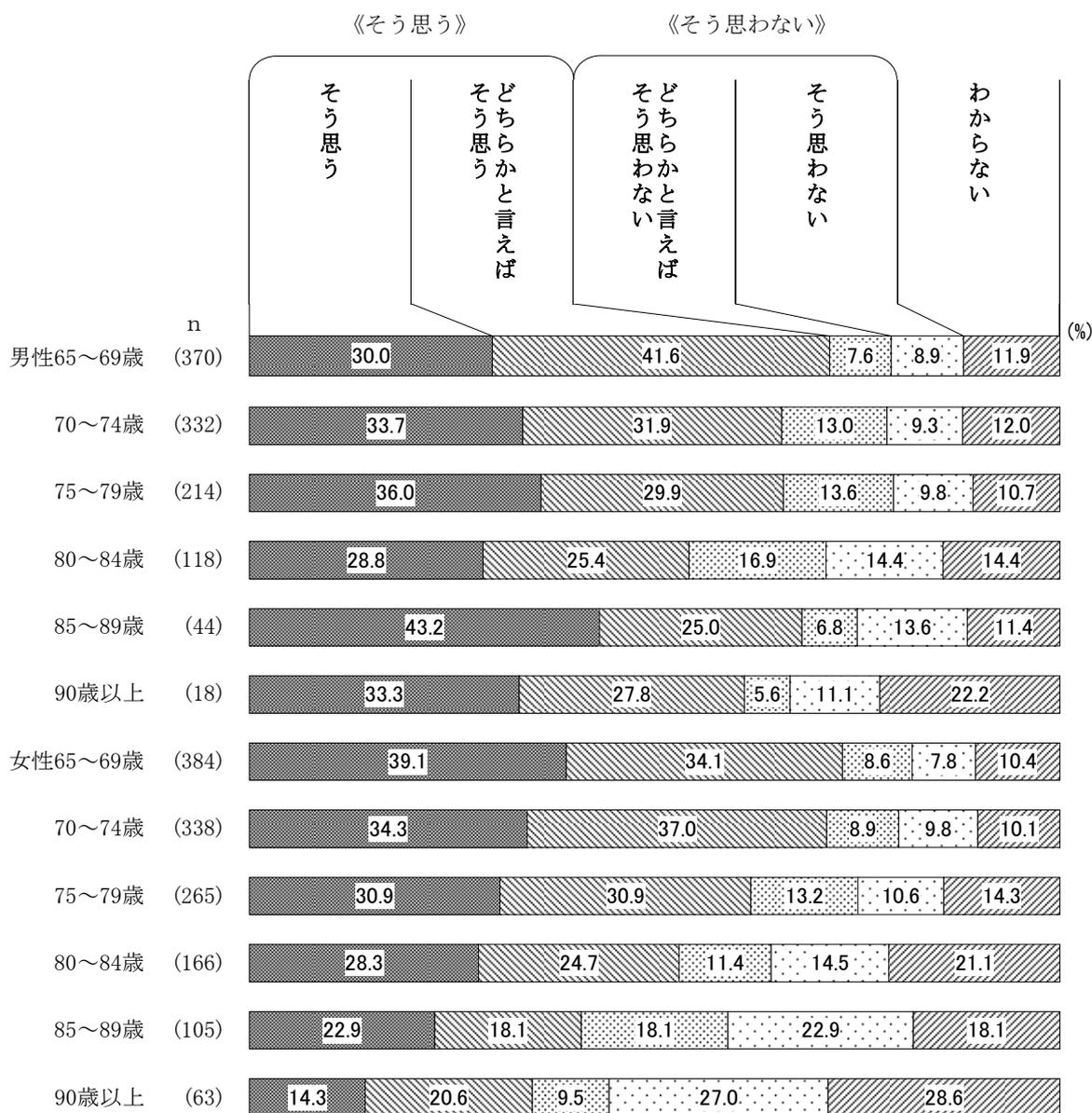
《そう思う》は6割台半ばで、《そう思わない》を上回る



サークル・グループ活動や各種行事、催し物への参加を通じて、社会とのかかわりを持って生活することの是非は、「そう思う」が32.6%、「どちらかと言えばそう思う」が32.3%となっており、両方をあわせると《そう思う》割合が全体の64.9%を占める。

性・年齢別にみると、《そう思う》割合は、男性の場合、65～69歳で71.6%と最も多くなっており、年齢が高くなっても、その割合は女性の場合より、変化が少ない。女性の場合、65～69歳で73.2%と最も多く、年齢が高くなるほどその割合は減少する傾向がみられる。

社会とのかかわりに対する考え（性・年齢別）

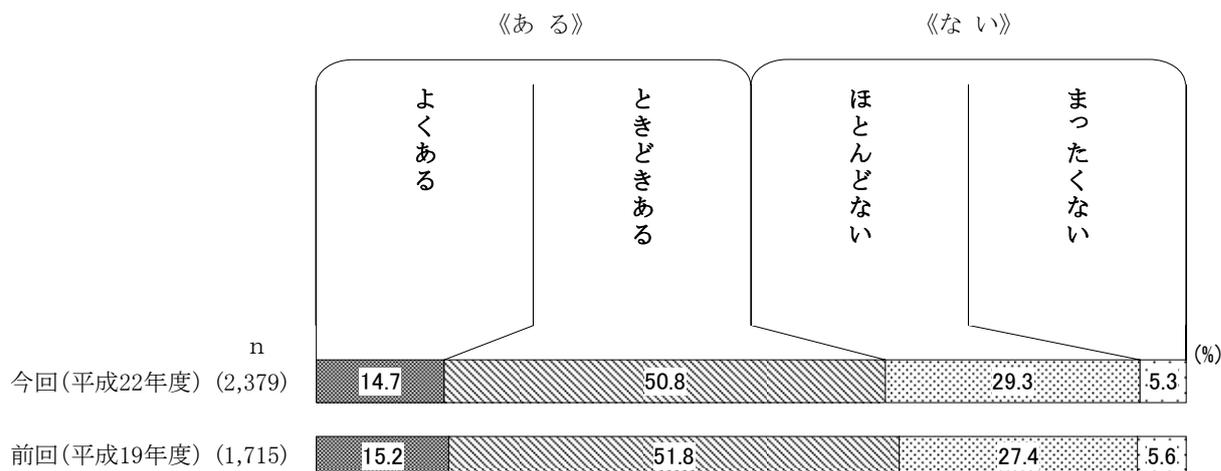


7. 普段の生活の中での不安や心配ごとについて

(1) 日常生活の中で不安を感じる経験

問21 あなた(ご本人)は、日常生活の中で不安を感じたり心配になったりすることがありますか。(1つに○)

不安や心配が《ある》層は6割台半ば



日常生活の中で不安を感じたり心配になったりすることの有無は、「ときどきある」(50.8%)が最も多く、「よくある」(14.7%)をあわせると、《ある》層が全体の65.5%を占める。

前回調査と比較すると、特に大きな変化はみられない。

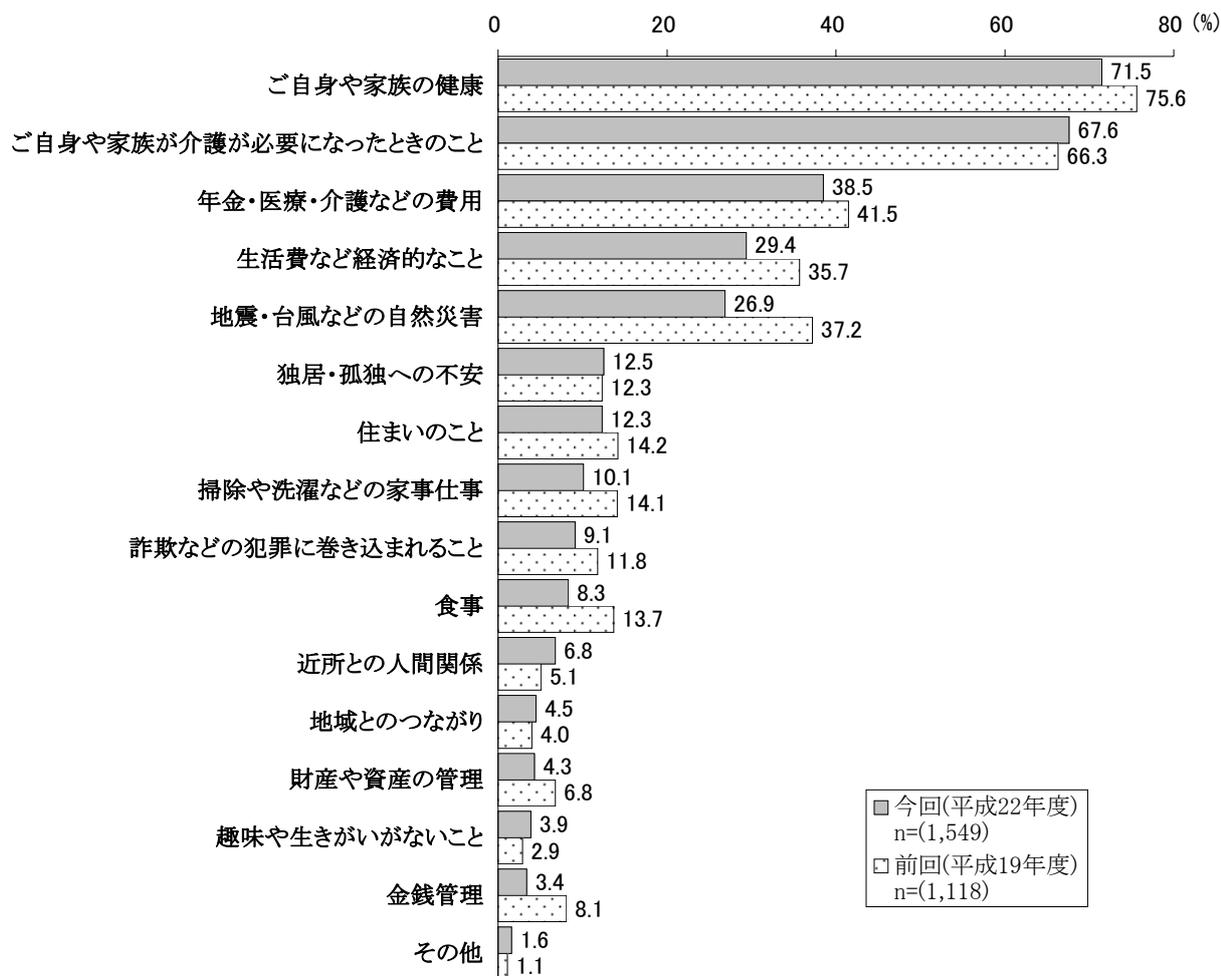
(2) 不安を感じているもの（複数回答）

《問21で「よくある」または「ときどきある」と回答した方のみお答えください》

問21-1 あなた(ご本人)が不安を感じているものは、次のうちどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

自分やその家族の健康のこと、介護が必要になったときのことが多い



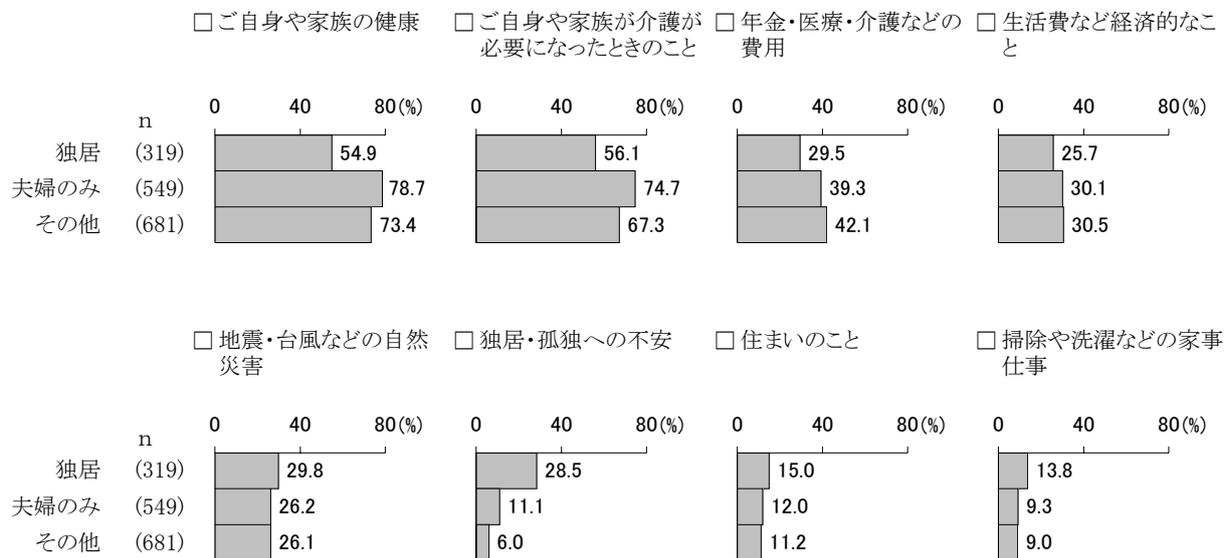
不安や心配がある方が、日常生活の中で不安を感じているものは、「ご自身や家族の健康」が71.5%と最も多く、「ご自身や家族が介護が必要になったときのこと」(67.6%)、「年金・医療・介護などの費用」(38.5%)、「生活費など経済的なこと」(29.4%)の順となっており、健康・介護や経済面での問題が上位にあげられている。

前回調査と比較すると、「地震・台風などの自然災害」は前回(37.2%)より10ポイント、「生活費など経済的なこと」は前回(35.7%)より6ポイント減少した。

第2章 調査結果の詳細

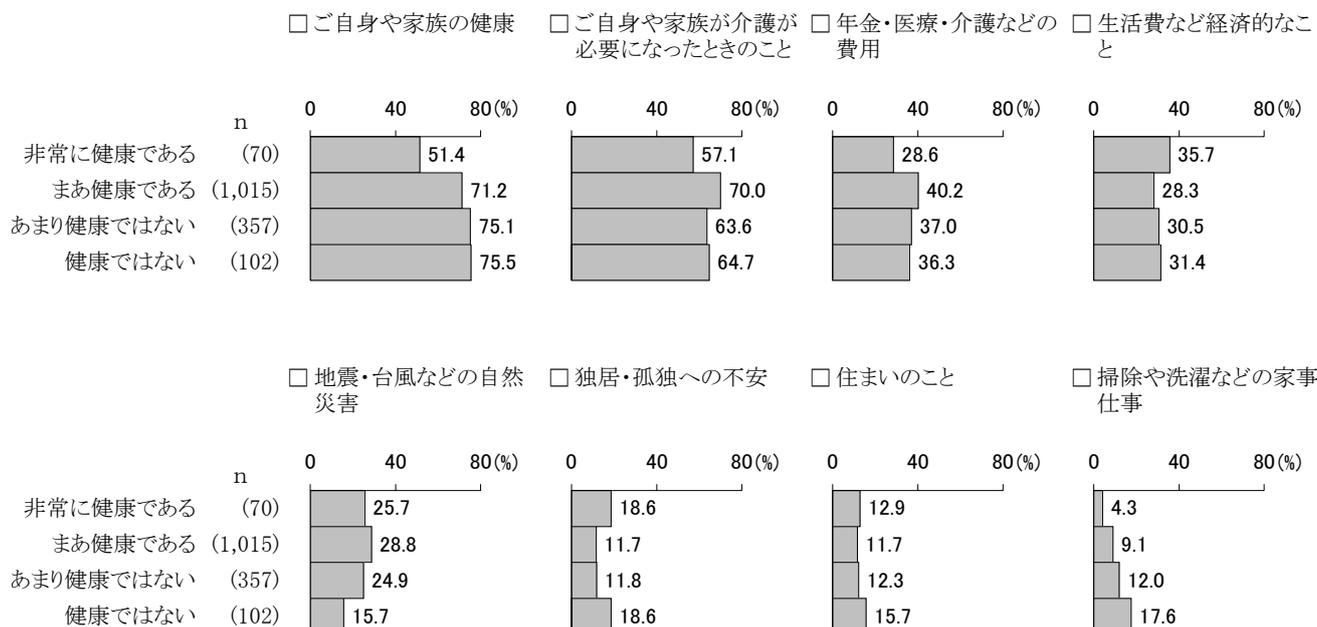
家族構成別にみると、夫婦のみの場合では「ご自身や家族の健康」や「ご自身や家族が介護が必要になったときのこと」、独居の場合では「地震・台風などの自然災害」「独居・孤独への不安」「住まいのこと」「掃除や洗濯などの家事仕事」において、それぞれ他の家族構成より割合が多くなっている。

不安を感じているもの（家族構成別（上位8項目））



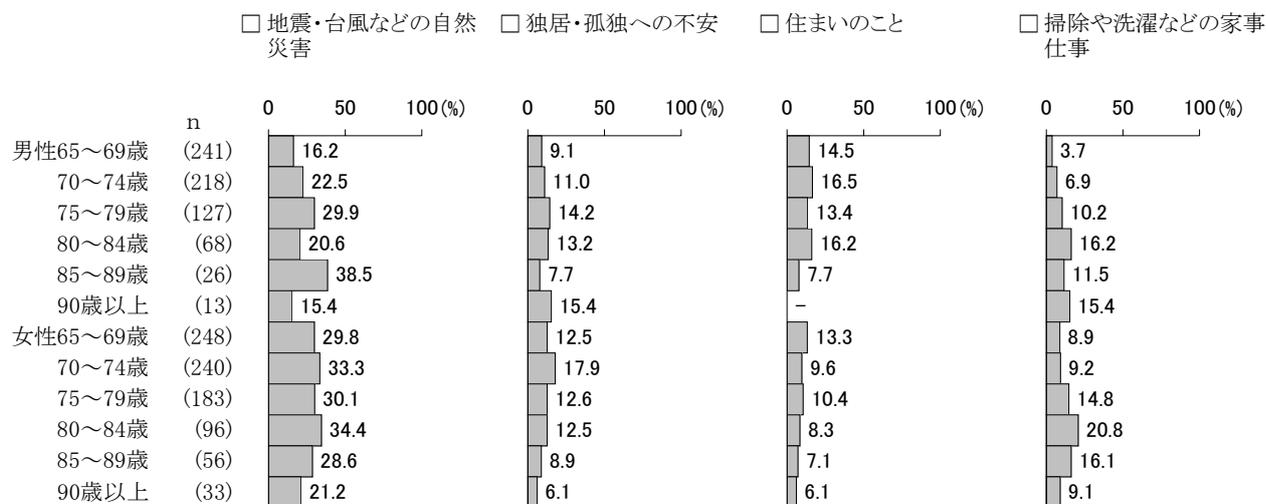
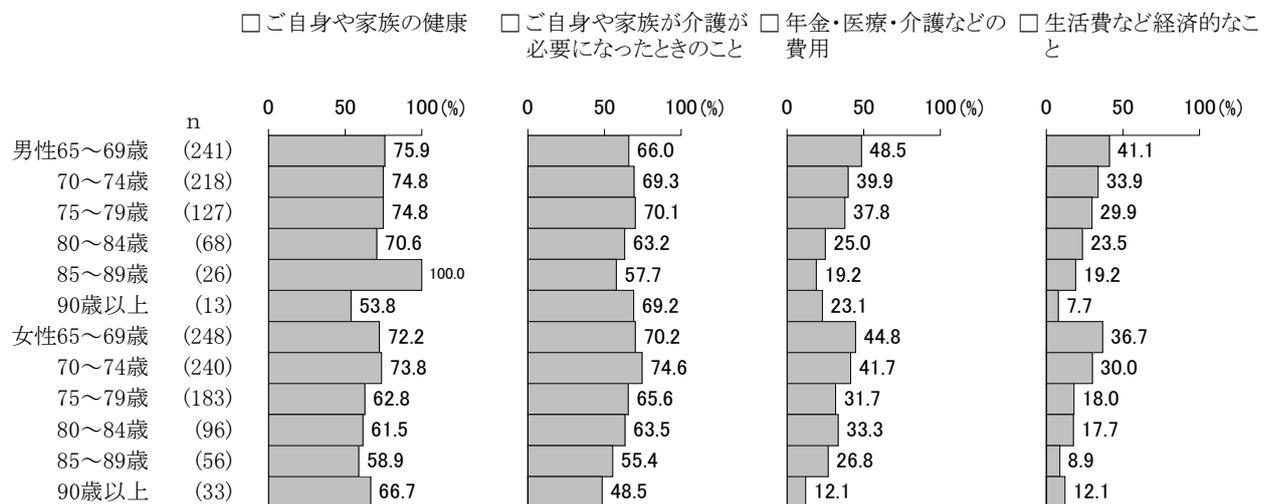
健康状態別にみると、「ご自身や家族の健康」、「ご自身や家族が介護が必要になったときのこと」は非常に健康であるでは5割台だが、それ以外の健康状態別では6～7割台と多い。「年金・医療・介護などの費用」はまあ健康であるで4割台と多い。また、「掃除や洗濯などの家事仕事」は健康状態が悪くなるほど割合が多くなる。

不安を感じているもの（健康状態別（上位8項目））



性・年齢別にみると、「ご自身や家族の健康」や「ご自身や家族が介護が必要になったときのこと」は男女とも、多くの年齢で上位にあげられている。「年金・医療・介護などの費用」「生活費など経済的なこと」においては男女とも、年齢が高くなるほどその割合は減少する傾向がみられる。

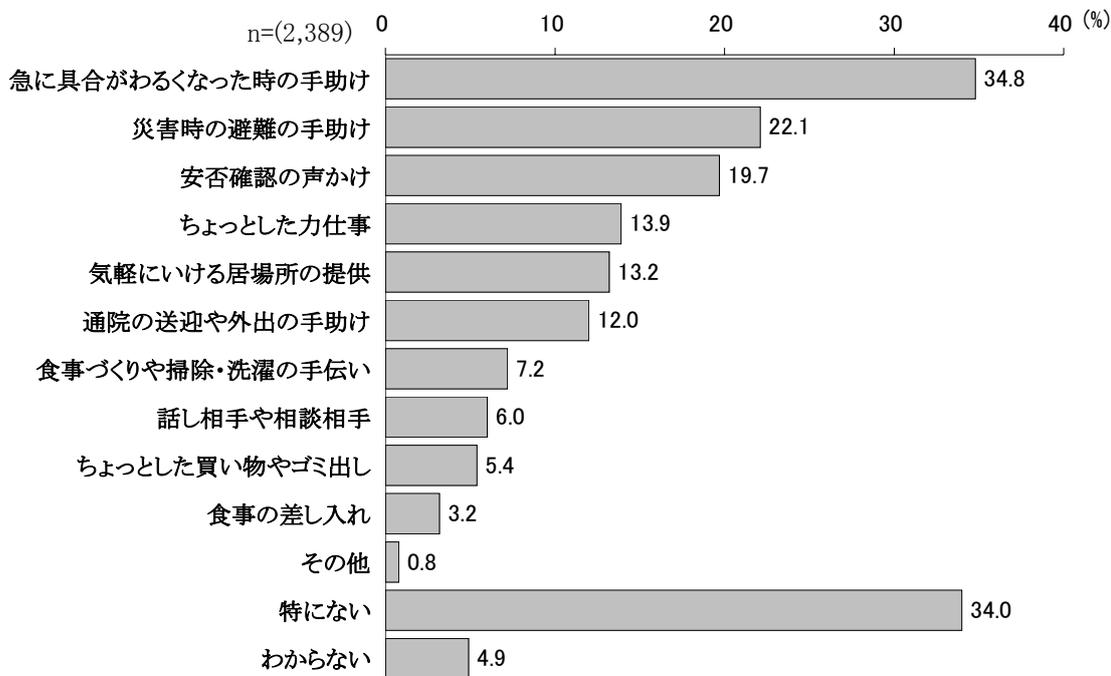
不安を感じているもの（性・年齢別（上位8項目））



(3) 在宅生活を続けていくための援助内容（複数回答）

問22 現在のお住まいで生活を続けていく上で、地域のどのような手助けがあれば助かると思われますか。（あてはまるものすべてに○）

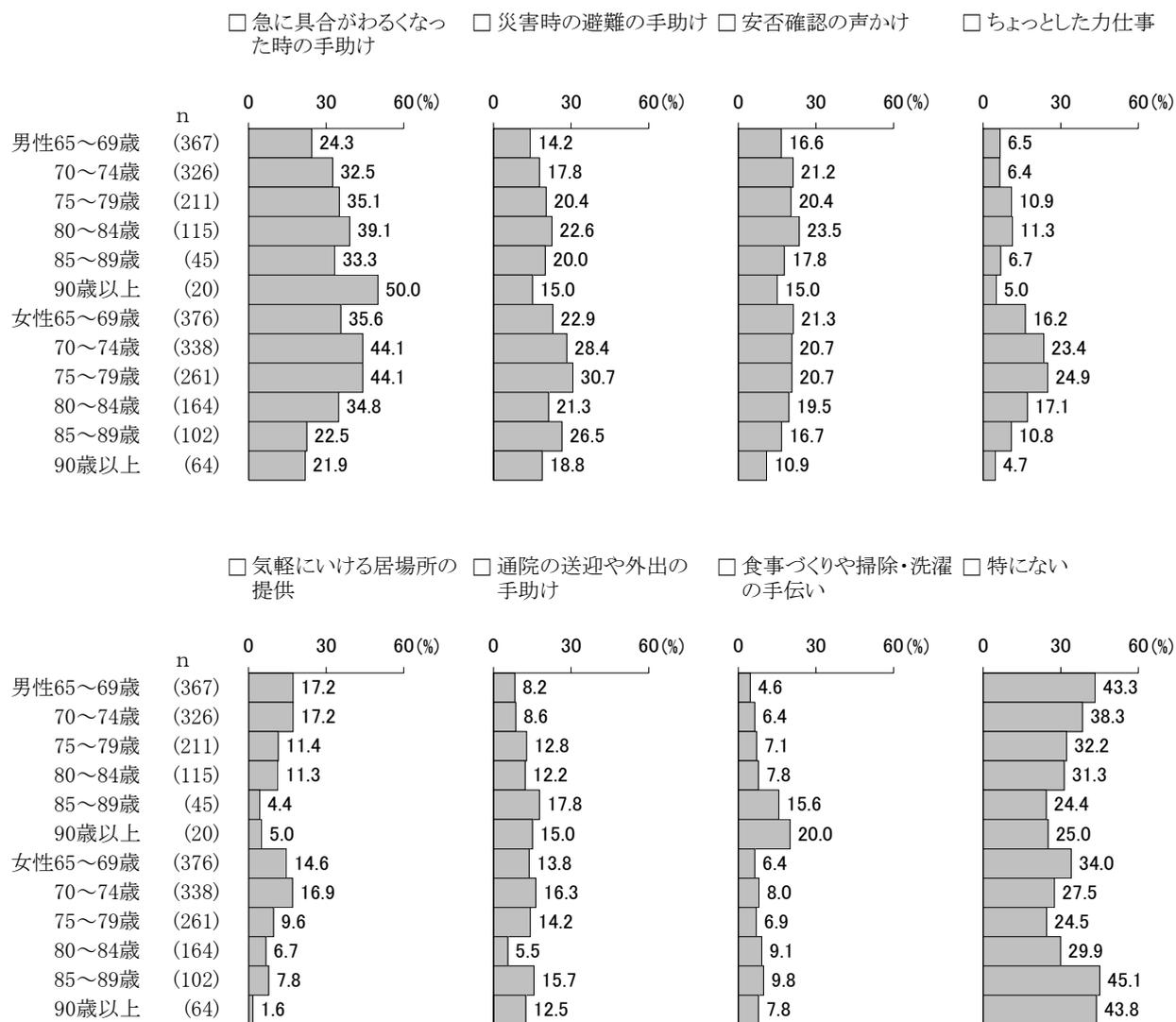
「急に具合がわるくなった時の手助け」が3割台半ばで最多



現在の住まいで生活を続けていく上で、あれば助かる地域の手助けは、「急に具合がわるくなった時の手助け」が34.8%と最も多く、以下、「災害時の避難の手助け」（22.1%）、「安否確認の声かけ」（19.7%）が2割前後が続いている。「特にない」（34.0%）と「わからない」（4.9%）を除くと、全体の61.1%の方が、地域での何らかの手助けがあれば助かると思っている。

性・年齢別にみると、「急に具合がわるくなった時の手助け」は男性の場合、年齢の高い層でその割合が比較的多く、女性の場合、70代で多くなっている。「災害時の避難の手助け」や「ちょっとした力仕事」は女性のほうがその割合が比較的多くなっている。一方、「特にない」は男性の場合、65～69歳で43.3%と最も多く、女性の場合、85歳以上の年齢の高い層で比較的多い結果となった。

在宅生活を続けていくための援助内容（性・年齢別（上位7項目+「特にない」））

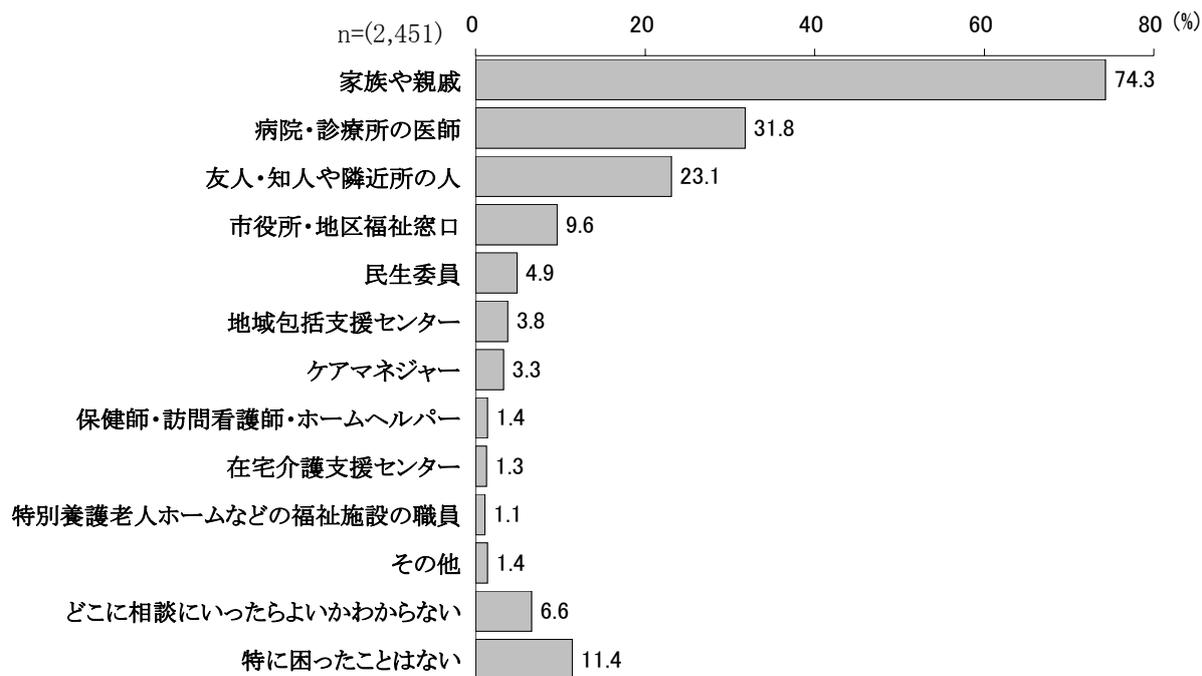


8. 相談相手について

(1) 困った時の相談先（複数回答）

問23 あなた（ご本人）が、健康や福祉、介護のことなどで困った時は、どなたに相談していますか。（あてはまるものすべてに○）

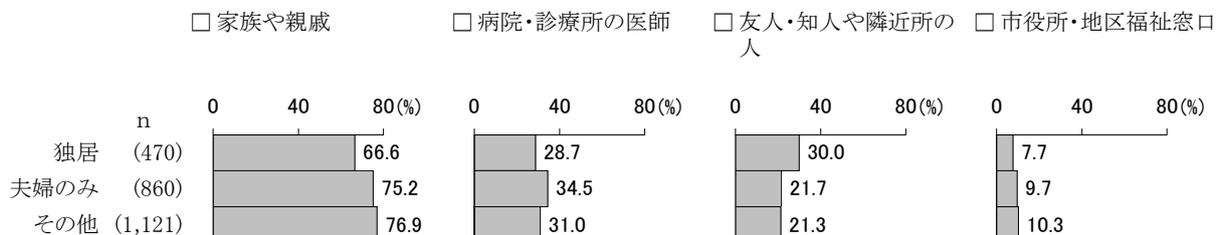
「家族や親戚」が7割台半ばで最多



健康や福祉、介護のことなどで困った時の相談先は、「家族や親戚」が74.3%で最も多く、以下、「病院・診療所の医師」(31.8%)、「友人・知人や隣近所の人」(23.1%)が続いている。

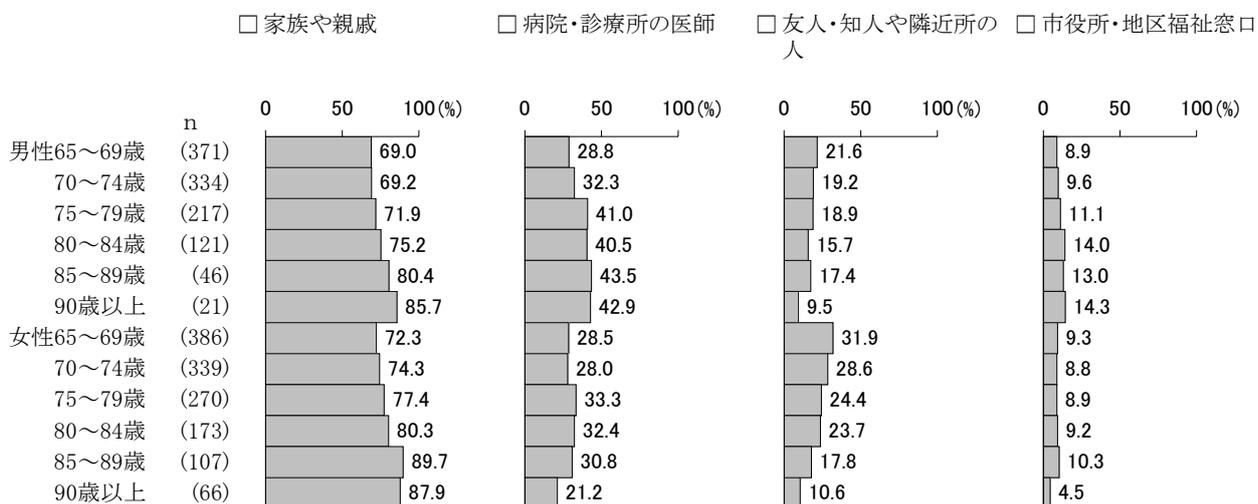
家族構成別にみると、「家族や親戚」はその他、夫婦のみで7割台、独居でも6割台と多くなっている。「友人・知人や隣近所の人」は独居で3割と多くなっている。

困った時の相談先（家族構成別（上位4項目））



性・年齢別にみると、「家族や親戚」は男女ともいずれの年齢でも6割以上となっており、特に男性の85歳以上、女性の80歳以上で8割台と多くなっている。「病院・診療所の医師」は男性の75歳以上で4割台と多くなっている。「友人・知人や隣近所の人」は女性65～69歳で3割台と多く、年齢が高くなるほどその割合は減少する傾向がみられる。

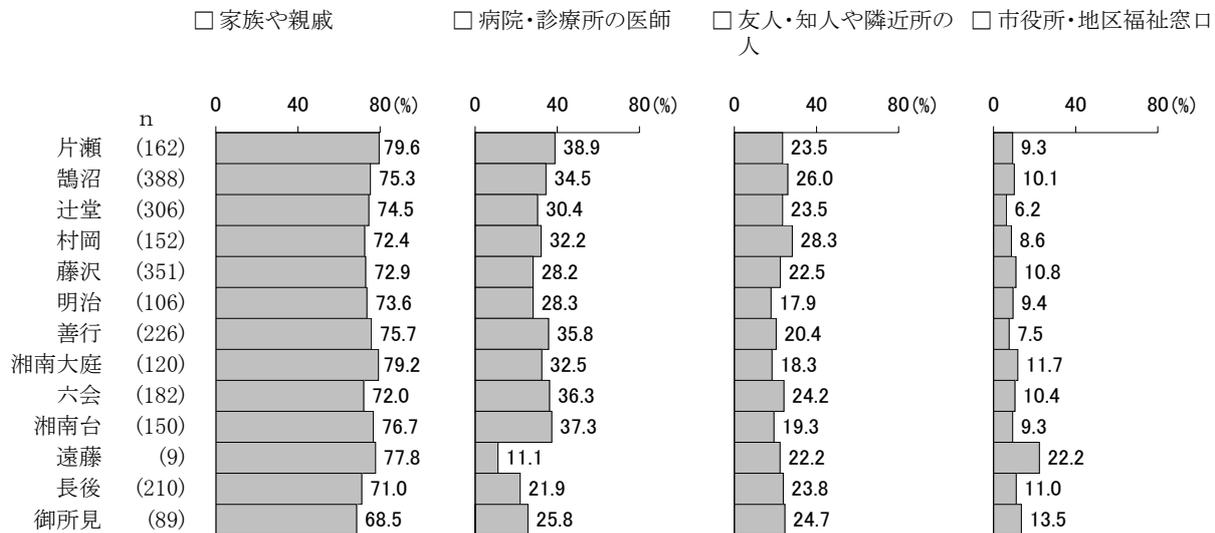
困った時の相談先（性・年齢別（上位4項目））



第2章 調査結果の詳細

地域別にみると、「家族や親戚」は御所見を除くいずれの地区でも7割台と多くなっている。

困った時の相談先（地域別（上位4項目））

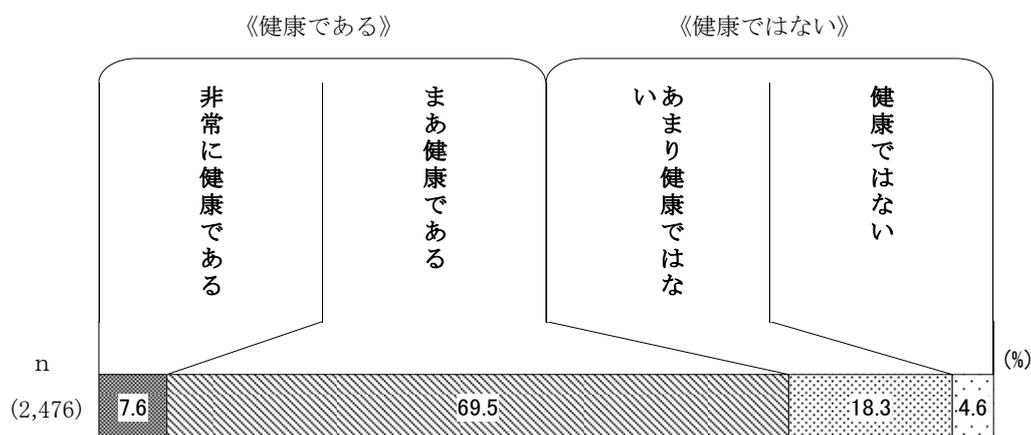


9. 健康状態について

(1) 主体的健康感

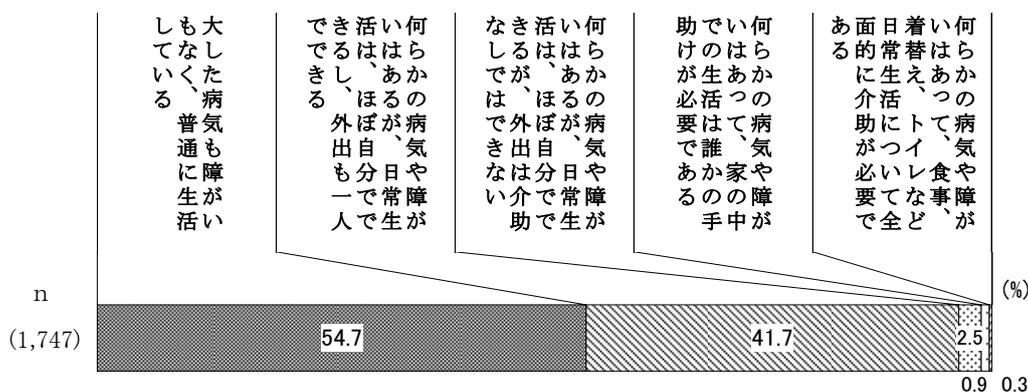
問24 あなた(ご本人)は、ご自分の健康状態をどのように感じていますか。(1つに○)

主体的健康感は、《健康である》が8割弱



ご自身の健康感は、「まあ健康である」が69.5%で最も多く、「非常に健康である」(7.6%)をあわせると、《健康である》層は全体の77.1%を占める。

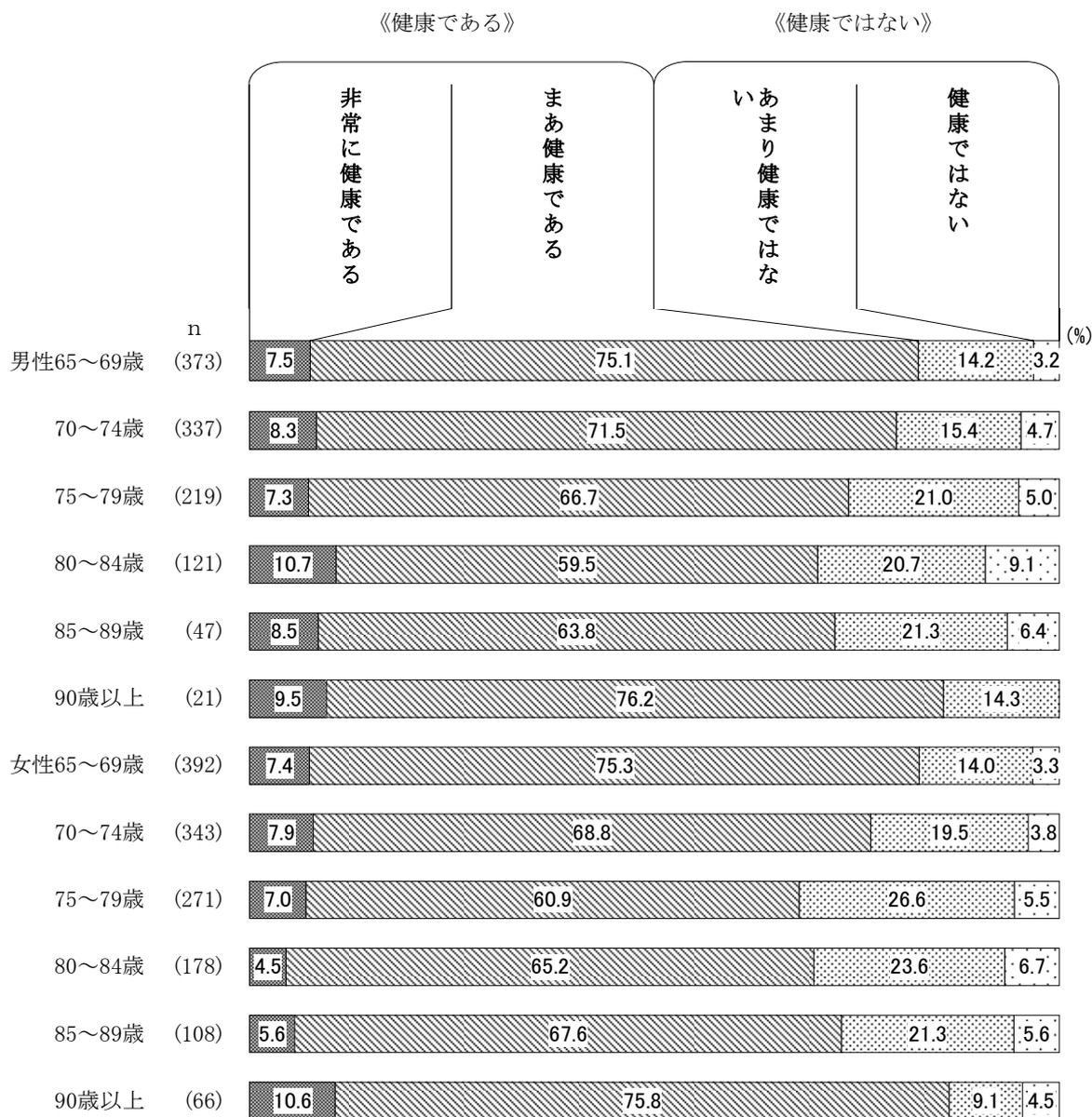
◆参考◆前回(平成19年度) 日常生活自立度



第2章 調査結果の詳細

性・年齢別にみると、《健康である》は男女とも、65～69歳からその割合は減少し、男性80～84歳、女性75～79歳を底に、再び増加している。

主体的健康感（性・年齢別）

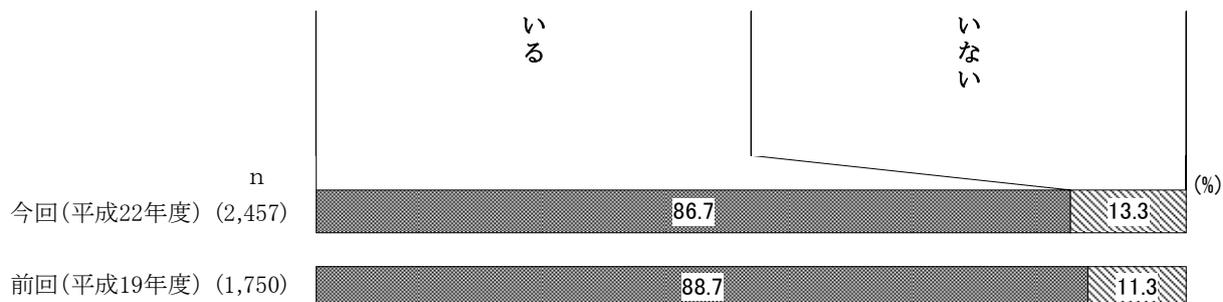


(2) かかりつけの医師の有無

問25 あなた(ご本人)は、治療や健康について相談する、かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局がありますか。(それぞれ〇は1つずつ)

かかりつけ医がいる割合は8割台半ば、歯科医は8割弱、薬局は6割台半ば

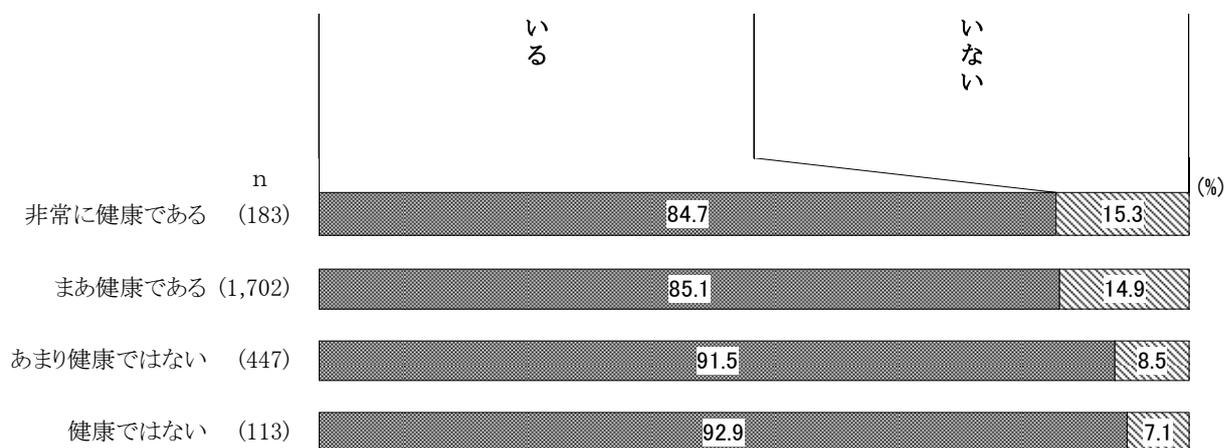
かかりつけ医



かかりつけ医は「いる」が86.7%、「いない」が13.3%となっている。

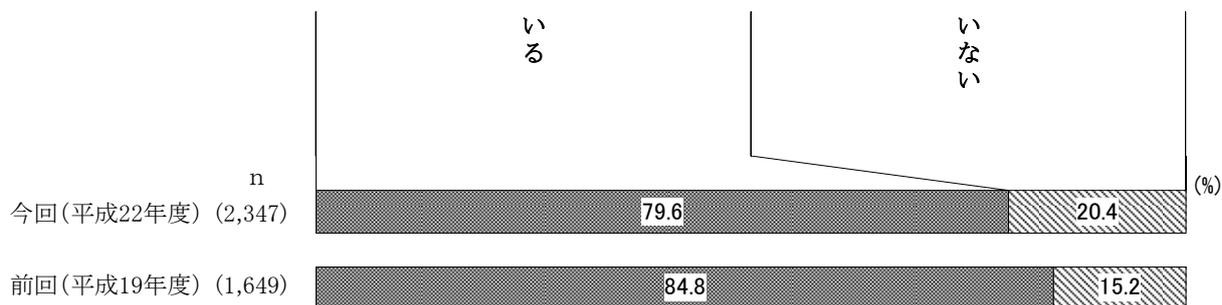
健康状態別にみると、かかりつけ医の「いる」割合は、「非常に健康である」場合で84.7%となっており、健康状態が悪いなるほど、「いる」の割合が多くなる傾向がみられる。

かかりつけ医の有無 (健康状態別)



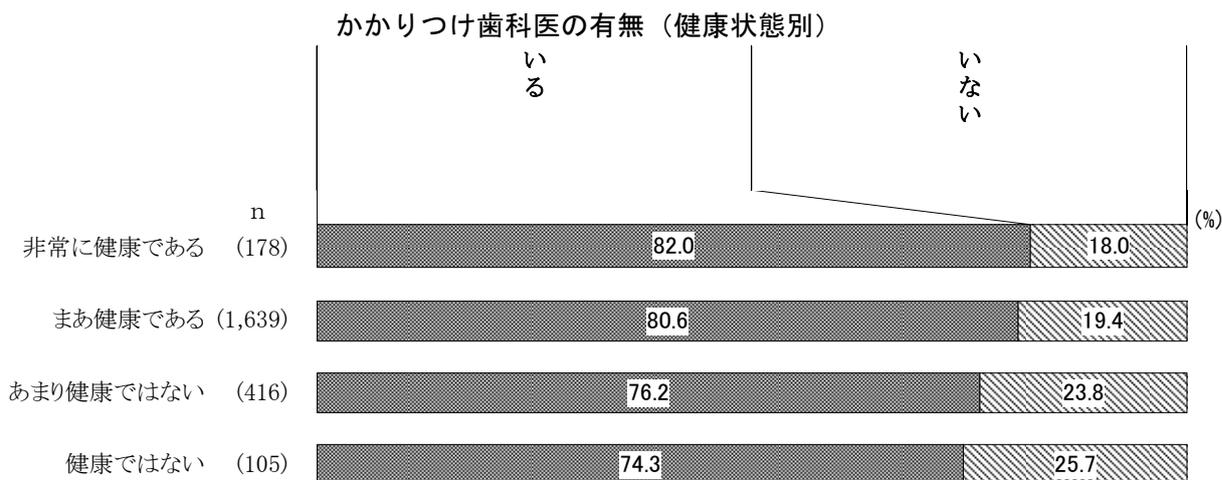
第2章 調査結果の詳細

かかりつけ歯科医

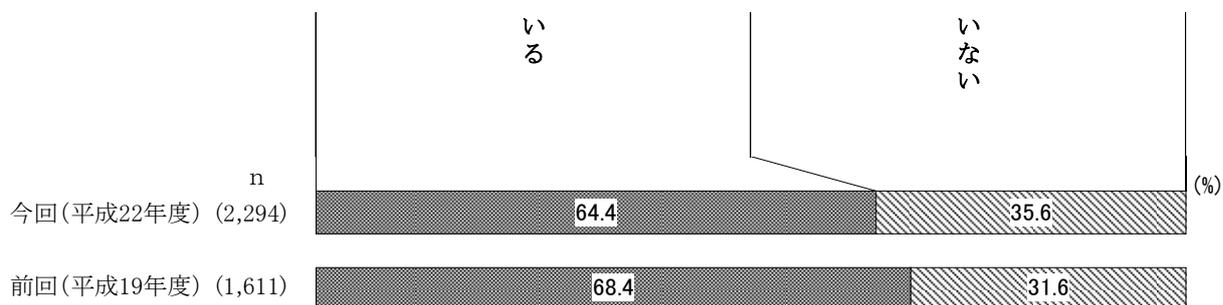


かかりつけ歯科医は「いる」が79.6%、「いない」が20.4%となっている。
 前回調査と比較すると、「いる」が前回（84.8%）より5ポイント減少した。

健康状態別にみると、かかりつけ歯科医の「いる」割合は、「非常に健康である」場合で82.0%となっており、かかりつけ医の有無とは反対に、健康状態が悪くなるほど、「いる」の割合が少なくなる傾向がみられる。



かかりつけ薬局

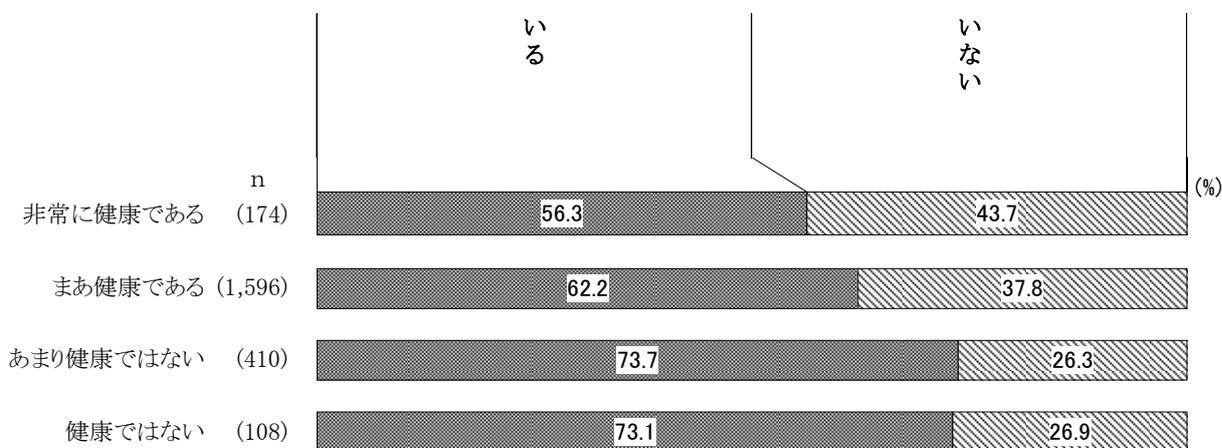


かかりつけ薬局は「いる」が64.4%、「いない」が35.6%となっている。

前回調査と比較すると、「いる」が前回（68.4%）より4ポイント減少、「いない」（31.6%）が4ポイント増加した。

健康状態別にみると、かかりつけ薬局が「いる」割合は、かかりつけ医の有無と同様、健康状態の悪い層で「いる」の割合が多くなっている。

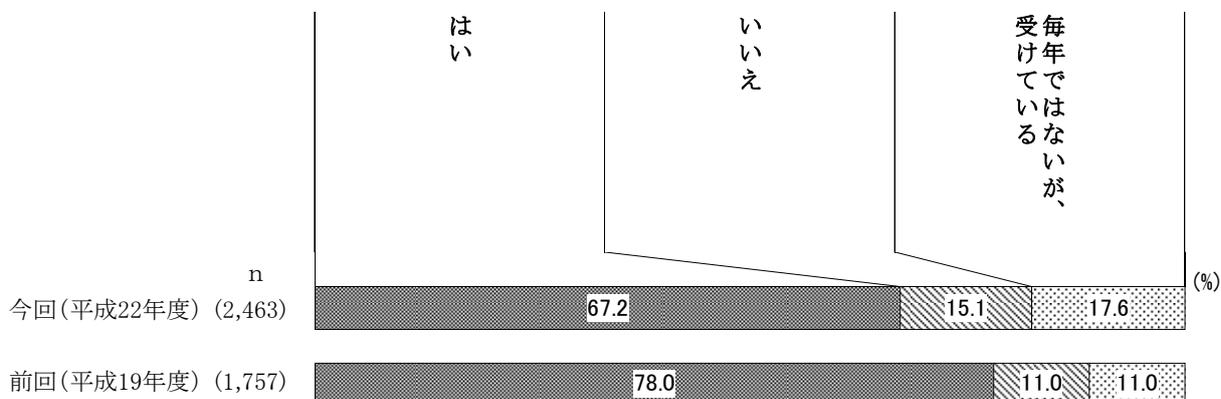
かかりつけ薬局の有無（健康状態別）



(3) 健康診断やがん検診の受診割合

問26 あなた(ご本人)は、毎年、健康診断やがん検診を受けていますか。(1つに○)

毎年受診している方の割合は7割弱

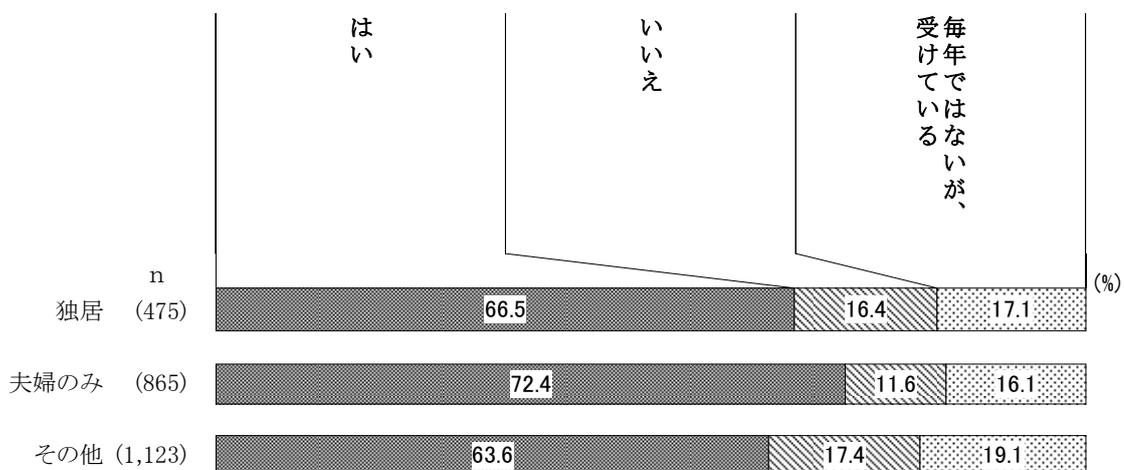


毎年、健康診断やがん検診を受けているか聞いたところ、「はい(受けている)」が67.2%で最も多く、「毎年ではないが、受けている」(17.6%)をあわせると、不定期も含めた健康診断やがん検診の受診率は84.8%であった。

前回調査と比較すると、「はい(受けている)」が前回(78.0%)より11ポイント減少、「毎年ではないが、受けている」、「いいえ(受けていない)」がそれぞれ7ポイント、5ポイント増加した。

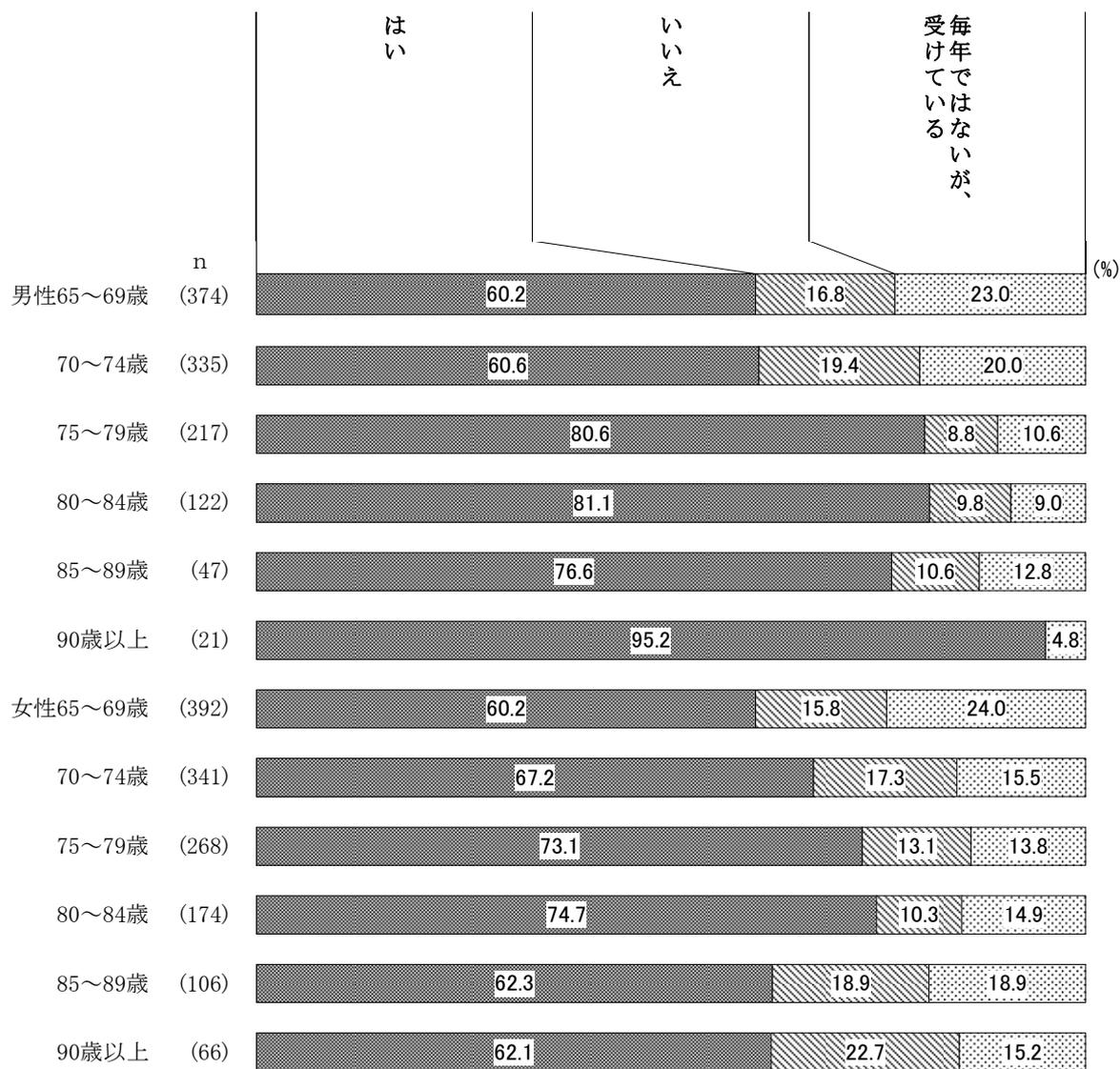
家族構成別にみると、「はい(受けている)」は夫婦のみで7割台と、他の家族構成より多くなっている。

健康診断やがん検診の受診割合(家族構成別)



性・年齢別にみると、「はい」(受けている)は、男性の場合、75歳以上で大きく増加し、女性の場合では、年齢が高くなるほど受診割合も増加し、85歳以上になると大きく減少した。「毎年ではないが、受けている」は男性65～69歳、70～74歳、女性65～69歳で2割台と比較的多い。一方、「いいえ」(受けていない)は女性90歳以上で2割台と比較的多くなっている。

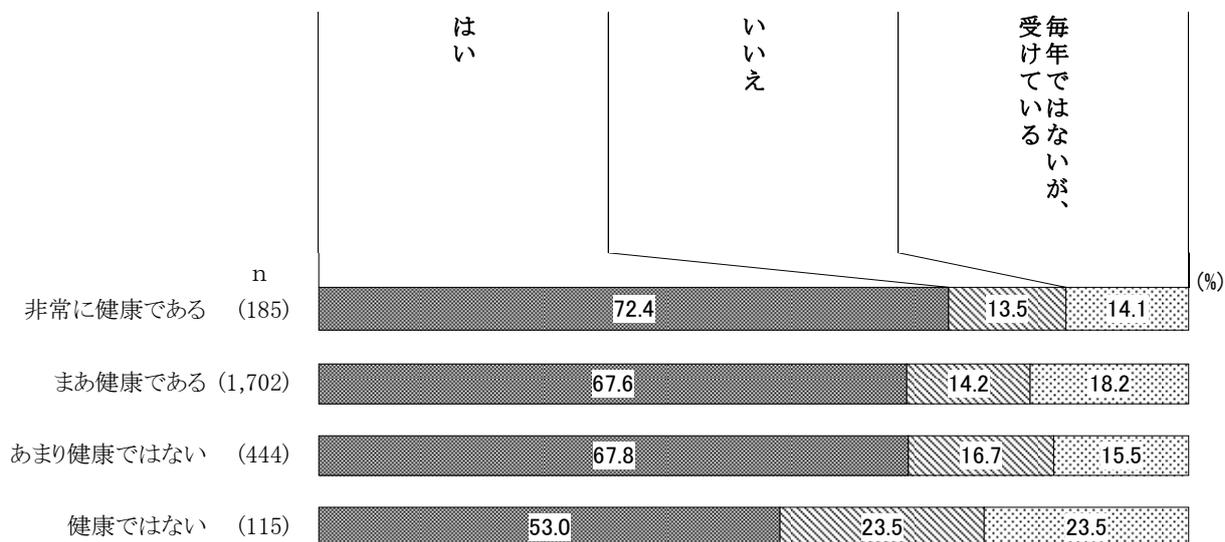
健康診断やがん検診の受診割合(性・年齢別)



第2章 調査結果の詳細

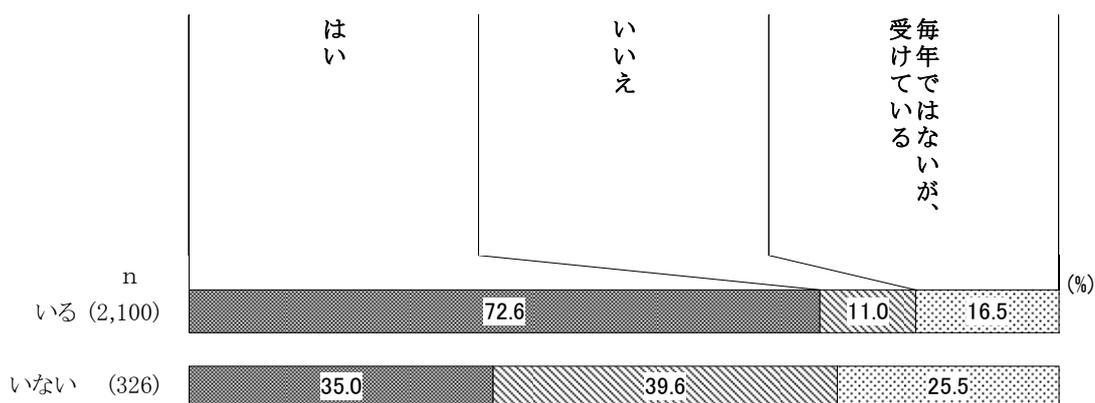
健康状態別にみると、健康診断やがん検診を受けている（「はい」）割合は、非常に健康である場合で7割台と最も多くなっている。一方、健康ではない場合は、「はい」（受けている）の割合は5割台と少なく、「いいえ」や「毎年ではないが、受けている」が多くなっている。

健康診断やがん検診の受診割合（健康状態別）



かかりつけ医の有無別にみると、かかりつけ医がいる場合、「はい」（受けている）の割合は72.6%と多く、「いいえ」（受けていない）は1割強であるのに対し、かかりつけ医がいない場合は、「いいえ」（受けていない）の割合が4割弱となっている。

健康診断やがん検診の受診割合（かかりつけ医の有無別）



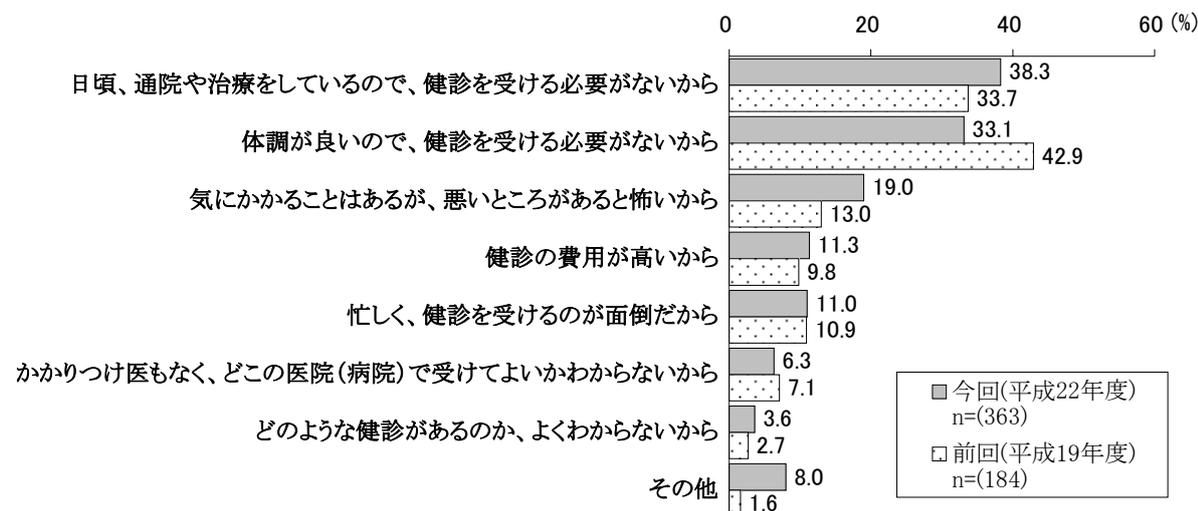
(4) 健康診断やがん検診を受けない理由

《問26で「いいえ」と回答した方のみお答えください》

問26-1 あなた(ご本人)が、健康診断やがん検診を受けない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

日頃通院や治療をしている、体調が良いがともに3割台が多い



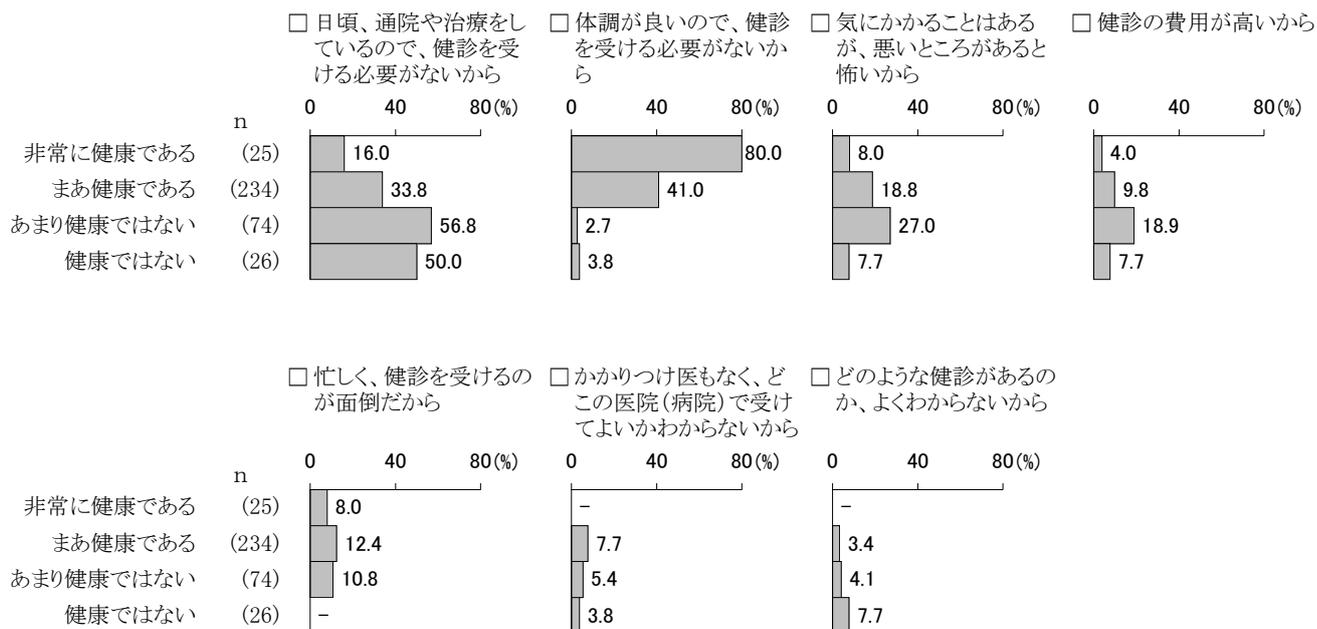
健康診断やがん検診を受けていない方の未受診の理由は、「日頃、通院や治療をしているので、健診を受ける必要がないから」(38.3%)、「体調が良いので、健診を受ける必要がないから」(33.1%)の2項目が3割台で多くなっている。

前回調査と比較すると、「体調が良いので、健診を受ける必要がないから」は前回(42.9%)より10ポイント減少した一方で、「気にかかることはあるが、悪いところがあると怖いから」は前回(13.0%)より6ポイント、「日頃、通院や治療をしているので、健診を受ける必要がないから」は前回(33.7%)より5ポイント増加した。

第2章 調査結果の詳細

健康状態別にみると、「日頃、通院や治療をしているので、健診を受ける必要がないから」は健康ではない層での割合が5割台と多く、日頃の通院や治療が健診の代わりとなっている。「体調が良いので、健診を受ける必要がないから」は、健康状態の良い層で割合が多く、非常に健康であるは8割と多い。また、「気にかかることはあるが、悪いところがあると怖いから」、「健診の費用が高いから」はあまり健康ではないで他の層より多くなっている。

健康状態別

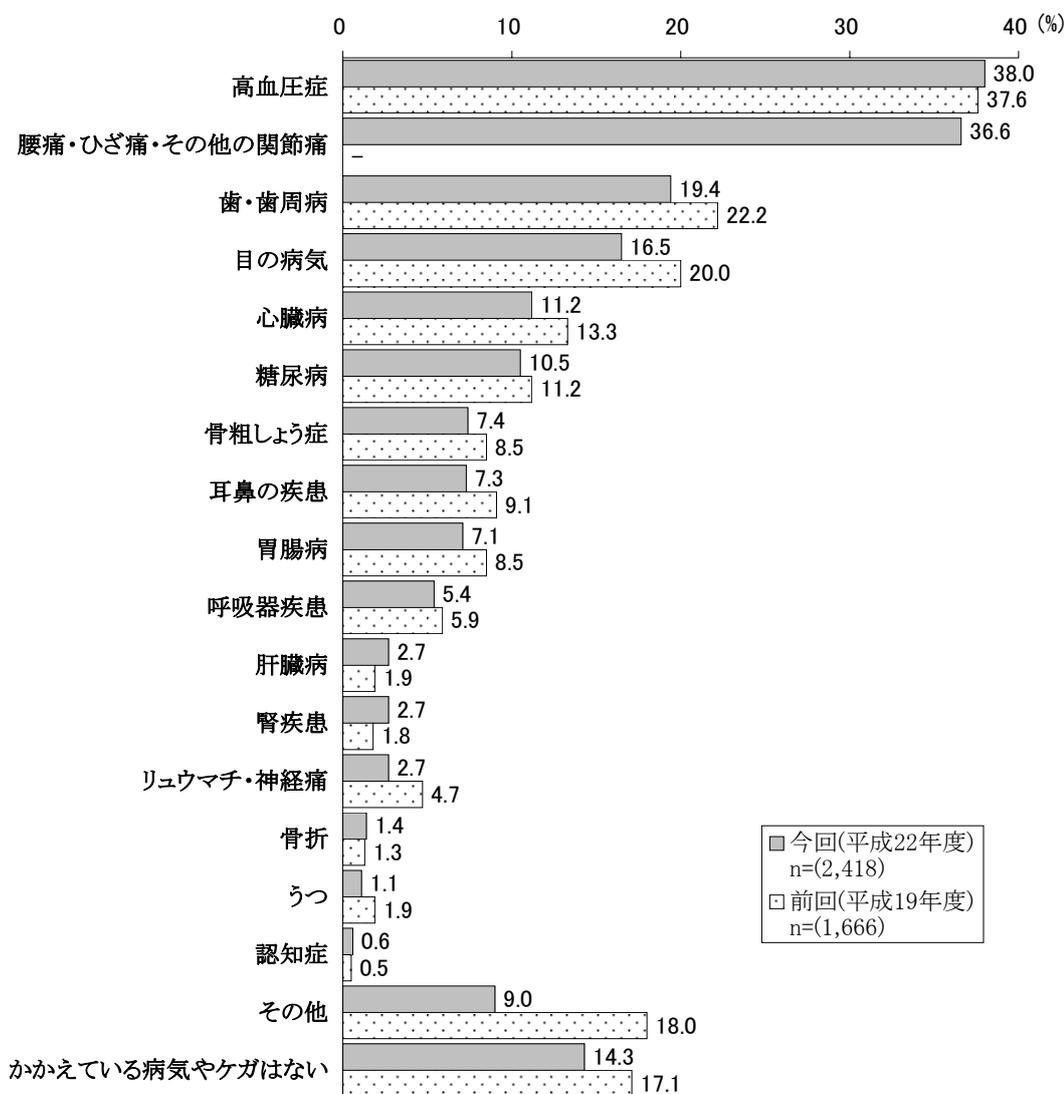


(5) 病気やケガの状況 (複数回答)

問27 あなた(ご本人)は、現在、何か病気やケガをかかえていますか。

(あてはまるものすべてに○)

「高血圧症」、「腰痛・ひざ痛・その他の関節痛」がともに3割台が多い



※「腰痛・ひざ痛・その他の関節痛」は今回(平成22年度)から

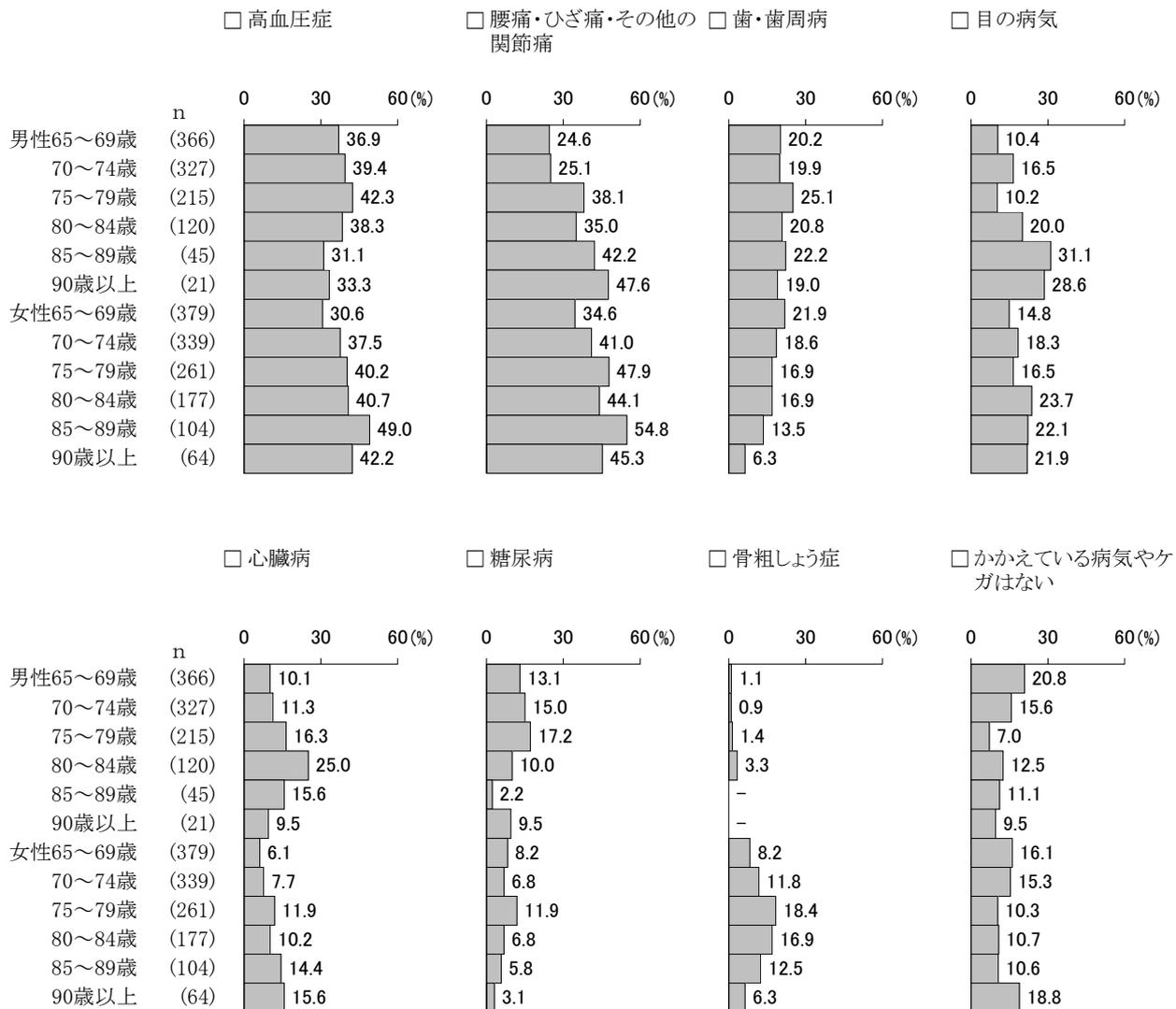
現在、かかえている病気やケガは、「高血圧症」(38.0%)、「腰痛・ひざ痛・その他の関節痛」(36.6%)の2項目が3割台が多く、以下、「歯・歯周病」(19.4%)、「目の病気」(16.5%)、「心臓病」(11.2%)、「糖尿病」(10.5%)が1割台で続いている。

前回調査と比較すると、上位5つの中では「歯・歯周病」や「目の病気」、「心臓病」が前回より減少した。

第2章 調査結果の詳細

性・年齢別にみると、「高血圧症」は男性の75～79歳、女性の75歳以上で4割台と多くなっている。「腰痛・ひざ痛・その他の関節痛」は全体的に女性での割合が多く、女性70歳以上で4割以上、特に85～89歳で5割台と多く、男性では85歳以上で4割台となっている。「歯・歯周病」は全体的に男性での割合が多い。「目の病気」は男性85歳以上で3割前後、「心臓病」は男性80～84歳で2割台となっている。この他、「骨粗しょう症」は女性の割合のほうが多くなっている。

病気やケガの状況（性・年齢別（上位7項目+「かかえている病気やケガはない」））

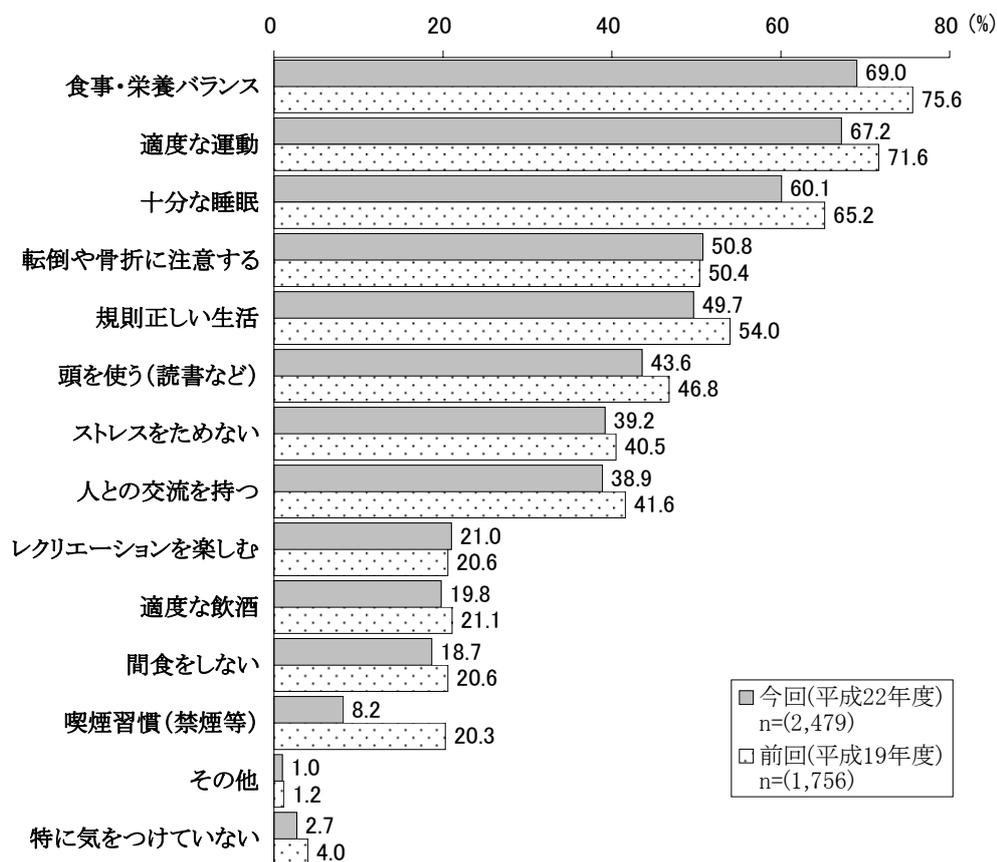


(6) 健康のために気をつけていること（複数回答）

問28 あなた(ご本人)が健康のために、気をつけていることは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

「食事・栄養バランス」、「適度な運動」、「十分な睡眠」がともに6割以上で多い



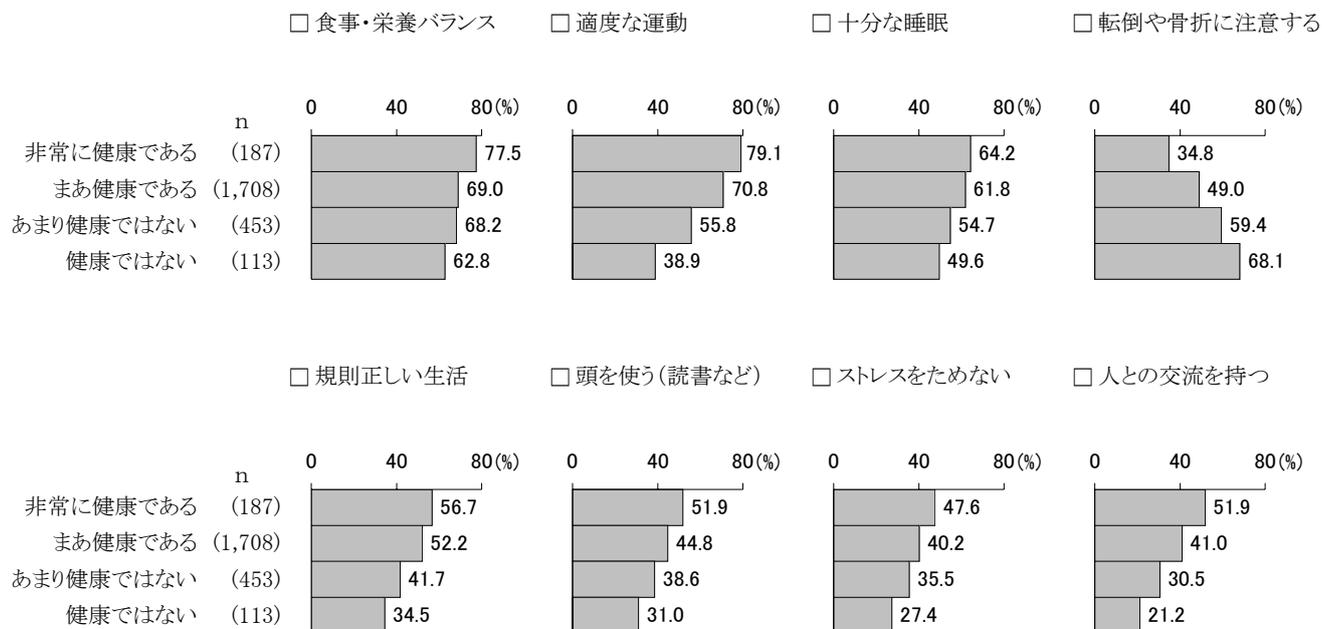
健康のために、気をつけていることは、上位から「食事・栄養バランス」(69.0%)、「適度な運動」(67.2%)、「十分な睡眠」(60.1%)、「転倒や骨折に注意する」(50.8%)、「規則正しい生活」(49.7%)の順となっている。

前回調査と比較すると、多くの項目で減少しており、中でも「喫煙習慣(禁煙等)」(8.2%)は前回(20.3%)より12ポイント近く減少した。

第2章 調査結果の詳細

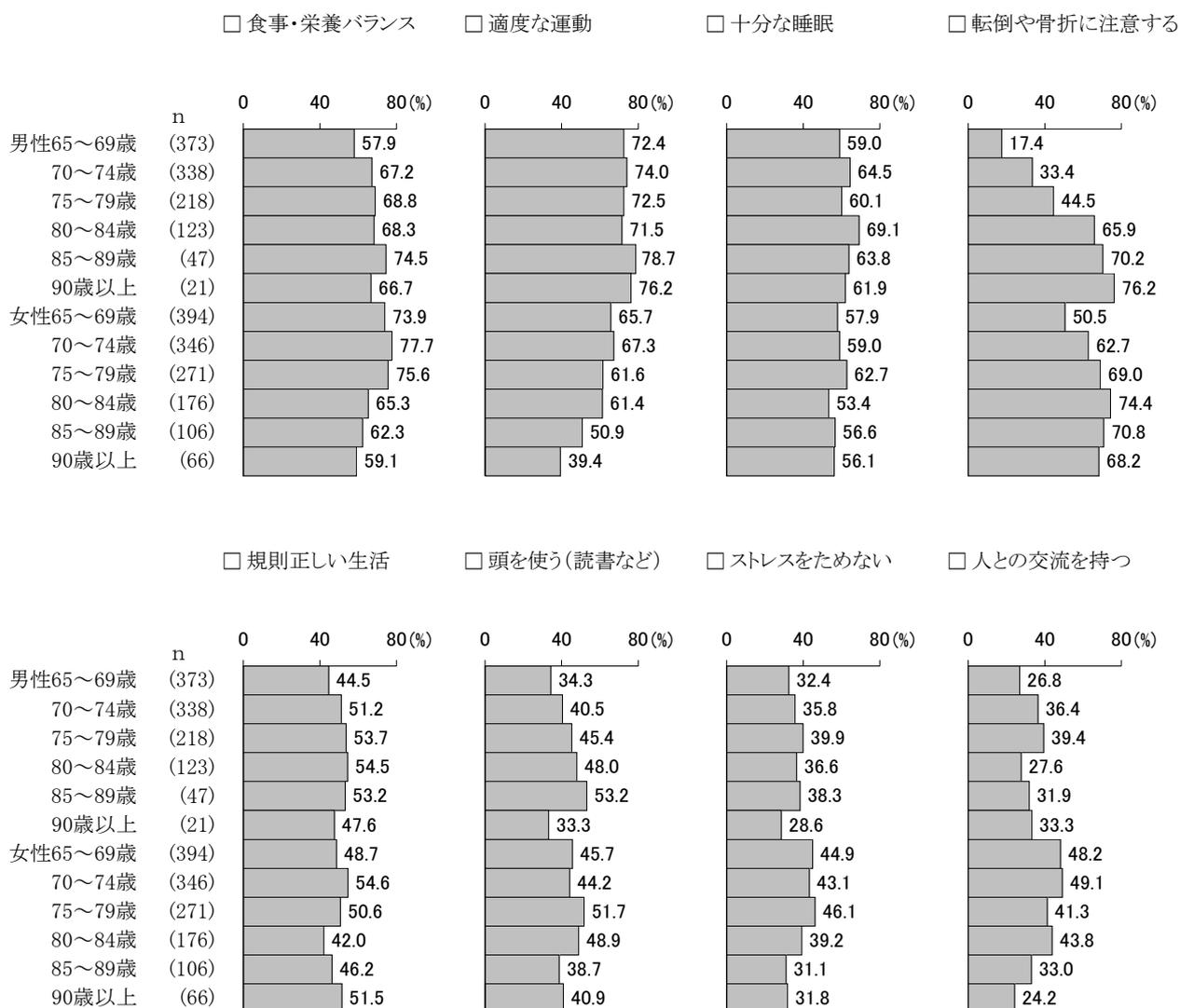
健康状態別にみると、「食事・栄養バランス」、「適度な運動」、「十分な睡眠」、「規則正しい生活」、「頭を使う（読書など）」、「ストレスをためない」、「人との交流を持つ」は、健康状態が良いほど、その割合が多くなる傾向がみられる。また、「転倒や骨折に注意する」は、健康状態が悪いほど、その割合が多くなる傾向がみられる。

健康のために気をつけていること（健康状態別（上位8項目））



性・年齢別にみると、「食事・栄養バランス」は男女ともいずれの年齢でも5割を超えて多く、特に男性85～89歳、女性70～74歳、75～79歳、65～69歳で7割台と多くなっている。「適度な運動」はどの年齢とも男性の割合が多く、いずれの年齢でも7割台となっている。逆に「転倒や骨折に注意する」は女性での割合が多く、70歳以上で6～7割台となっている。この他、「頭を使う（読書など）」は男性85～89歳、女性75～79歳で5割台と多く、「ストレスをためない」は女性75～79歳、65～69歳、70～74歳の順で多くなっている。また、「人との交流を持つ」は女性70～74歳、65～69歳、80～84歳、75～79歳の順で多くなっている。

健康のために気をつけていること（性・年齢別（上位8項目））

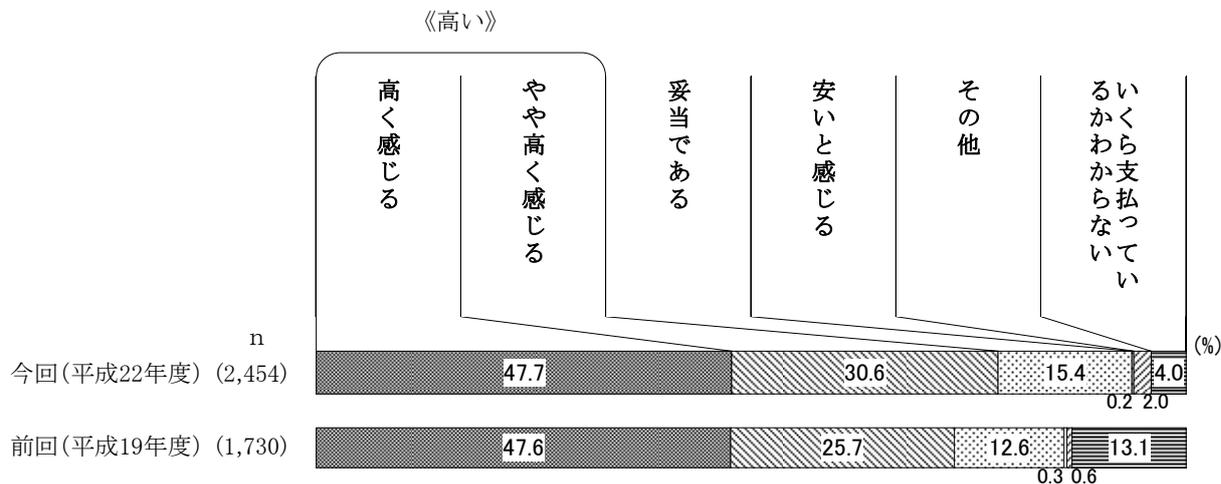


10. 介護保険について

(1) 介護保険料について

問29 あなた(ご本人)は、介護保険料について、どのように感じていますか。(1つに〇)

介護保険料を《高い》と感じている方は8割弱

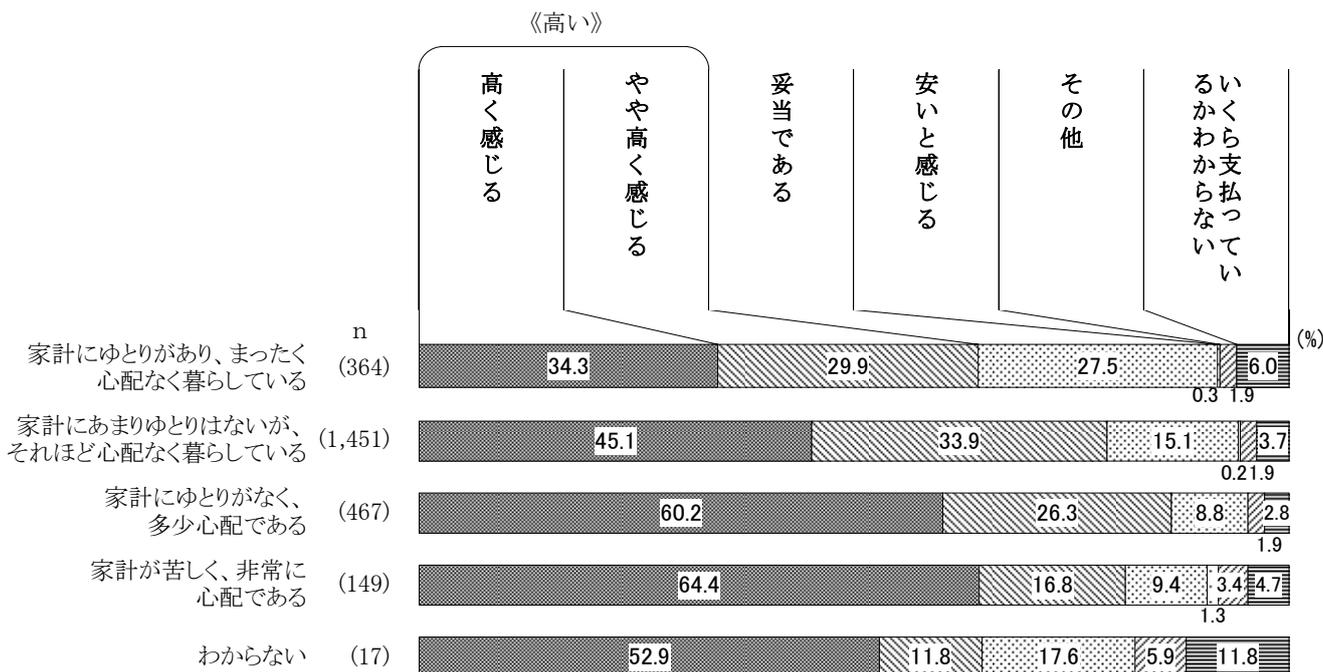


介護保険料について「高く感じる」が47.7%、「やや高く感じる」が30.6%で、両方をあわせると、《高い》と感じている方は全体の78.3%を占める。

前回調査と比較すると、《高い》と感じている方の割合が前回（73.3%）より5ポイント増加した。また、「いくら支払っているかわからない」は前回（13.1%）より9ポイント減少しており、支払額の認知度の向上がみられる。

暮らし向き別にみると、《高い》と感じている方の割合は、家計にゆとりがなく、多少心配である場合で86.5%と最も多く、暮らし向きに心配な層のほうが負担感も大きい。

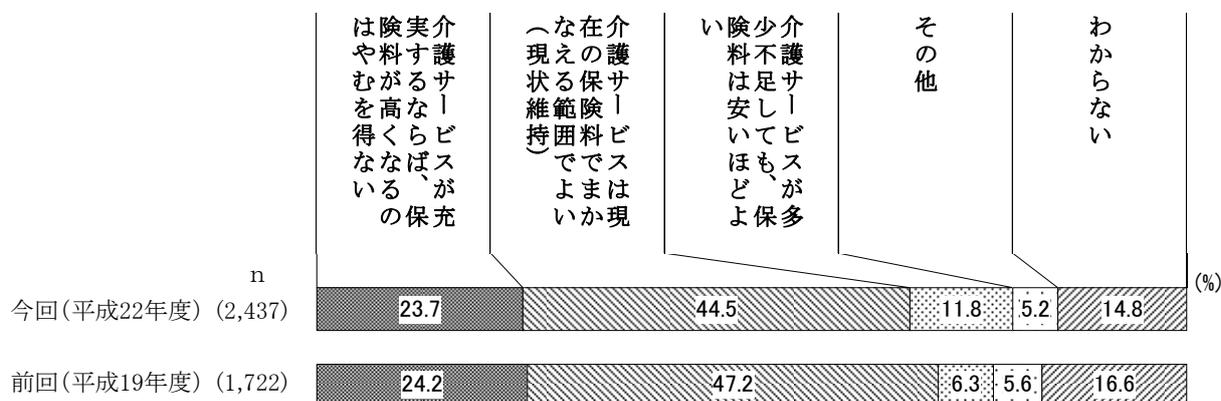
介護保険料について（暮らし向き別）



(2) 保険料とサービスに対する考え

問30 介護保険料は介護サービスの費用にあてられ、藤沢市全体のサービス利用が多いと保険料も高くなります。あなた(ご自身)の考えに最も近いものは、次のうちどれですか。
(1つに○)

現状維持が4割台半ばで最多

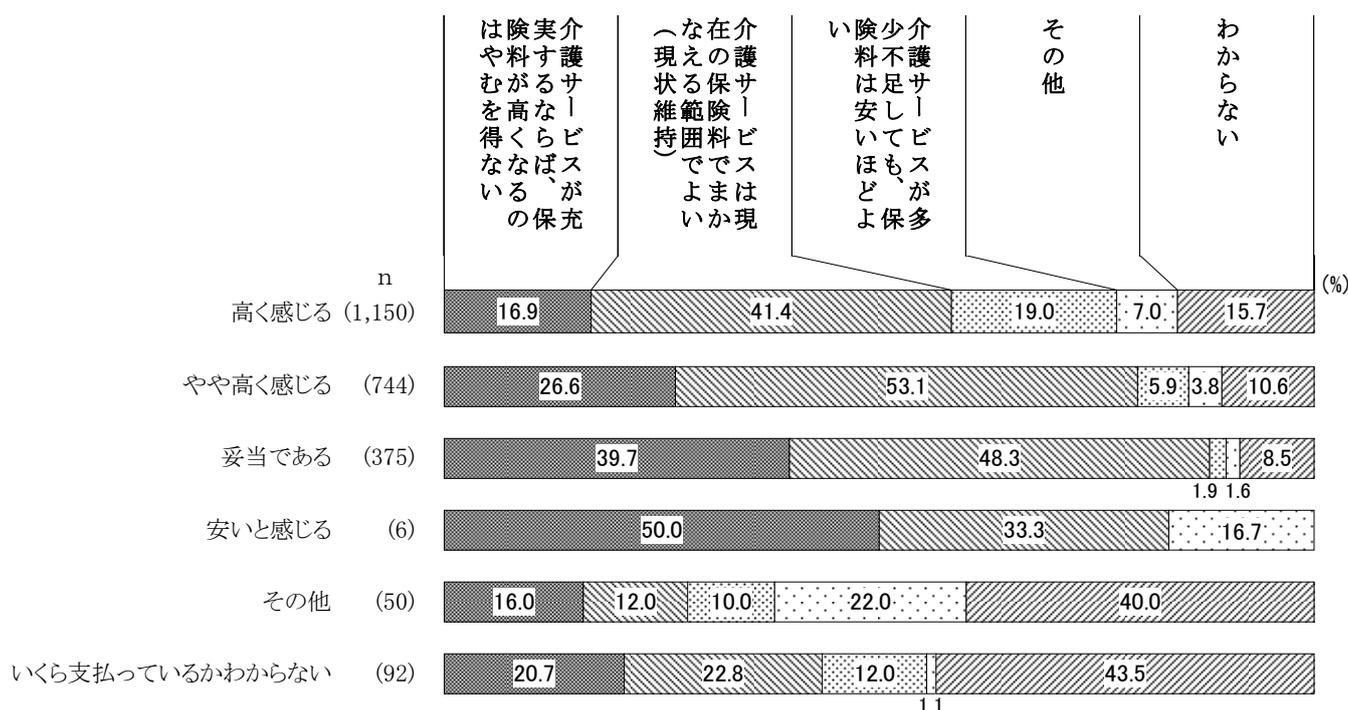


介護保険料とサービスの利用の関係を聞いたところ、「介護サービスは現在の保険料でまかなえる範囲でよい(現状維持)」が44.5%で最も多く、次いで「介護サービスが充実するならば、保険料が高くなるのはやむを得ない」が23.7%と続いている。

前回調査と比較すると、「介護サービスが多少不足しても、保険料は安いほどよい」が前回(6.3%)より6ポイント増加した。

介護保険料の負担感別にみると、「介護サービスが充実するならば、保険料が高くなるのはやむを得ない」は、介護保険料の負担感が大きくなるほど、その割合は減少する傾向がみられる。

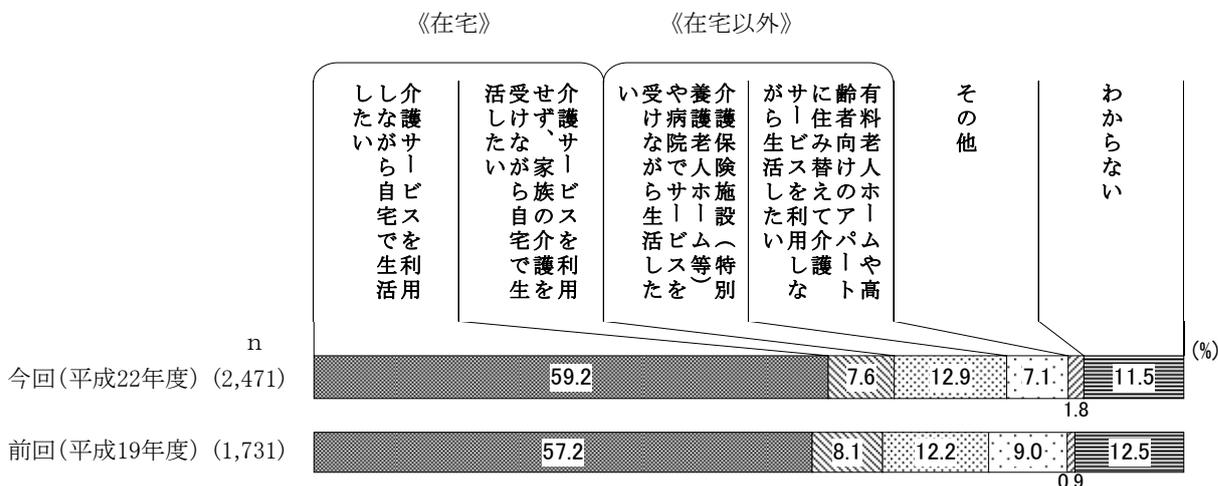
保険料とサービスに対する考え(介護保険料の負担感別)



(3) 介護が必要となった場合の希望

問31 あなた(ご本人)は、介護が必要となった場合の生活について、どのような希望をお持ちですか。(1つに〇)

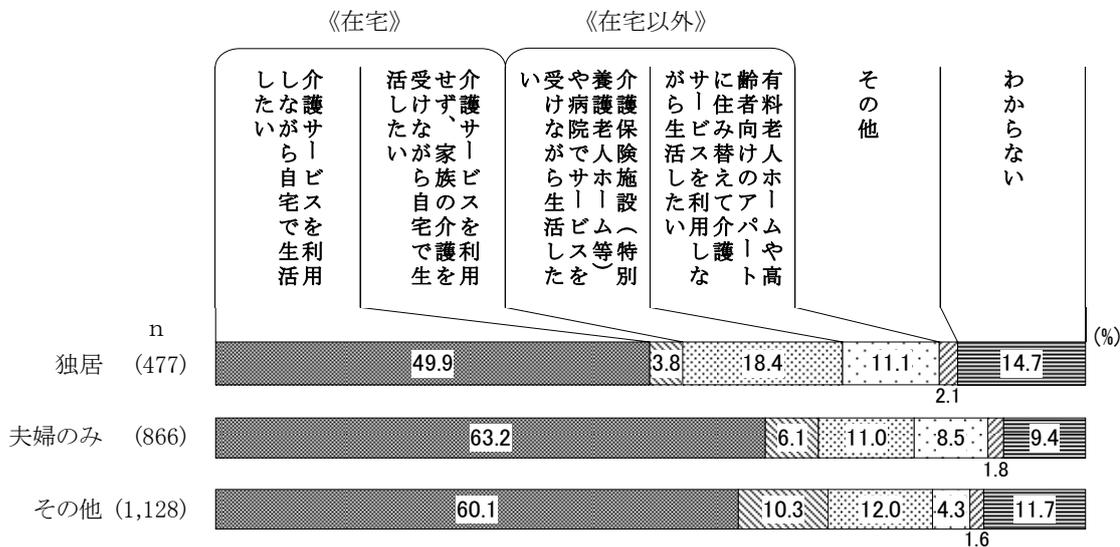
在宅介護を希望する方は6割台半ば、在宅以外での介護を望む方は2割



介護が必要となった場合の生活の希望は、「介護サービスを利用しながら自宅で生活したい」が59.2%、「介護サービスを利用せず、家族の介護を受けながら自宅で生活したい」が7.6%、両方をあわせると、《在宅》での介護を望む方は全体の66.8%を占める。また、「介護保険施設(特別養護老人ホーム等)や病院でサービスを受けながら生活したい」(12.9%)、「有料老人ホームや高齢者向けのアパートに住み替えて介護サービスを利用しながら生活したい」(7.1%)をあわせると、《在宅以外》での介護を望む方は全体の20.0%を占める。

家族構成別にみると、在宅での介護を望む方の割合は、夫婦のみやその他の同居家族の場合で比較的多くなっている。独居の場合では、《在宅》希望は、夫婦のみやその他の同居家族に比べて少なくなり、《在宅以外》の介護を希望する方の割合が増えている。

介護が必要になった場合の希望(家族構成別)

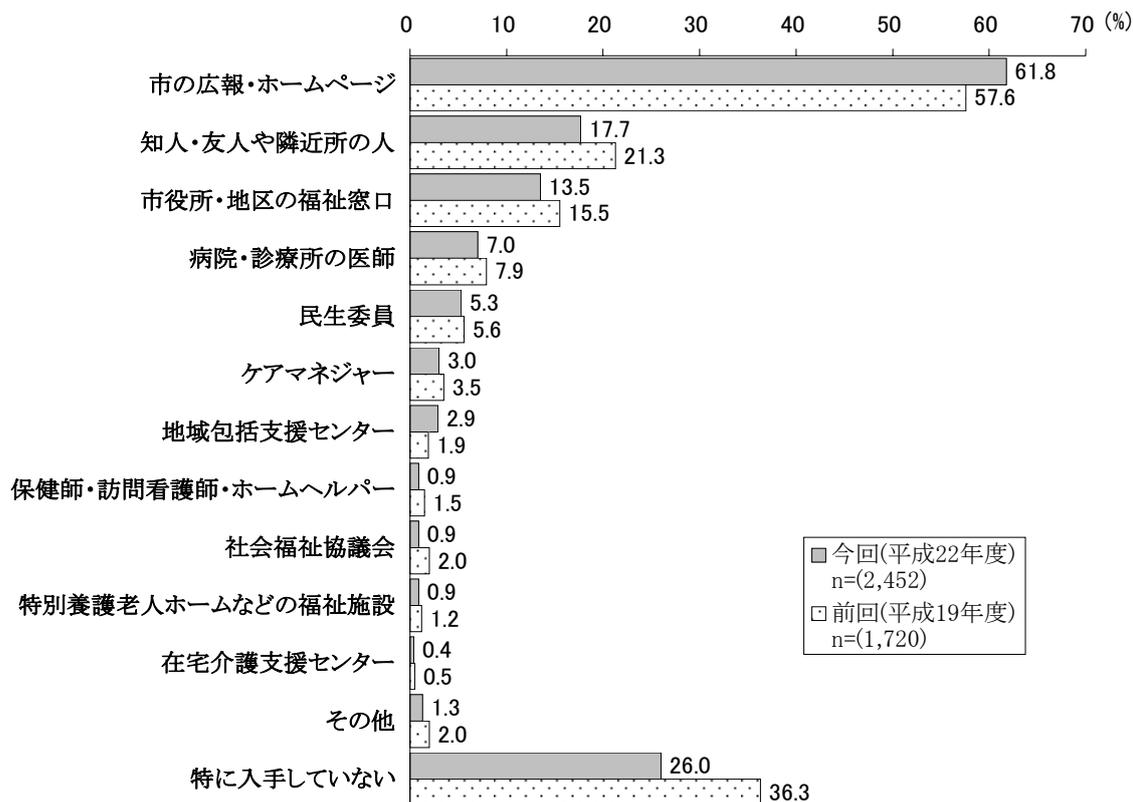


11. 高齢者福祉施策について

(1) 高齢者に関する情報の入手方法（複数回答）

問32 あなた(ご本人)は、市が実施している高齢者に対するサービスや事業に関する情報をどのような方法で入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

「市の広報・ホームページ」が6割強で最多



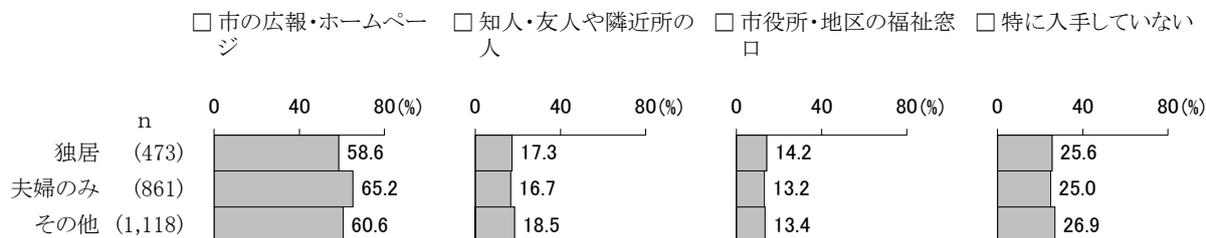
市が実施している高齢者に対するサービスや事業に関する情報の入手方法は、「市の広報・ホームページ」が61.8%で最も多く、以下、「知人・友人や隣近所の人」(17.7%)、「市役所・地区の福祉窓口」(13.5%)と続いている。また、情報を「特に入手していない」は26.0%であった。

前回調査と比較すると、「市の広報・ホームページ」や「地域包括支援センター」で前回より増加した。また、「特に入手していない」は、前回(36.3%)から10ポイント減少し、高齢者に関する何らかの情報を入手している方の割合は増加した。

第2章 調査結果の詳細

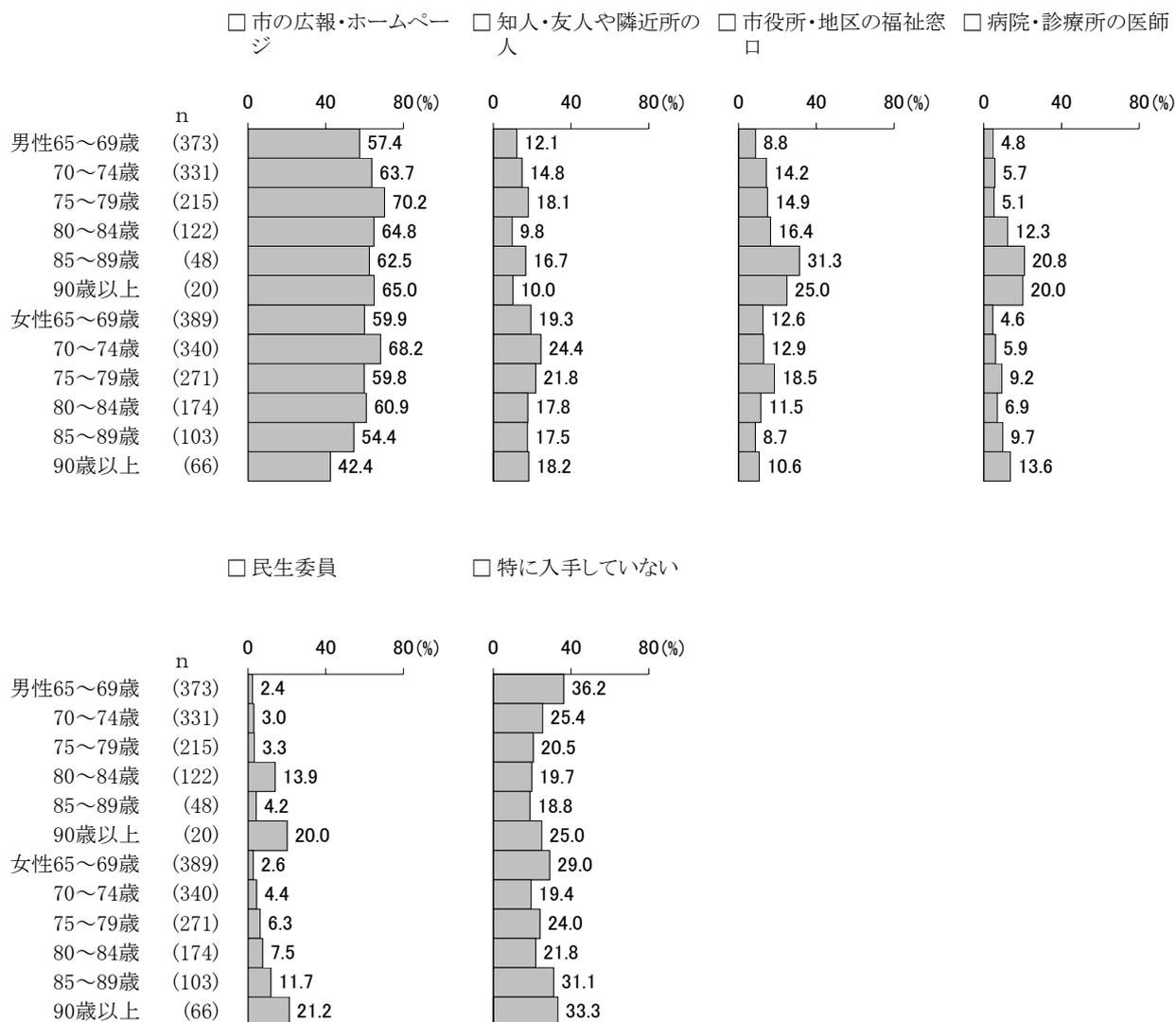
家族構成別にみると、「市の広報・ホームページ」は、夫婦のみの場合、65.2%で最も多く、また、独居の場合では58.6%となっている。

高齢者に関する情報の入手方法（家族構成別（上位3項目+「特に入手していない」））



性・年齢別にみると、「市の広報・ホームページ」は男女ともいずれの年齢でも最も多くあげられている。男性85歳以上の場合では、「市役所・地区の福祉窓口」「病院・診療所の医師」の割合が他の性・年代に比べて多くなっている。「特に入手していない」は、男性65～69歳、女性85歳以上で特に多く、3割台となっている。

高齢者に関する情報の入手方法（性・年齢別（上位5項目+「特に入手していない」））



(2) 高齢者福祉サービスの利用者負担について

問33 あなた(ご本人)は、高齢者福祉サービスを利用するにあたって、一定の利用者負担を支払うことについて、どのようにお考えですか。(1つに○)

「現状の程度でよい」「わからない」がともに3割台半ばが多い



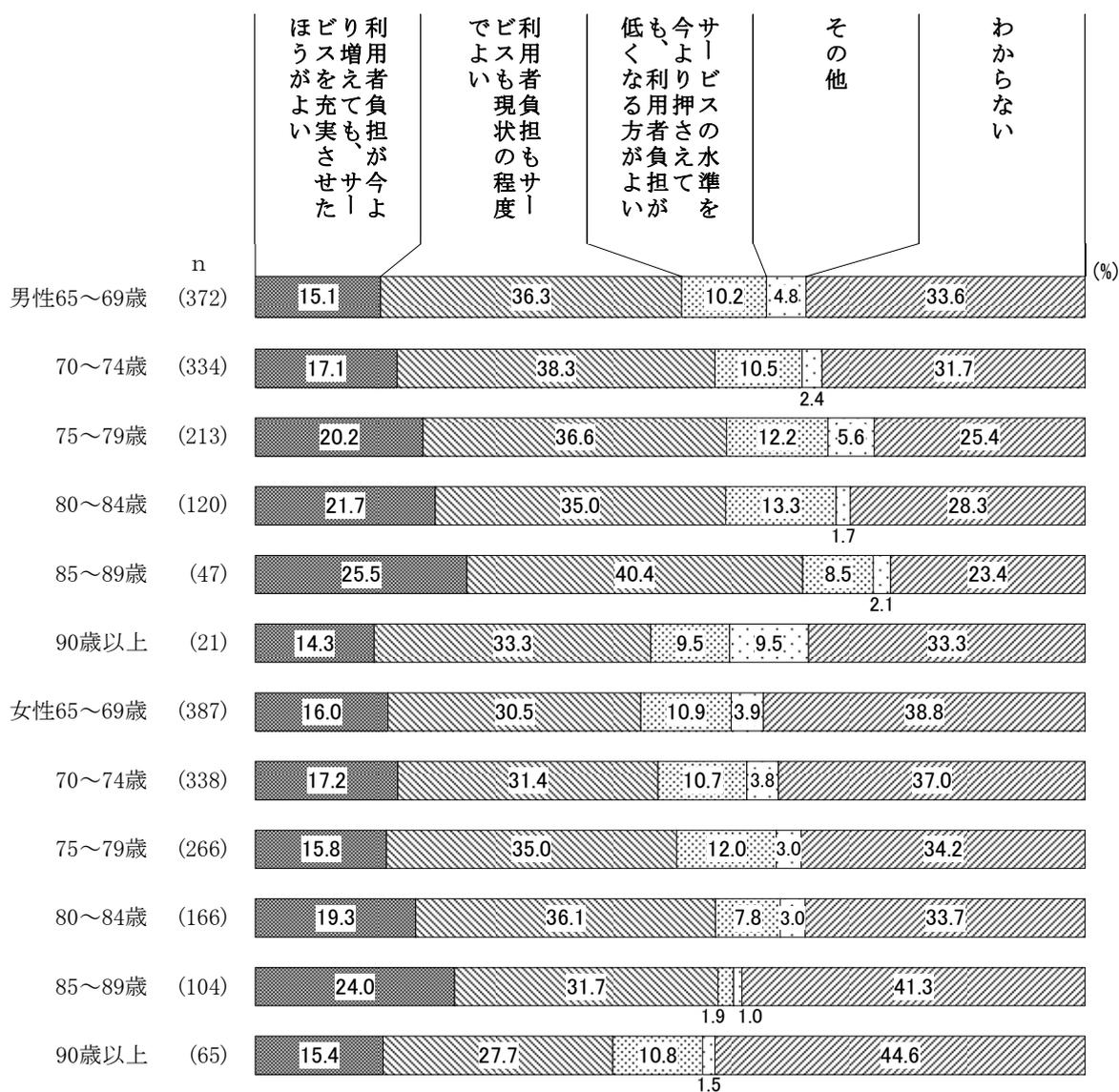
高齢者福祉サービスを利用する際に、一定の利用者負担を支払うことへの考えは、「利用者負担もサービスも現状の程度でよい」が34.4%、「わからない」が34.2%となっており、意見が2分している。

前回調査と比較すると、「利用者負担もサービスも現状の程度でよい」は前回(31.8%)より3ポイント増加した。

第2章 調査結果の詳細

性・年齢別にみると「利用者負担もサービスも現状の程度でよい」は、男性の場合、各年代とも最も多く、女性の場合では75～79歳、80～84歳で最も多くなっている。また、「わからない」は、女性の65～69歳、70～74歳、85歳以上で最も多くなっている。「利用者負担が今より増えても、サービスを充実させたほうがよい」は、男女とも90歳以上を除くと、年齢が高くなるほど、その割合は増加している。

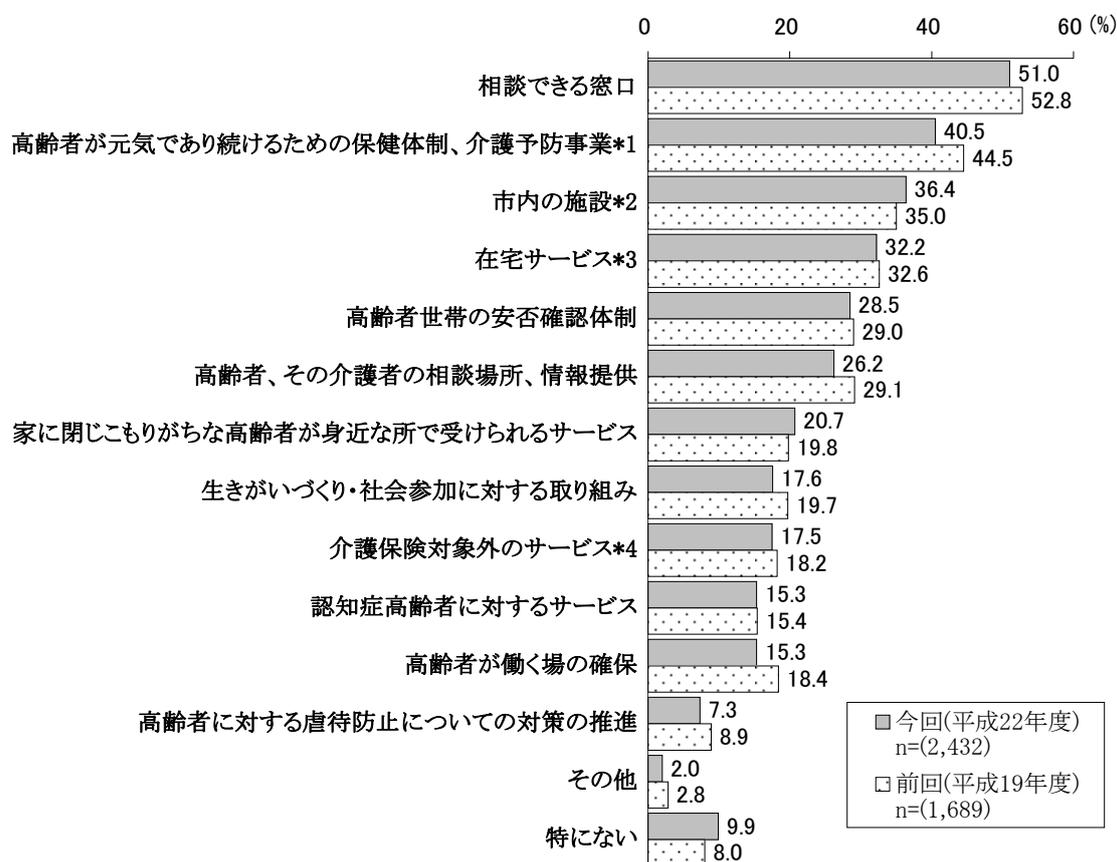
高齢者福祉サービスの利用者負担について（性・年齢別）



(3) 今後充実すべきサービス（複数回答）

問34 あなた（ご本人）は、今後どのようなサービスを充実していく必要があると考えますか。
（あてはまるものすべてに○）

「相談できる窓口」が5割強で最多



- * 1 「高齢者が元気であり続けるための保健体制、介護予防事業」：基本健康診査，生活習慣病対策，寝たきり予防の取り組み
- * 2 「市内の施設」：特別養護老人ホーム，老人保健施設の充実，短期入所（ショートステイ）
- * 3 「在宅サービス」：デイサービス，ホームヘルプサービス
- * 4 「介護保険対象外のサービス」：給食サービス・紙おむつの支給など

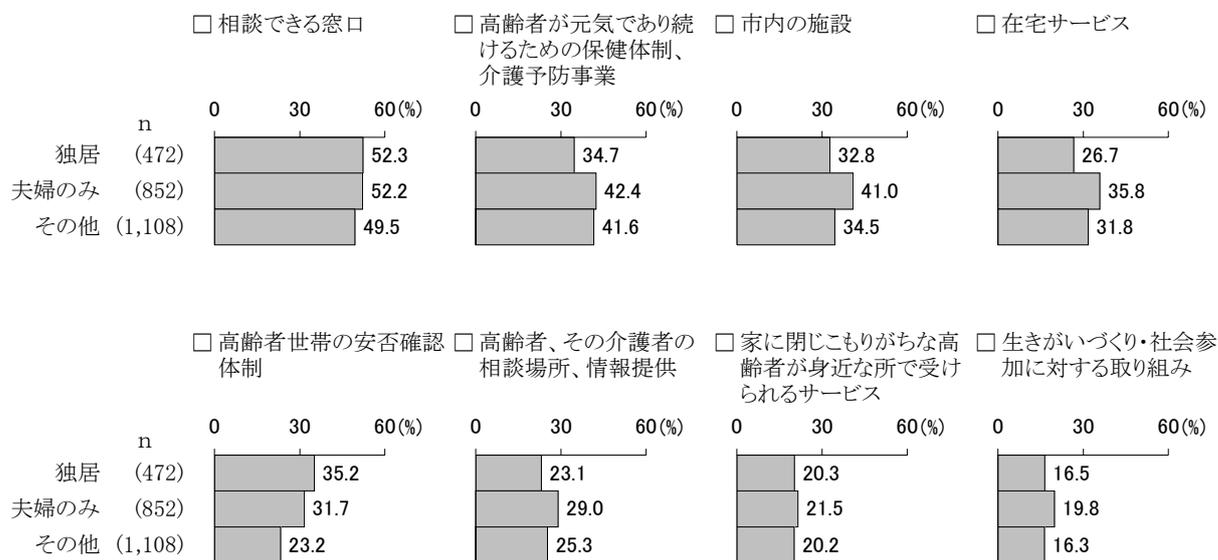
今後、充実すべきサービスは、「相談できる窓口」が51.0%で最も多く、以下、「高齢者が元気であり続けるための保健体制、介護予防事業」（40.5%）、「市内の施設」（36.4%）、「在宅サービス」（32.2%）、「高齢者世帯の安否確認体制」（28.5%）、「高齢者、その介護者の相談場所、情報提供」（26.2%）と続いている。

前回調査と比較すると、「高齢者が元気であり続けるための保健体制、介護予防事業」は前回（44.5%）より4ポイント、「高齢者、その介護者の相談場所、情報提供」や「高齢者が働く場の確保」で前回よりそれぞれ3ポイント減少した。

第2章 調査結果の詳細

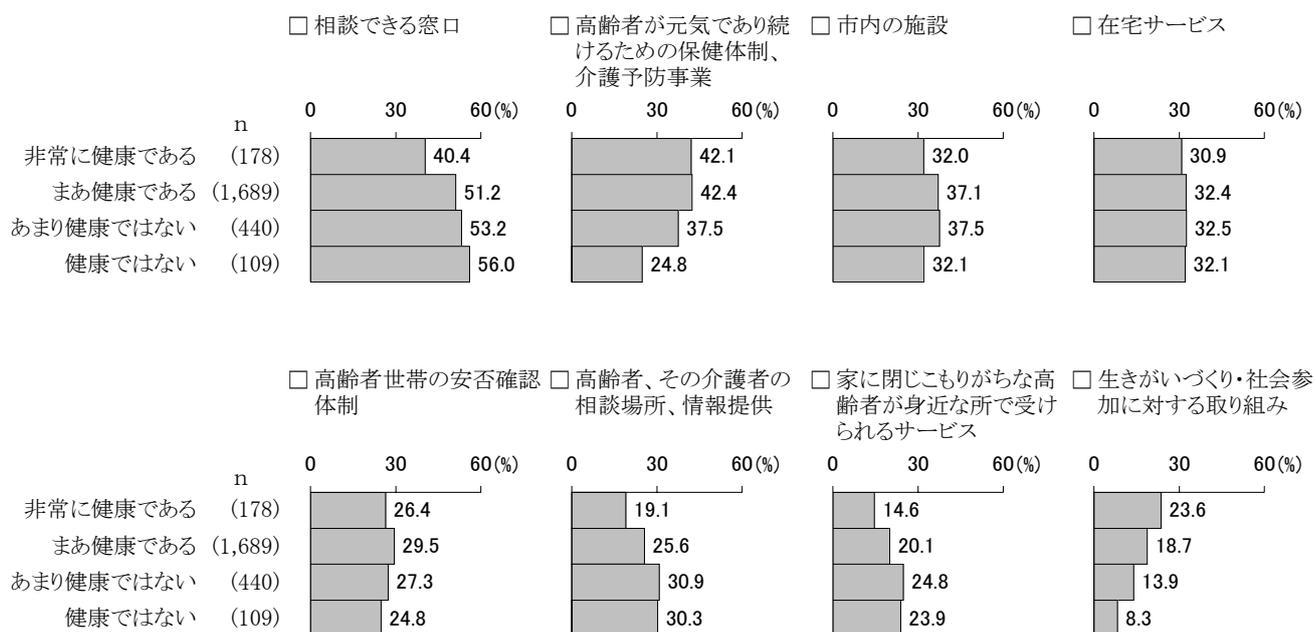
上位8項目について、家族構成別にみると、「相談できる窓口」は独居、夫婦のみで5割以上と多く、「高齢者世帯の安否確認体制」は独居で35.2%と最も多くなっている。また、「高齢者世帯の安否確認体制」以外の7項目については、夫婦のみで比較的多くなっている。

今後充実すべきサービス（家族構成別（上位8項目））



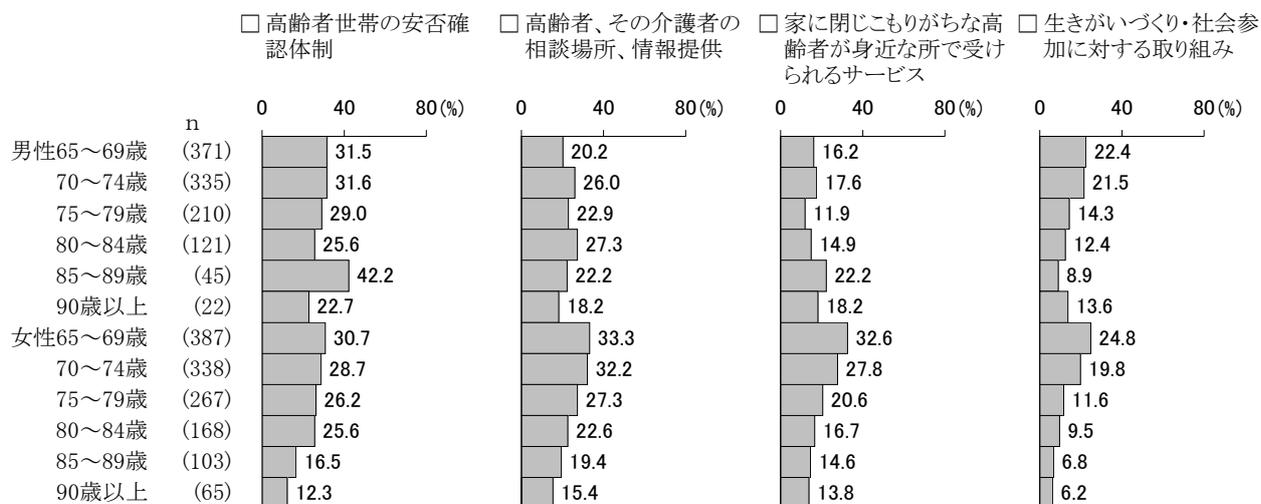
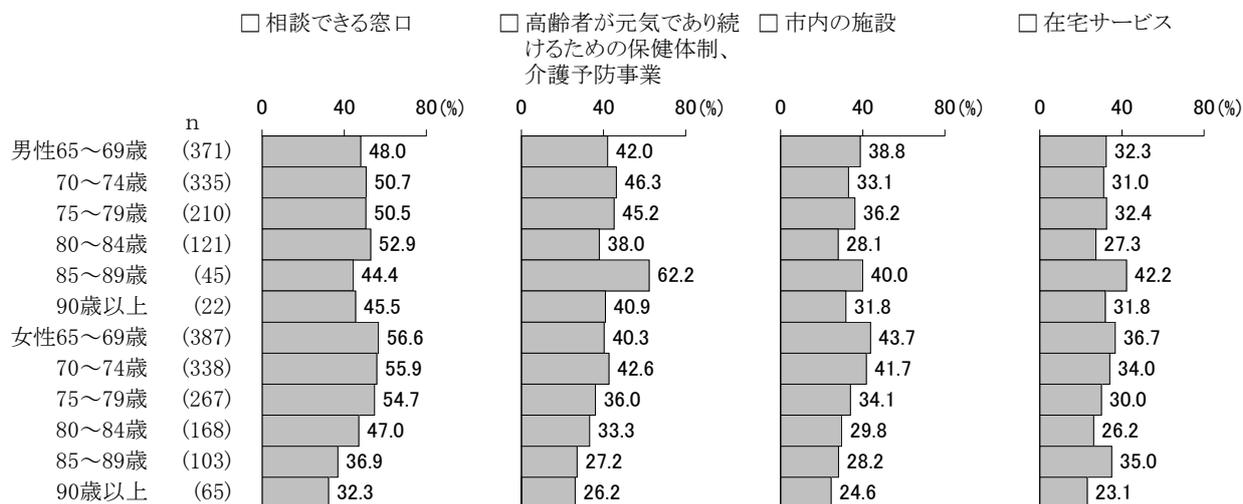
上位8項目について、健康状態別にみると、「相談できる窓口」「高齢者、その介護者の相談場所、情報提供」「家に閉じこもりがちな高齢者が身近な所で受けられるサービス」は、健康状態が悪くなるほど、その割合が多くなっている。また、「高齢者が元気であり続けるための保健体制、介護予防事業」「生きがいがづくり・社会参加に対する取り組み」は健康状態が良い層で、割合が多くなっている。

今後充実すべきサービス（健康状態別（上位8項目））



性・年齢別にみると、「相談できる窓口」は女性の65～79歳の層で特に多くなっている。「高齢者が元気であり続けるための保健体制、介護予防事業」は男性のほうが比較的多くなっている。「市内の施設」は、男性85～89歳、女性の65～74歳で4割台と、比較的多くなっている。

今後充実すべきサービス（性・年齢別（上位8項目））

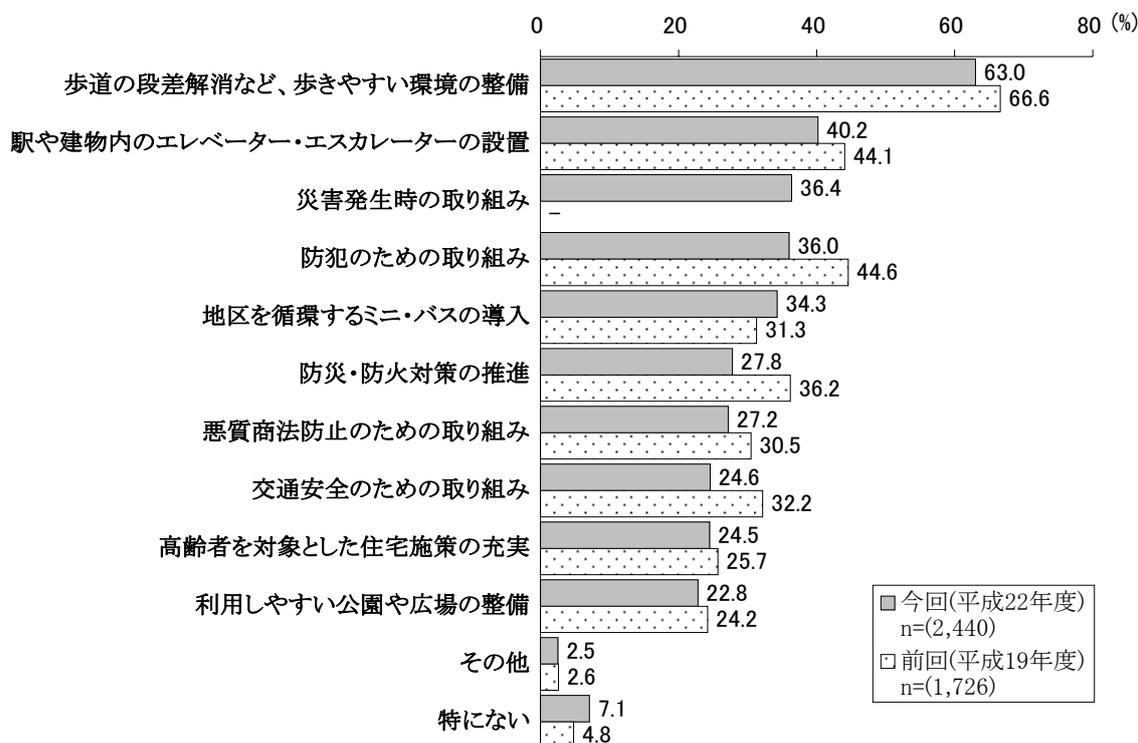


12. まちづくりへの要望について

(1) まちづくりを進める上で必要な施策（複数回答）

問35 あなた(ご本人)は、安全で安心したまちづくりを進めるうえでどのような施策を展開する必要があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「歩道の段差解消など、歩きやすい環境の整備」が6割強で最多



※「災害発生時の取り組み」は今回（平成22年度）から

安全で安心したまちづくりを進めるうえで必要な施策の展開は、「歩道の段差解消など、歩きやすい環境の整備」が63.0%で最も多く、以下、「駅や建物内のエレベーター・エスカレーターの設置」(40.2%)、「災害発生時の取り組み」(36.4%)、「防犯のための取り組み」(36.0%)、「地区を循環するミニ・バスの導入」(34.3%)と続いている。

前回調査と比較すると、「防犯のための取り組み」は前回(44.6%)より9ポイント、「防災・防火対策の推進」(27.8%)は前回(36.2%)より8ポイント、「交通安全のための取り組み」(24.6%)は前回(32.2%)より8ポイント減少し、「地区を循環するミニ・バスの導入」が3ポイント増加した。

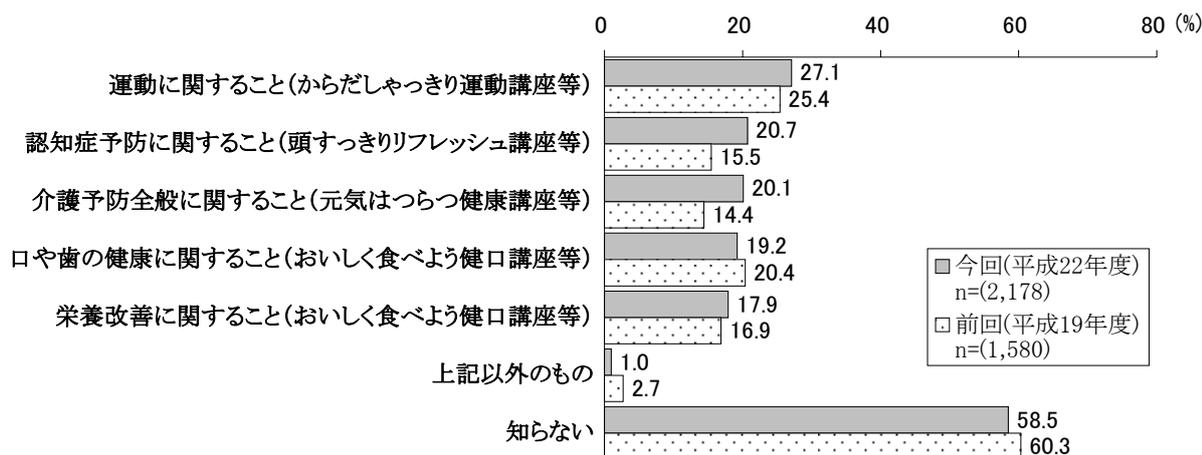
13. 介護予防事業について

(1) 講演会・講座の認知度／参加意向

問36 あなた(ご本人)は、市で実施している介護予防に関する講演会・講座をご存じですか。
また、参加したい(再度、参加したい)講演会・講座はありますか。

運動に関することの認知度が最も高く、参加意向は介護予防、認知症予防、運動の3項目が多い

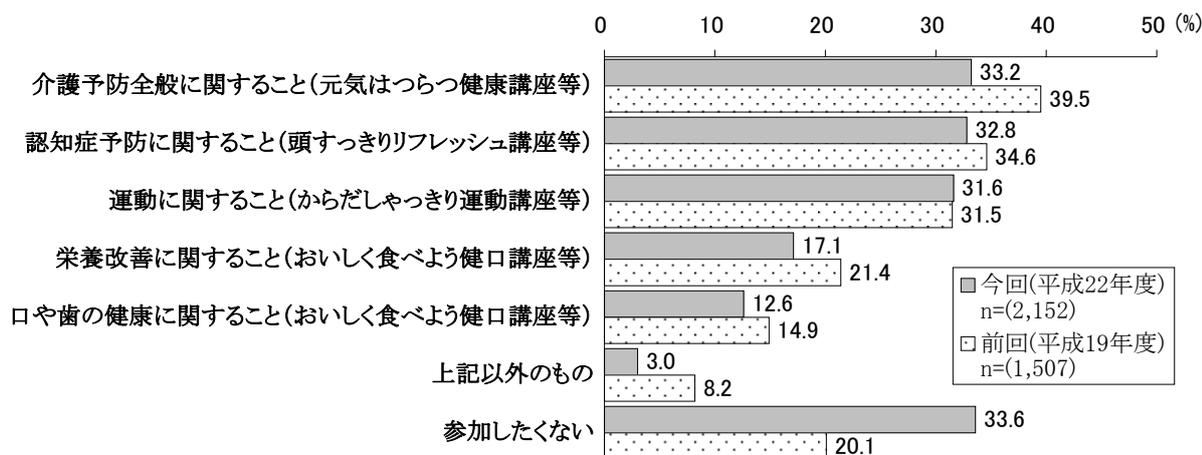
講演会・講座の認知度



介護予防に関する講演会・講座で認知度の高いものは、上位から「運動に関すること(からだしゃっきり運動講座等)」(27.1%)、「認知症予防に関すること(頭すっきりリフレッシュ講座等)」(20.7%)、「介護予防全般に関すること(元気はつらつ健康講座等)」(20.1%)、「口や歯の健康に関すること(おいしく食べよう健口講座等)」(19.2%)と続いている。また、「知らない」は58.5%と多くなっている。

前回調査と比較すると、ほとんどの講座で認知度は増加しており、「介護予防全般に関すること(元気はつらつ健康講座等)」は前回(14.4%)より6ポイント、「認知症予防に関すること(頭すっきりリフレッシュ講座等)」は前回(15.5%)より5ポイント増加した。

参加したい（再度、参加したい）講演会・講座

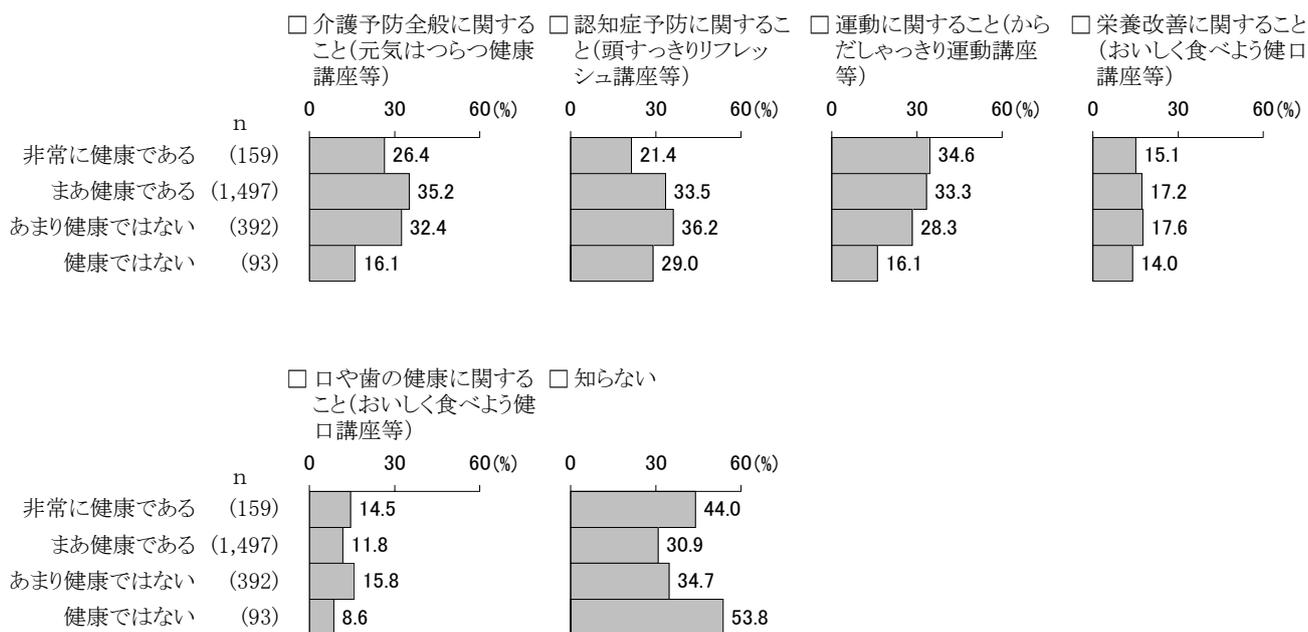


参加したい（再度、参加したい）介護予防に関する講演会・講座は、「介護予防全般に関すること（元気はつらつ健康講座等）」（33.2%）、「認知症予防に関すること（頭すっきりリフレッシュ講座等）」（32.8%）、「運動に関すること（からだしゃっきり運動講座等）」（31.6%）の3項目が3割台で多くなっている。また、「参加したくない」も33.6%と多くなっている。

前回調査と比較すると、「介護予防全般に関すること（元気はつらつ健康講座等）」は前回（39.5%）より6ポイント減少した。また、「参加したくない」は前回（20.1%）より14ポイント増加した。

健康状態別にみると、「介護予防全般に関すること（元気はつらつ健康講座等）」「認知症予防に関すること（頭すっきりリフレッシュ講座等）」はまあ健康である、あまり健康ではないで3割台と多く、「運動に関すること（からだしゃっきり運動講座等）」は非常に健康であるで最多となっている。また、「知らない」は、非常に健康である、健康ではないで比較的多くなっている。

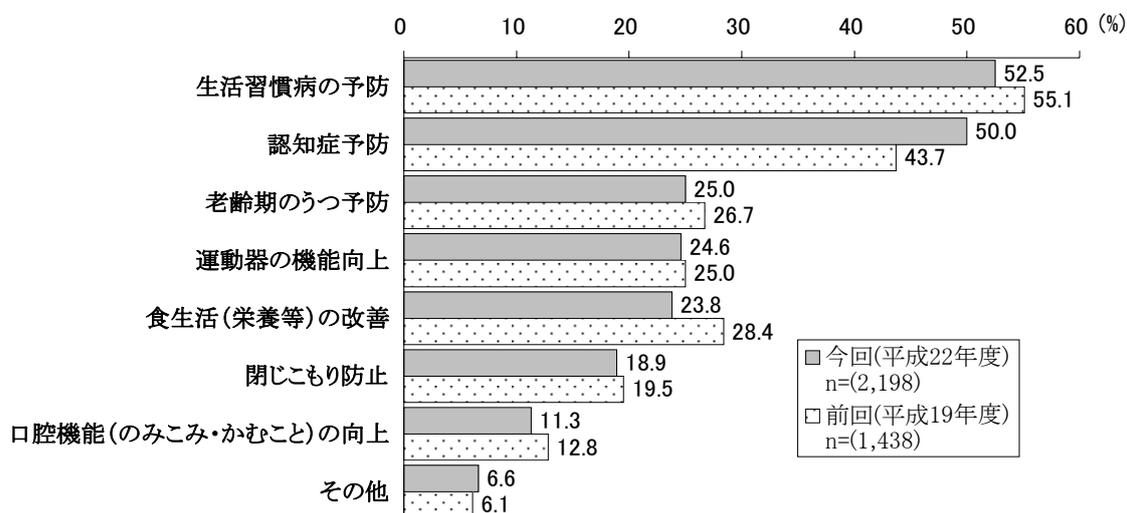
健康状態別 参加したい講演会・講座（上位5項目+「知らない」）



(2) 介護予防に関して力を入れてほしいこと（複数回答）

問37 あなた（ご本人）は、介護予防に関して、今後、市に力を入れてほしいことは何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

「生活習慣病の予防」、「認知症予防」がともに5割強で多い



介護予防に関して、今後、市に力を入れてほしいことは、「生活習慣病の予防」（52.5%）、「認知症予防」（50.0%）の2項目が5割台で多くなっている。

前回調査と比較すると、「認知症予防」は前回（43.7%）より6ポイント増加、「食生活（栄養等）の改善」は前回（28.4%）から5ポイント減少した。

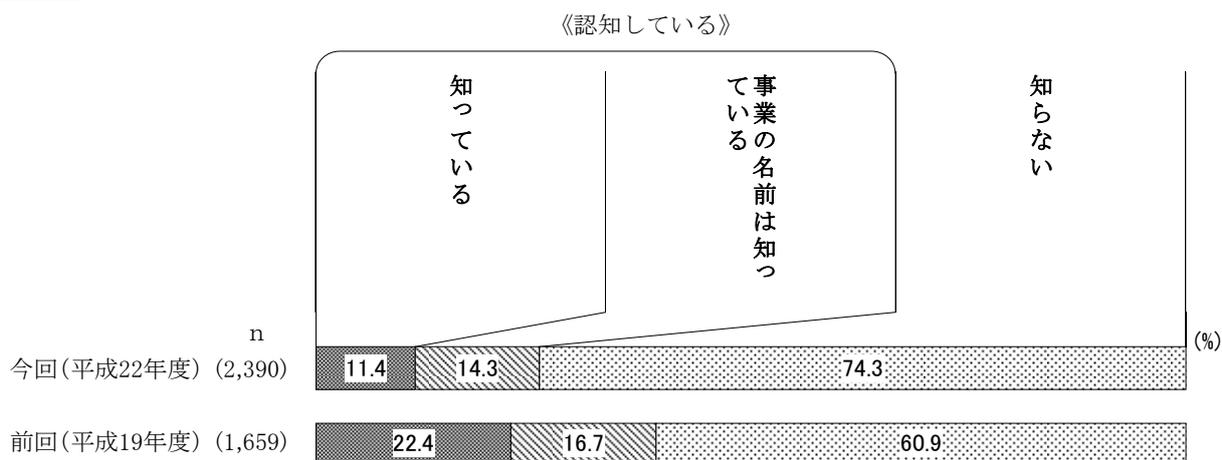
14. 権利擁護について

(1) 日常生活自立支援事業の認知度／今後の利用意向

問38 あなた（ご本人）は、日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）をご存じですか。また、今後、支援が必要な状態になったら、この事業を利用したいと思いますか。

日常生活自立支援事業の認知度、利用意向とも2割台半ば

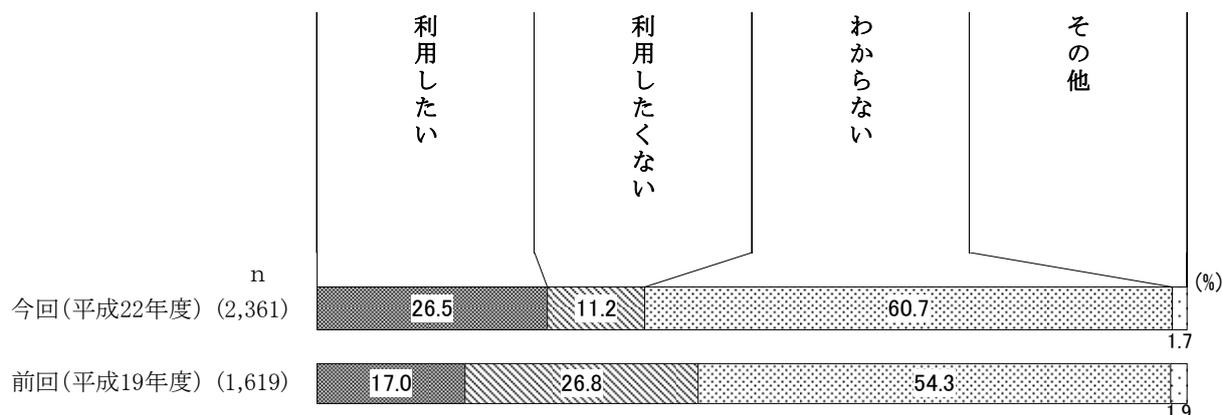
認知度



日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）を「知っている」は11.4%、「事業の名前は知っている」（14.3%）をあわせると、《認知している》割合は全体の25.7%を占める。また、「知らない」は74.3%で最も多くなっている。

前回調査と比較すると、《認知している》割合は前回より（39.1%）は13ポイント減少した。

今後の利用意向

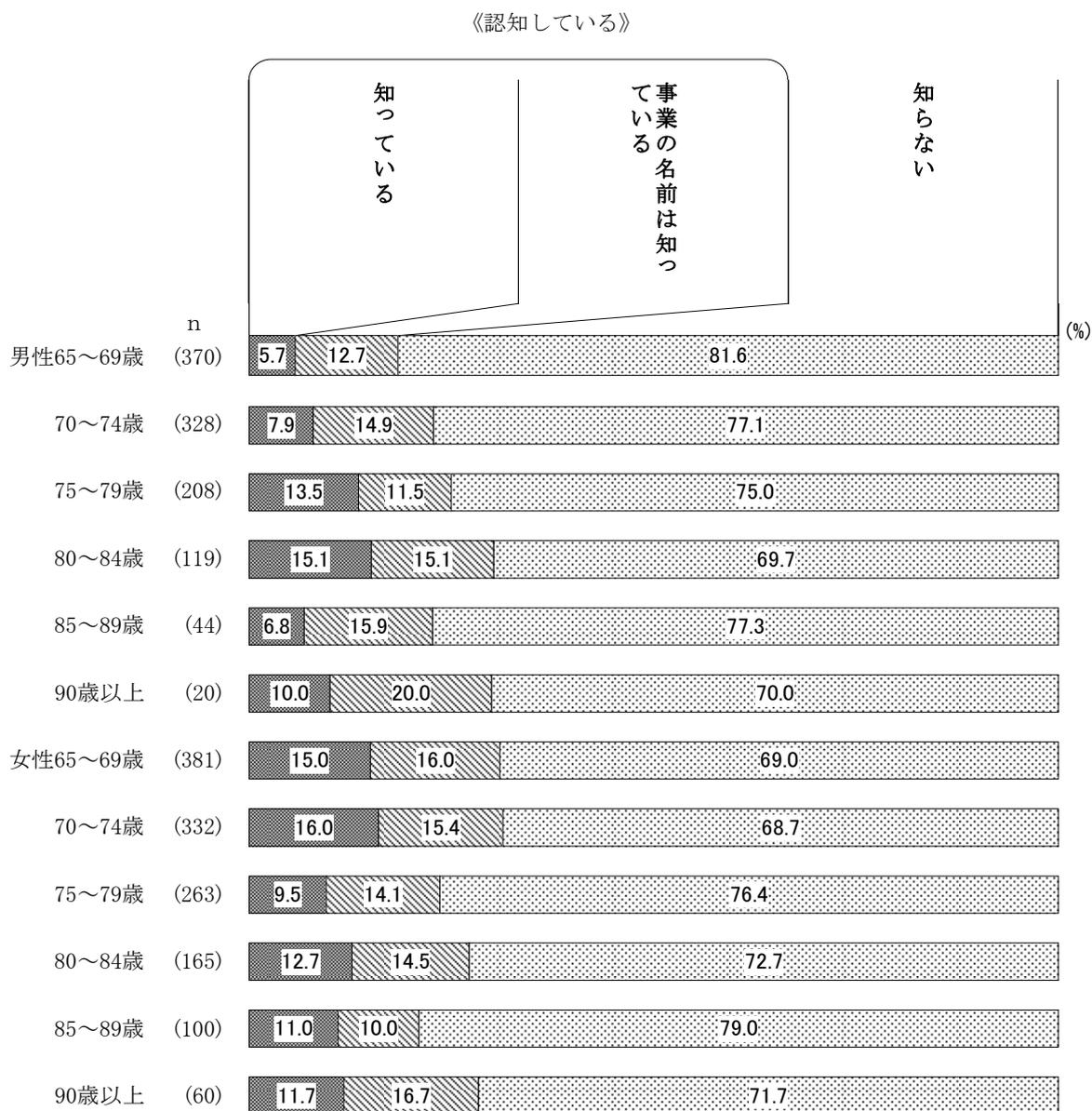


これを今後の利用意向で見ると、「利用したい」は26.5%、「利用したくない」は11.2%となっている。また、「わからない」が60.7%と多くなっている。

前回調査と比較すると、「利用したい」が前回（17.0%）より10ポイント増加した。

認知度について、性・年齢別にみると、男性80～84歳、90歳以上、女性70～74歳、65～69歳で3割台となっている。一方、「知らない」は男女とも多くの年齢で7割以上となっている。

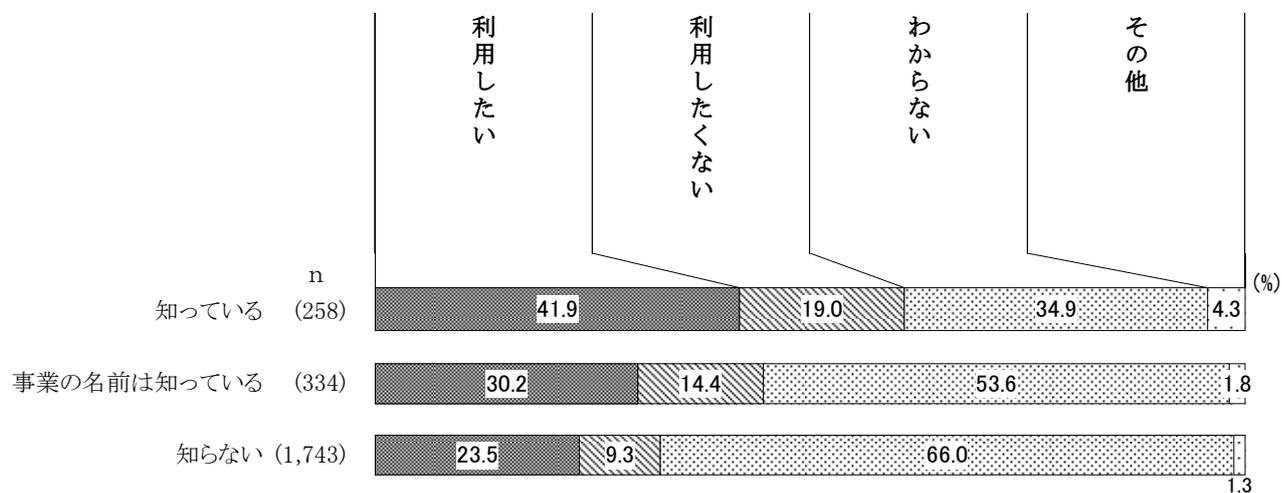
日常生活自立支援事業の認知度（性・年齢別）



第2章 調査結果の詳細

今後の利用意向について、日常生活支援事業の認知度別にみると、認知度が高いほど「利用したい」割合が多くなる傾向がみられる。

日常生活自立支援事業の利用意向（事業の認知度別）

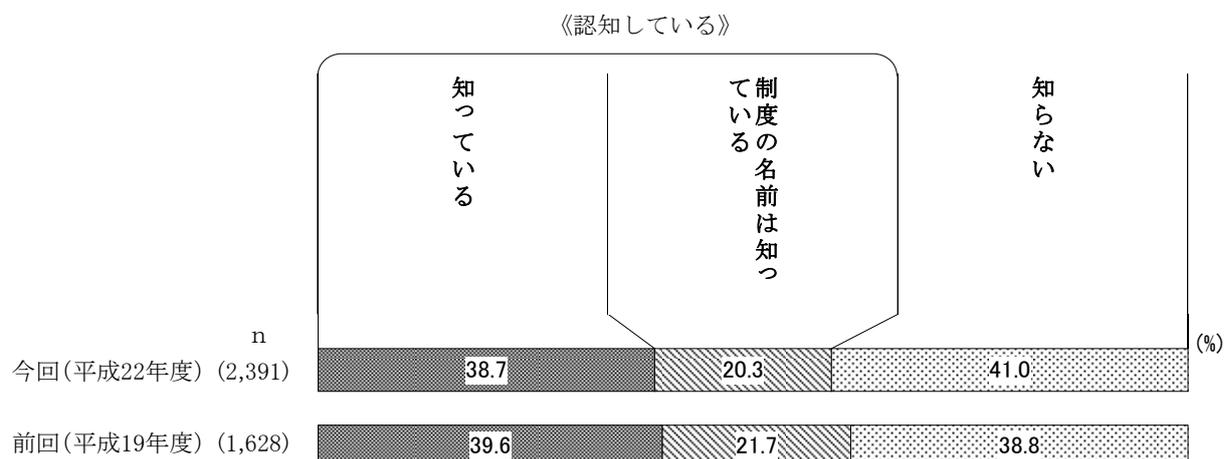


(2) 成年後見制度の認知度／今後の利用意向

問39 あなた（ご本人）は、成年後見制度をご存じですか。また、今後、判断能力が不十分になったとしたら、この制度を利用したいと思いますか。

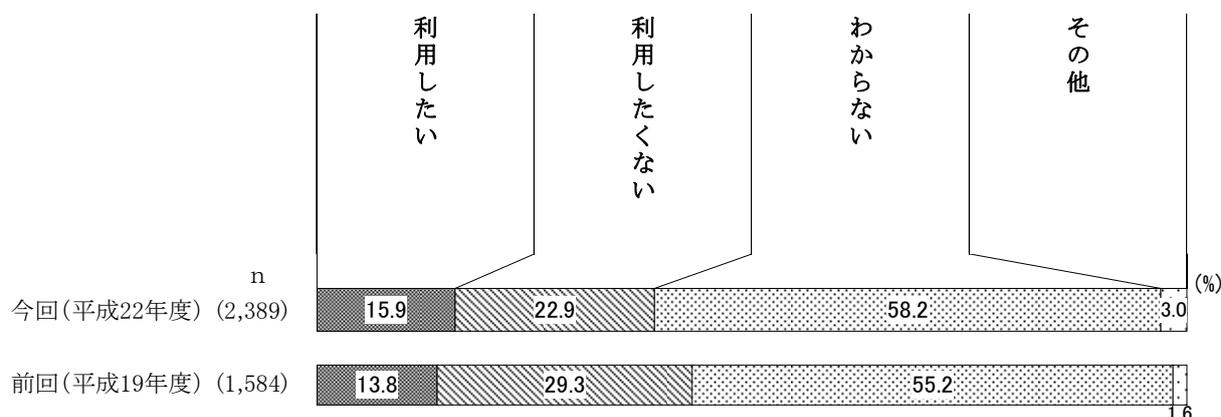
成年後見制度の認知度は6割弱、利用意向は1割台半ば

認知度



成年後見制度を「知っている」は38.7%、「制度の名前は知っている」は20.3%で、両方をあわせると、《認知している》割合は全体の59.0%を占める。また、「知らない」は41.0%で最も多くなっている。

今後の利用意向



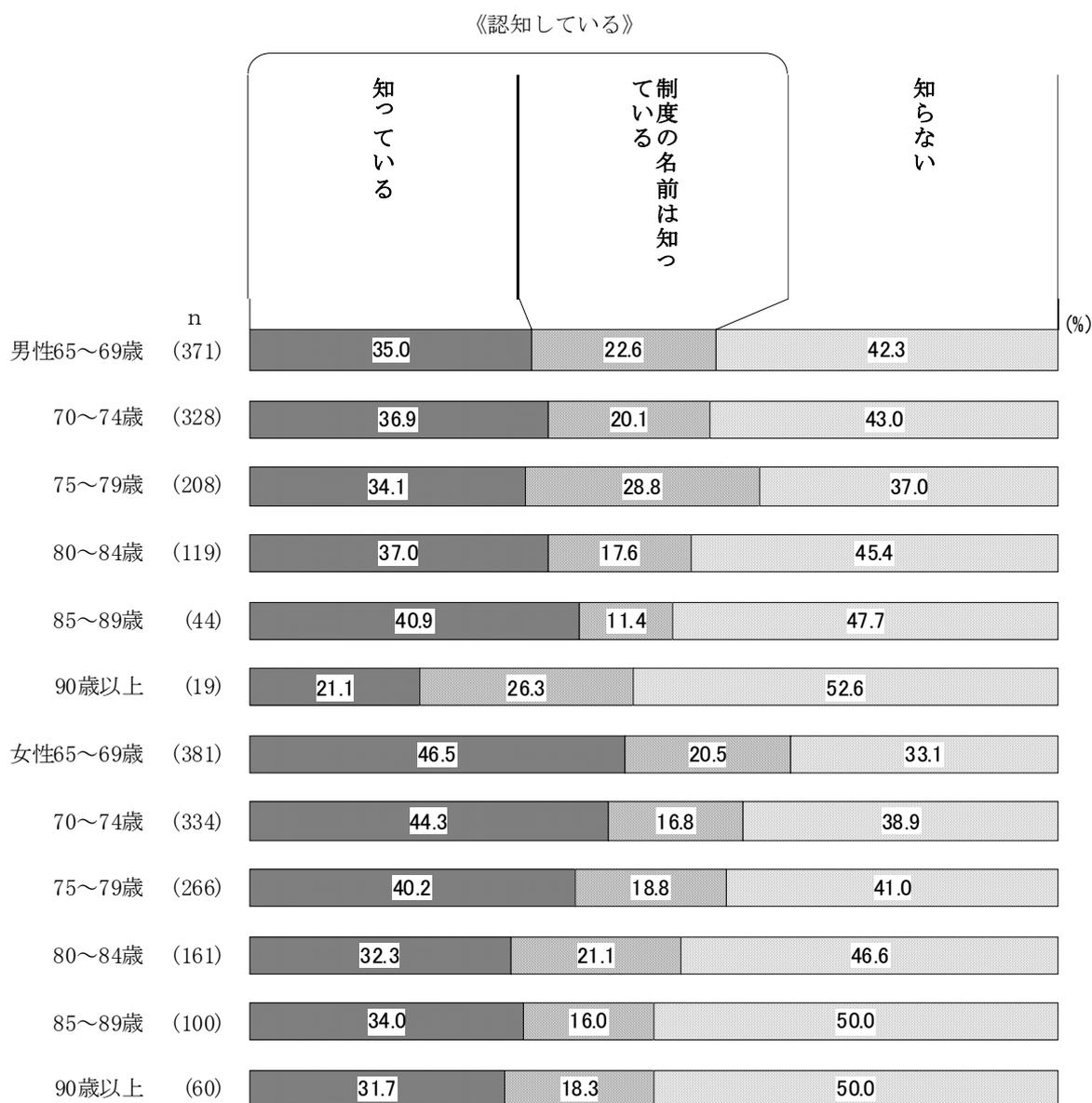
成年後見制度の今後の利用意向は、「わからない」が58.2%で最も多く、「利用したい」は15.9%となっている。

前回調査と比較すると、「利用したくない」は前回（29.3%）より6ポイント減少した。

第2章 調査結果の詳細

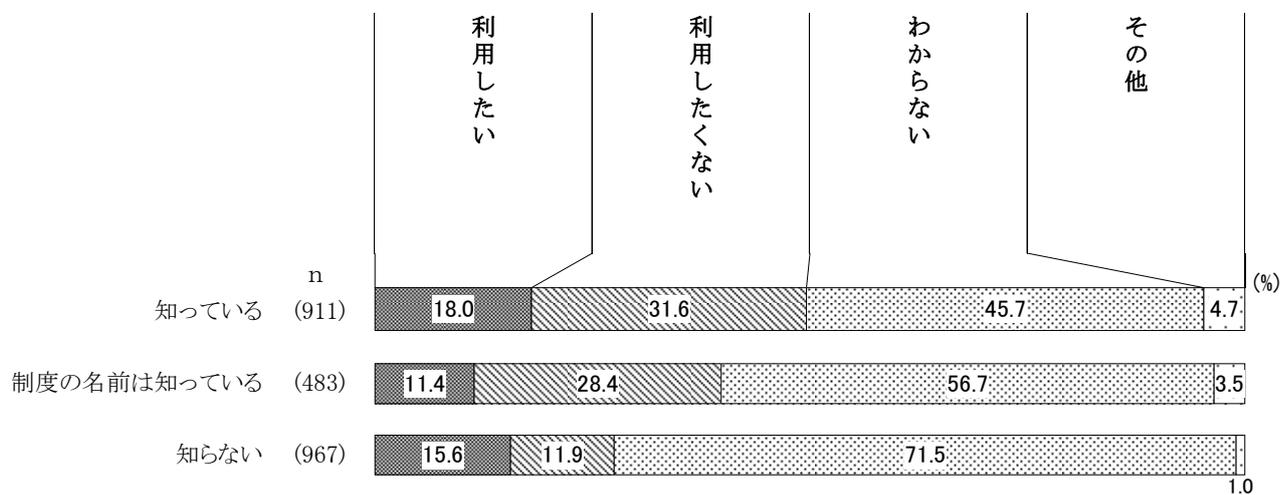
認知度について、性・年齢別にみると、男性90歳以上を除いて男女ともいずれの年齢でも5割を超えており、男性は75～79歳で6割台と多くなっている。女性の場合では65～69歳、女性70～74歳で6割台となっており、年齢が高くなるほどその割合は減少している。一方、「知らない」は女性の85歳以上で5割と多い。

成年後見制度の認知度（性・年齢別）



成年後見制度の今後の利用意向について、成年後見制度の認知度別にみると、「わからない」は認知度が高いほどその割合が少なくなり、「利用したくない」の割合が多くなっている。

成年後見制度の今後の利用意向（事業の認知度別）



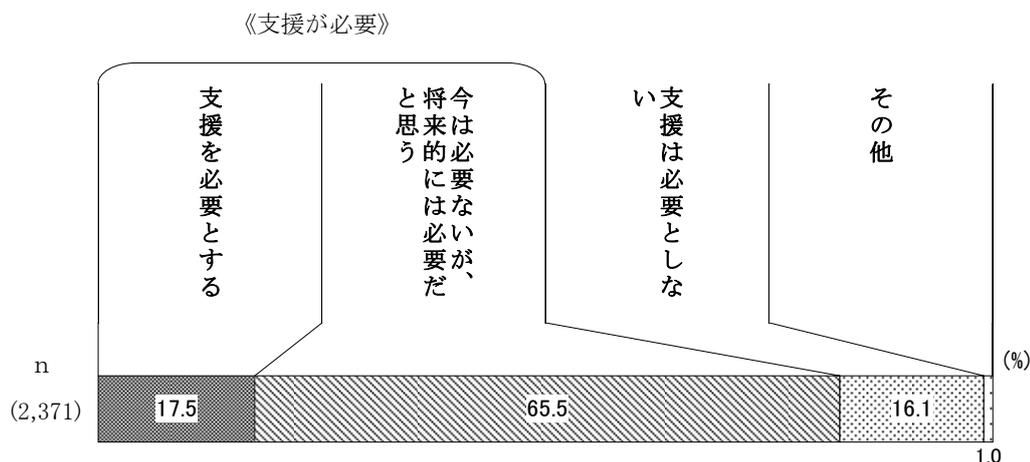
15. 災害時の避難支援について

(1) 災害時の避難支援の必要性

問40 あなた(ご本人)は、地震などの災害時に避難する際、支援を必要としますか。

(1つに○)

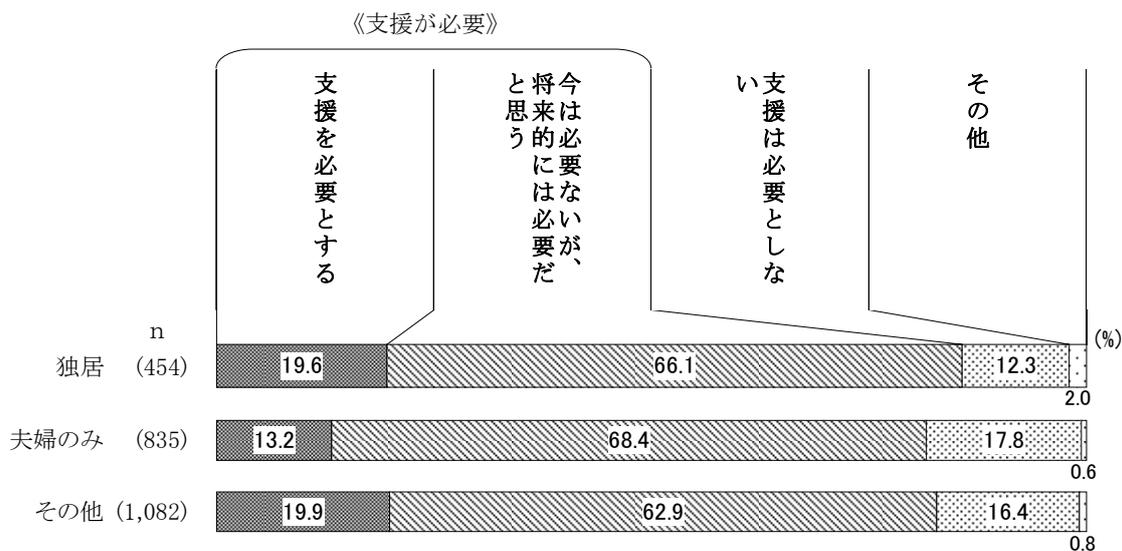
《支援が必要》な層は8割強



地震などの災害時に避難する際に「支援を必要とする」は17.5%、「今はいらないが、将来的には必要だと思ふ」は65.5%となっており、両方をあわせると、《支援が必要》な層は全体の83.0%を占める。

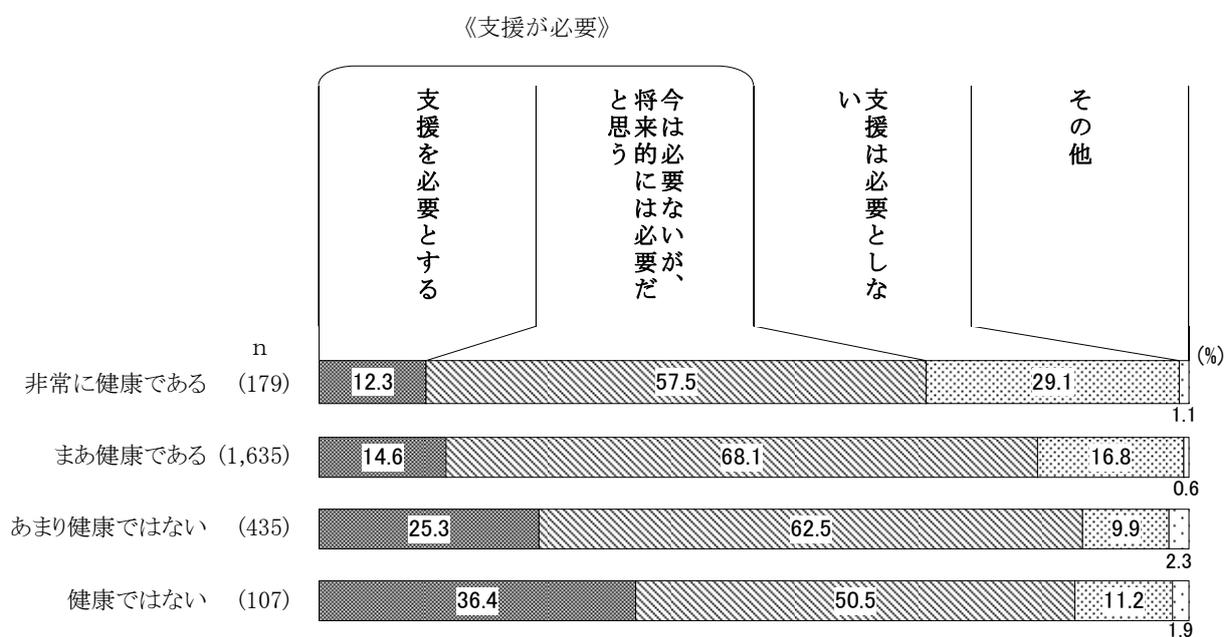
家族構成別にみると、《支援が必要》な層は、独居で85.7%と、他の家族構成に比べて多くなっている。

災害時の避難支援の必要性 (家族構成別)



健康状態別にみると、「支援を必要とする」割合は、健康状態が悪くなるほど、その割合が多くなる傾向がみられる。

災害時の避難支援の必要性（健康状態別）

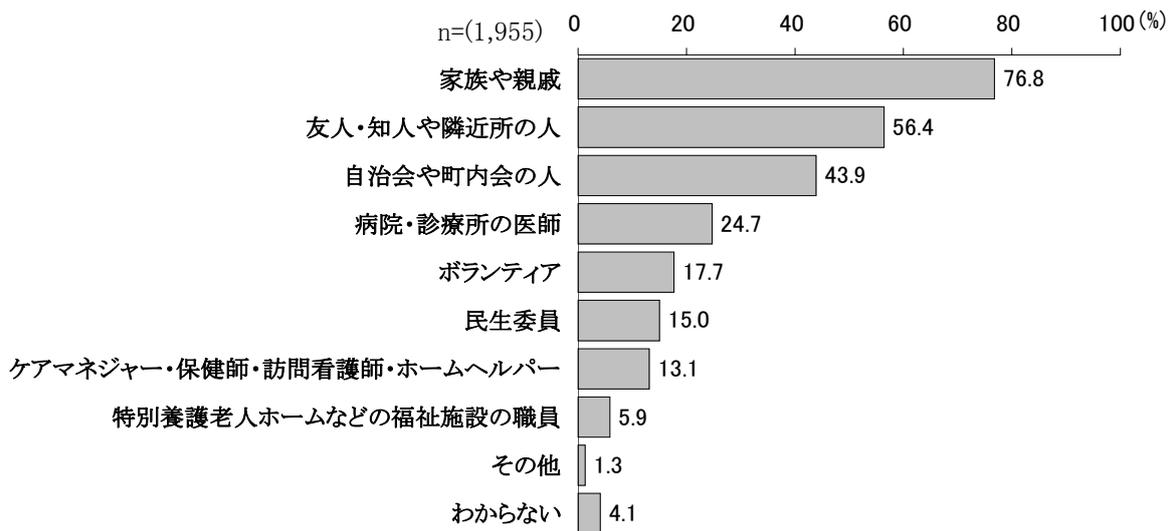


(2) 避難支援してもらいたい相手

《問40で「支援を必要とする」または「今は必要ないが、将来的には必要だと思う」と回答した方のみお答えください》

問40-1 避難支援してもらいたい相手はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

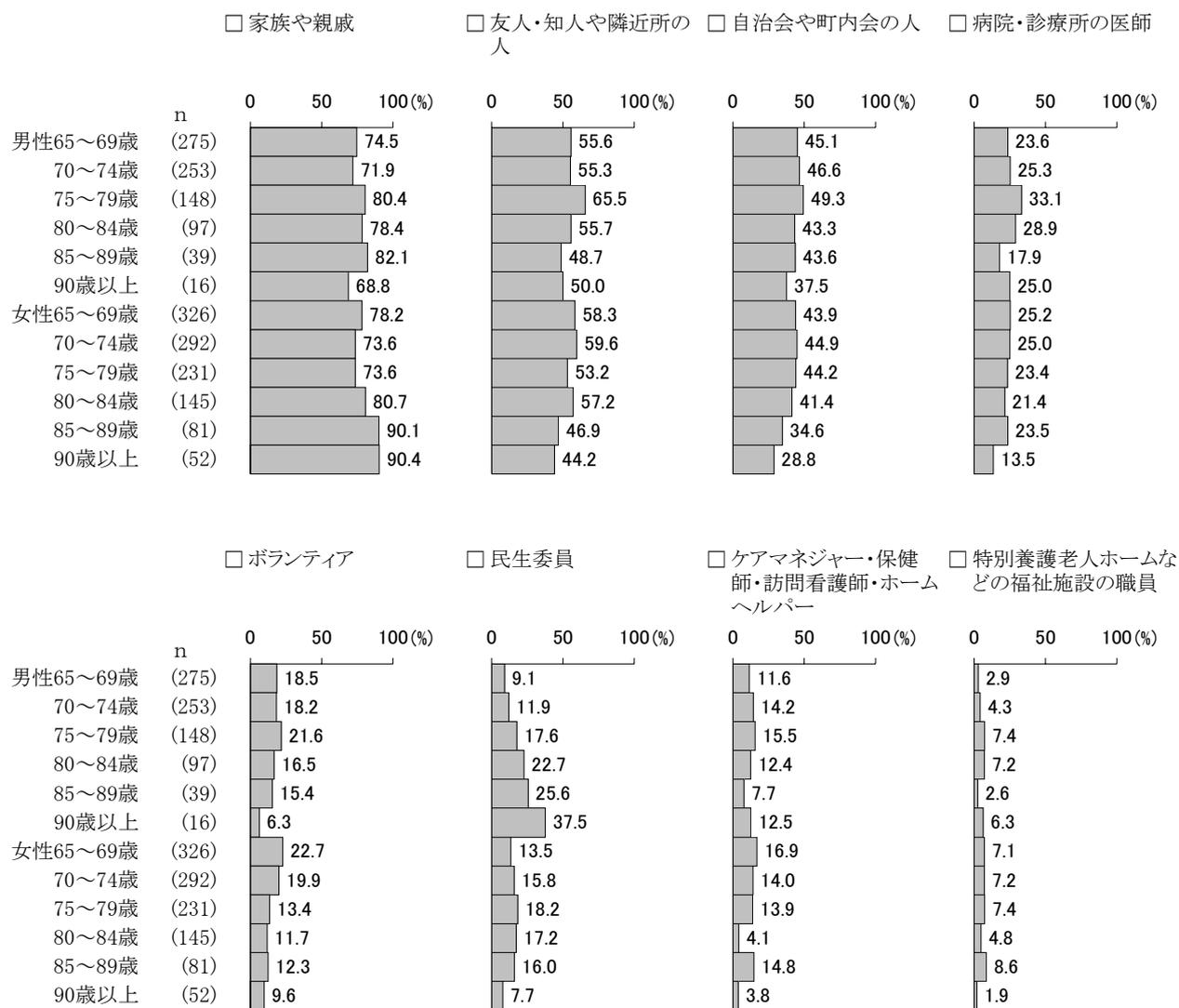
避難支援先の希望は「家族や親戚」「友人・知人や隣近所の人」「自治会や町内会の人」の順



時期を問わず避難支援を必要とする方の支援をしてもらいたい相手は、「家族や親戚」が76.8%で最も多く、以下、「友人・知人や隣近所の人」(56.4%)、「自治会や町内会の人」(43.9%)、「病院・診療所の医師」(24.7%)と続いている。

性・年齢別にみると、「家族や親戚」は多くの年齢で7割以上となっているが、特に女性85歳以上で9割台、男性85～89歳、女性80～84歳で8割台と多くなっている。「病院・診療所の医師」は男性75～79歳で3割台、「ボランティア」は男性75～79歳、女性65～69歳で2割台と他の年齢より多くなっている。

性・年齢別



16. 自由記述

★今後の高齢者保健福祉施策に対して、ご意見があれば、どのようなことでもかまいませんので、ご自由にお書きください。

今後の高齢者保健福祉施策に対して、682人からの回答があった。複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない。記載の多かった事項としては、アンケートについて、街づくりについて、介護予防・健康づくり、介護保険施設整備についての順となっている。

各項目について、主な意見を示す。

項目	件数
アンケートについて	77
街づくりについて	66
介護予防・健康づくりについて	56
介護保険施設整備について	53
サービス・生活支援について	46
将来の不安について	46
介護保険料等について	39
高齢者保健福祉施策について	35
医療体制について	32
相談体制について	27
介護保険制度について	27
交通費の補助について	26
独居高齢者について	26
自治会・町内会・民生委員について	23
ボランティア・社会参加について	23
広報・PRについて	23
住まいについて	20
行政に対する期待等について	19
高齢者の就労について	16
業者・従業員について	15
災害対策について	8
要介護認定について	7

【アンケートについて】・・・77件

今は元気なので実感がない、回答しづらい	18
今後の施策に生かしてほしい	9
このようなアンケートは必要ない	8
調査結果を知らせてほしい	6
アンケートの設問の設定について	6
アンケートを通じて勉強になった	5
このアンケートで自分が高齢者であることを自覚した	5
アンケートで今後の情報も提供してほしい	3
アンケートの調査員について	3
アンケートの実施は良い事だと思う	3
このようなアンケートはありがたい	3
調査内容がわからない	3
文字を大きく読みやすくしてほしい	3
アンケートの対象者を設定し直す	2

【街づくりについて】・・・66件

交通機関を整備してほしい	19
道路を整備してほしい	15
公共施設を整備してほしい	9
公園を整備してほしい	7
高齢者にやさしいまちづくりを進める	6
バリアフリーを進める	5
商業施設を整備してほしい	3
全国的に模範となるようなまちづくりを進める	1
犯罪のないまちづくり	1
市民菜園を整備してほしい	1

【介護予防・健康づくりについて】・・・56件

運動等積極的に自分で取り組む	14
介護予防講座・講演会の充実を図る	8
介護予防に対する情報提供を図る	6
運動施設の整備を進める	6
スポーツサークルを開催する	3
元気な間に何かお手伝いしたい	3
認知症予防を図る	3
ラジオ体操を開催する	3
スポーツジム利用に対して補助金を支給する	3

第2章 調査結果の詳細

介護予防等あまり考えた事がない	2
散歩・ジョギングコースを設定する	2
予防医療に重点を置く	2
生活習慣病予防対策は機能している	1

【介護保険施設整備について】・・・53件

特別養護老人ホームを増やしてほしい	24
安価な施設を増やしてほしい	9
誰もがすぐに入所できる施設を増やしてほしい	8
老人保健施設を増やしてほしい	3
ショートステイを増やしてほしい	3
介護保険施設の入所待ちについて	2
老人福祉センターを増やしてほしい	2
介護保険施設の統計をとる	1
グループホームを増やしてほしい	1
認知症のための施設を増やしてほしい	1

【サービス・生活支援について】・・・46件

様々なサービスの充実を図る	12
食事に関するサービスの充実を図る	4
低コストでよいサービスを受けたい	3
公平にサービスを受けたい	3
安否確認・見守りサービスの充実を図る	3
在宅サービスの時間延長をしてほしい	2
サービスの申請手続きが難しい	2
薬を配達してほしい	2
ショートステイの予約が難しい	2
サービス利用に対して費用を補助してほしい	2
買い物等の支援をしてほしい	2
サービスが高額すぎる	2
どのようなサービスがあるかわからない	1
高齢者生活支援の充実を図る	1
介護サービスが受けられるか不安	1
入浴サービスを利用したい	1
納税額に応じたサービスを提供する	1
デイサービスの時間を延長してほしい	1
住宅改修を利用したい	1

【将来の不安について】・・・46件

健康面・身体面の不安	13
一人になった時の不安	7
金銭面の不安	6
生活面の不安	5
年齢を重ねるごとに不安	4
今後の高齢化社会に対する不安	4
施設入所に対する不安	3
自分の家族に対する不安	2
様々な不安	2

【介護保険料等について】・・・39件

介護保険料が高すぎる	21
保険料を安く抑える	8
健康保険料が高すぎる	3
介護保険料等の計算方法の見直し	3
保険料の使われ方について	2
少ない年金から天引きされている	2

【高齢者保健福祉施策について】・・・35件

高齢者いきいき交流助成券が利用しにくい	6
介護者への支援を図る	5
生活自立支援事業を進める	4
高齢者保健福祉施策はありがたい	2
高齢者が安心した生活を送れるようにしてほしい	2
NPO・ボランティア・民間を活用する	2
高齢者の孤立を防ぐ	2
若者等異世代も含めた施策を展開する	2
行政の肥大化は困る	1
高齢身体障がい者に対する支援を図る	1
高齢者保健福祉施策に正解はない	1
高齢者を大切に扱ってほしい	1
高齢者保健福祉施策は充実している	1
他市の施策も参考にする	1
まだまだ不十分である	1
経済状況を考慮した施策を勧める	1
使いやすいものにしてほしい	1
入院の際の保証人制度を導入する	1

【医療体制について】・・・32件

病院を増やしてほしい	7
医療費・入院費について	6
転院問題を解消してほしい	6
病院施策に力を入れる	3
定期健康診断の充実	3
現在の病院に感謝している	2
病院での対応について	2
かかりつけ医制度の導入を進める	1
開業医の質の向上を図る	1
安楽死制度の導入	1
地域医療の充実を図る	1

【相談体制について】・・・27件

どこに相談したらいいかわからない	8
相談窓口の充実を図る	6
相談窓口の職員の対応について	6
認知症に対する相談について	4
福祉課に聞きたい	2
アドバイス方法を考えてほしい	1

【介護保険制度について】・・・27件

保険料を納めても何の見返りもない	4
必要な時に利用できるようにしてほしい	3
先を見通した制度設計をしてほしい	3
介護保険制度に反対	3
介護保険制度を再考する	2
介護保険を使用していない者に対する特典	2
在宅介護の集中的支援をしてほしい	2
自助努力が基本であり、過度の援助は控える	2
介護保険制度が永続出来るシステム作り	2
介護保険の使われ方と透明性を確保する	1
財産を担保にした支援制度を導入する	1
制度の分かりやすい指標を示す	1
成年後見人制度について	1

【交通費の補助について】・・・26件

交通費割引・補助を進めてほしい	12
ゆめバスカードを復活してほしい	9

タクシー券の利用について	3
交通手段の無料化を図る	2

【独居高齢者について】・・・26件

安否確認・見守り活動の充実を図る	7
緊急通報システムを充実する	5
急病等による孤独死について	3
近所の人との関係について	2
独居高齢者に対して金銭面の援助をしてほしい	2
独居高齢者になってしまった時の不安	2
防犯対策を図る	2
独居高齢者に対するケアの充実を図る	1
無縁社会が蔓延しないための社会づくりを進める	1
老人一覧表を作成する	1

【自治会・町内会・民生委員について】・・・23件

民生委員の活動が活発でない	16
町内会の充実を図る	2
自治会・町内会の意志疎通を図る	2
地域内の情報を把握する	2
老人会等の補助金に対する対応	1
老人会の充実を図る	1

【ボランティア・社会参加について】・・・23件

高齢者のボランティア参加を進める	17
誰でも自由に参加出来る活動を充実する	4
有料ボランティア事業の採用を進める	1
ボランティアポイント制度の採用を進める	1

【広報・PRについて】・・・23件

説明会等周知活動を徹底する	8
パンフレット等資料を配布する	6
広報が入手しにくい	3
事業者情報を周知する	3
市内のことがわからない	1
家の中にいても社会のことがわかるものがほしい	1
手続きの仕方を教えてほしい	1

第2章 調査結果の詳細

【住まいについて】・・・20件

高齢者向け住宅の整備を進めてほしい	5
集合住宅で暮らす高齢者について	3
市営住宅の整備を進めてほしい	3
年金で生活できる公共住宅の整備を進めてほしい	2
経済面で入居が困難である	2
賃貸住宅を存続してほしい	1
公団住宅周辺の整備を進めてほしい	1
マンションの立地が悪い	1
自宅で生活したい	1
保証人制度を導入する	1

【行政に対する期待等について】・・・19件

増税により福祉の充実を図ってほしい	3
人を甘やかす福祉制度は不要	3
いきいきと暮らせる市であってほしい	2
市独自の施策を展開する	2
安心して過ごせるようにしてほしい	2
行政に対して感謝している	2
長期を見据えた計画を進めてほしい	1
健康増進のための施設整備を図ってほしい	1
高齢者に対して減税してほしい	1
生活環境等整った施策をのぞむ	1
保証人制度を導入する	1

【高齢者の就労について】・・・16件

高齢者の就労の場を提供してほしい	11
現在、働いている	2
紹介窓口の設置を進める	2
高齢者の人材バンクの設置を進める	1

【業者・従業員について】・・・15件

従業員の待遇改善を図る	7
従業員の対応について	5
従業員の規律について	2
業者のサービス面の向上を図る	1

【災害対策について】・・・8件

災害についての資料配布をする	3
災害時の近所の助け合いを進める	2
避難場所を設定する	2
地震対策を進める	1

【要介護認定について】・・・7件

認定結果に対して不満がある	3
判定までに時間がかかる	2
公平に認定してほしい	1
要介護認定はどの様に受けるか	1

第2章 調査結果の詳細